参考資料１－１

那珂川水系の流域及び河川の概要

（案）

平成１８年１月２０日

国土交通省　河川局

目　　　　　　次

1. 流域の自然状況

1-1 河川・流域の概要

那珂川は、その源を福島県と栃木県の境界付近に位置する那須岳（標高 1,917m）に発し、栃木県内の那須野ヶ原を南東から南に流れ、余笹川、箒川、武茂川、荒川等を合わせて八溝山地を東流した後、逆川を合わせて茨城県に入り、平地部で南東に流れを変え、緒川、藤井川、桜川を、河口部で涸沼川を合わせて太平洋に注ぐ、幹川流路延長 150km、流域面積 3,270 ㎞^{2}の一級河川である。

その流域は、栃木県・茨城県・福島県 3 県の 12 市 11 町 1 村からなり、流域の土地利用は、山林等が約 75%、水田や畑地等の農地が約 23%、宅地等の市街地が約 2%となっている。

流域内人口は約 91 万人であり、市街地が発達する下流部に人口が多い。

下流部には茨城県水戸市があり、茨城県央地域における社会・経済・文化の基盤を成すとともに、流域内には日光国立公園と８つの県立自然公園が指定される等、豊かな自然環境に恵まれているとともに、様々な水利用が行われており、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。

表 1-1 那珂川水系の概要

項目	諸元	備考
幹川流路延長	150km	全国1級河川109水系中20位
流域面積	3,270km^2	全国1級河川109水系中18位
流域市町村	12市11町1村 （平成17年10月現在）	・茨城県：水戸市、ひたちなか市、那珂市、常陸大宮市、笠間市、鉾田市、友部町、茨城町、城里町、大洗町、岩間町 ・栃木県：那須塩原市、大田原市、さくら市、矢板市、那須烏山市、那須町、茂木町、塩谷町、那珂川町、市貝町、藤原町 ・福島県：白河市、西郷村
支川数	196	

（出典：河川現況調査）

図 1-1 那珂川水系流域図

1-2　地　形

那珂川流域は、北方の那須岳、白河丘陵、東方の八溝山地、南方の喜連川（きつれがわ）丘陵に囲まれた広大な那須の扇状地が上流部に広がり、中流部の県境付近は八溝山地が南北に連なり狭窄部となっており沿川に低地が点在する。下流部では那珂台地と東茨城台地など広大な洪積台地が形成されている。那珂川流域は山地 62.5%、平地 37.5%に区分される。

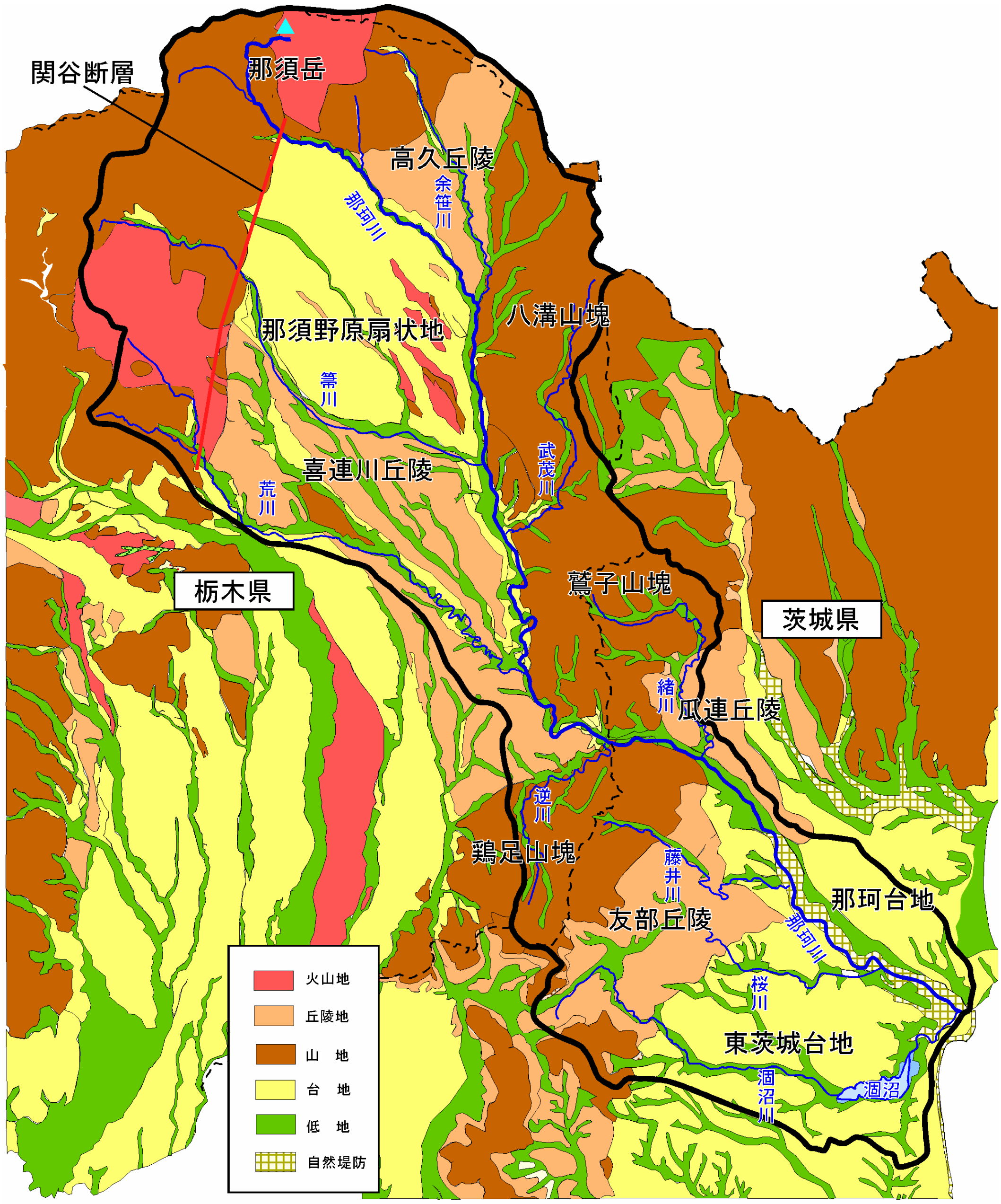


図 1-2　那珂川流域地形分類図

（出典：国土庁土地局国土調査課　土地分類図（08 茨城県・09 栃木県）を基に作成）

1-3　地　質

那珂川流域の地質は、那珂川本川の水源である那須岳周辺は第四紀の火山性堆積物が広く分布し、中流部は八溝山、鷲子（とりのこ）山、鶏足（けいそく）山と続く八溝山地に古生代の堆積岩（砂岩、粘板岩）が分布している。下流部の台地上には関東ローム層が厚く堆積している。

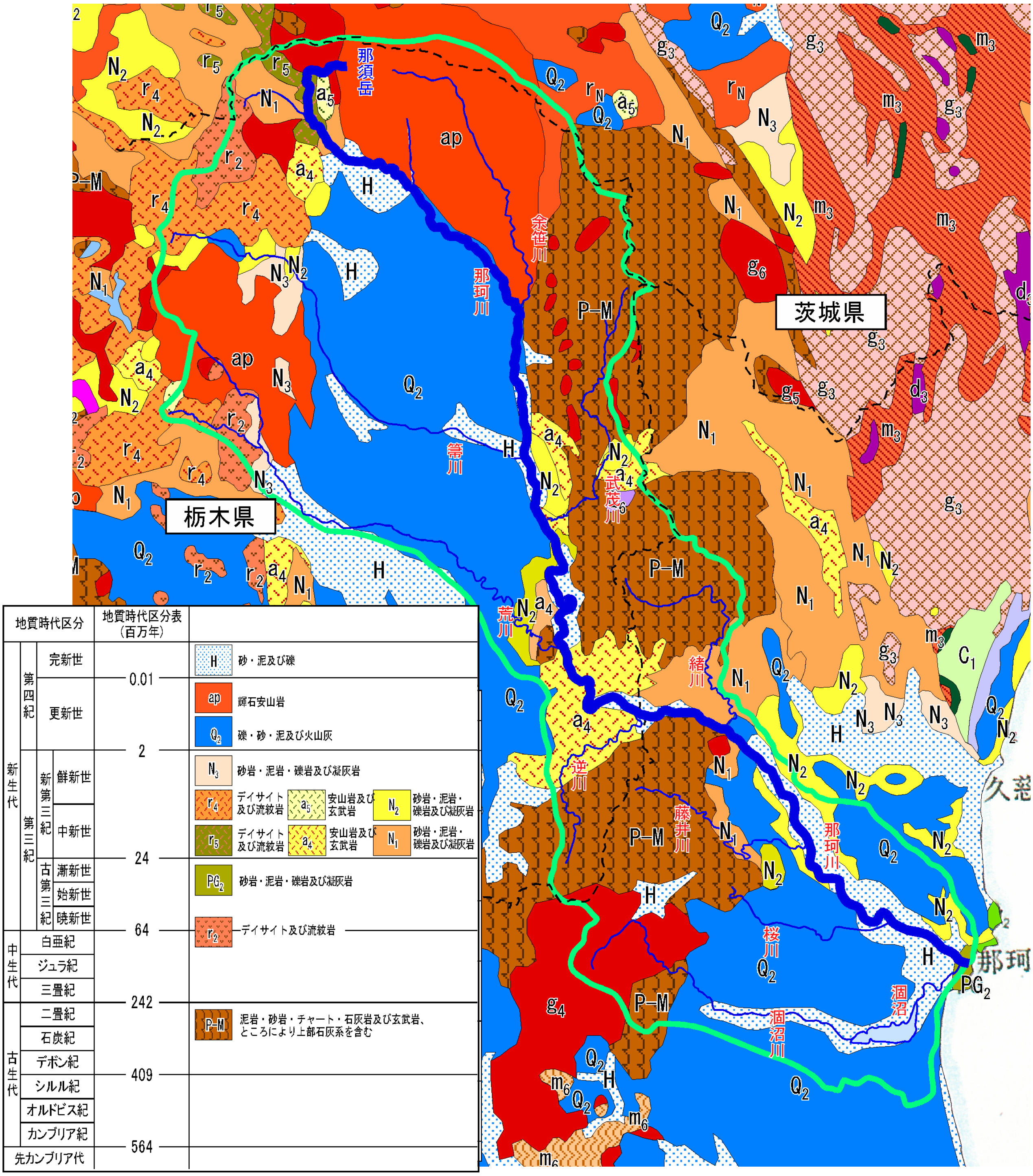


図 1-3　那珂川流域の表層地質図

（通商産業省工業技術院地質調査所：日本地質図大系をもとに作成）

1-4　気候・気象

那珂川流域は､冬は乾燥していて晴天の日が多く年間を通して降水量も少ない太平洋岸気候区に属している。一部を除いて比較的温暖で、また平均年間降水量については、水戸で約 1,300mm､那須で約 2,000mm となっている。

流域内の各地域の気候を見ると、那須岳周辺の源流部は、天候が変わりやすく、夏期の降水量が多く、冬期の寒さが厳しい山岳気候特有の気候を示す。｢那須下ろし｣と呼ばれる冬から春にかけての季節風(からっ風)が強い吹き付ける那須野ヶ原扇状地の地域や八溝山地（八溝山塊、鷲子山塊、鶏足山塊）が南北に走る中流部は、夏期と冬期の寒暖の差が大きく、降水量も少ない。水戸周辺や海岸沿いの下流部は、海流の影響をうけ他の地域と比べ比較的温和である。那珂川流域の気候諸量について表 1-2、図 1-5 に示す。

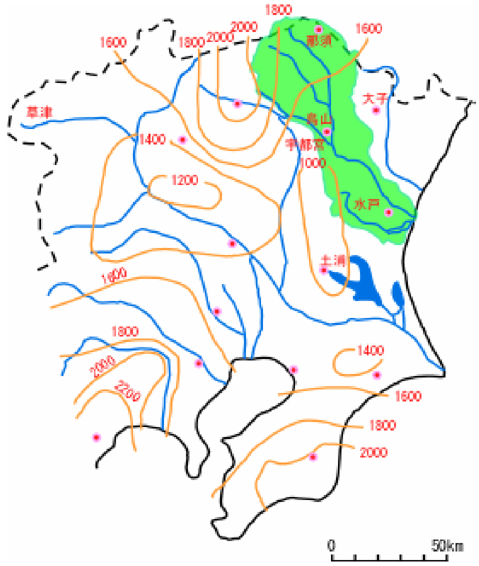


図 1-4　那珂川流域の年平均降水量線図
（出典：常陸河川国道事務所資料）

表 1-2 那珂川流域の月別平均気温・平均降水量（平成 7 年～平成 16 年の 10 ヵ年平均）

	観測所	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
平均気温	水　戸	3.3	3.7	7.1	12.6	16.8	20.0	24.2	25.1	21.8	16.1	10.7	5.3
	烏　山	1.9	2.7	6.1	11.8	16.2	19.6	23.6	24.3	20.8	14.9	9.2	3.9
	大田原	1.8	2.5	5.8	11.7	16.3	19.6	23.5	24.0	20.5	14.8	9.2	4.0
(℃)	那　須	-1.8	-1.5	1.8	8.1	12.9	16.2	20.3	20.7	17.1	11.4	6.3	1.1
平均降水量	水　戸	58.2	32.5	94.2	102.5	149.9	132.2	132.4	91.2	171.8	109.9	70.3	31
	烏　山	42.95	24.45	91.95	103.6	155.9	142.8	206.6	137.9	197.4	149.4	77.7	29.15
	大田原	47.9	20.7	89.7	105.8	150.2	169.9	239.3	250.5	211.6	142	83	26.1
(mm)	那　須	61.7	25.9	111.4	120.4	208.3	220.9	309.2	349.2	289.8	166.3	101.5	37.5

（出典：気象庁　気象統計情報 HP を基に作成）

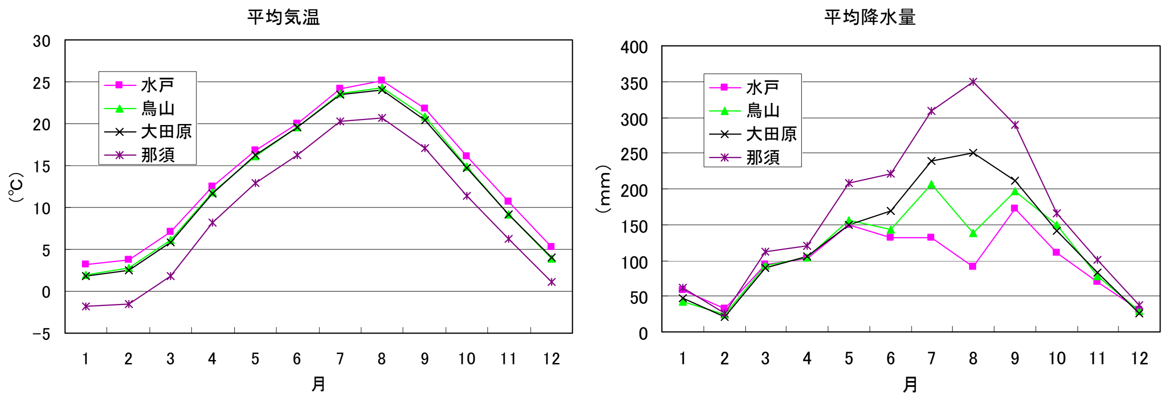


図 1-5　那珂川流域の月別平均気温・平均降水量（平成 7 年～平成 16 年の 10 ヵ年平均）

2.　流域及び河川の自然環境

2-1　流域の自然環境

那珂川はその源を那須火山帯に属する那須岳とする。那須岳周辺は日光国立公園に指定され、ニッコウキスゲ等の高山植物やクロサンショウウオがみられる沼原湿原を有し、山麓にはミズナラやブナの天然林が分布している。

上流域の那珂川と箒川に挟まれた一帯は那須野ヶ原と呼ばれ、大規模な複合扇状地が形成されており、扇状地中央付近までは地下水面が深く、河川は流れる水が伏流し、水無川となる。扇状地の下流域では、多くの湧水地が見られ、良好な水質に生息する生物がみられるなど、特徴的な水域の生物相を育んでいる。

中流域の八溝山地が南北に連なり、那珂川が八溝山地の西麓を流れる区間には谷底平野の河岸段丘が発達し、周囲は水田の多い地域となっている。さらに下流の崖地に挟まれ、狭窄した山間部は、那珂川周辺が八溝、那珂川、御前山県立自然光公園に指定されており、那珂川の砂礫河原と斜面林からなる多様な環境が形成され、多種の植物や鳥類をみることができる。

下流域は那珂台地と東茨城台地など広大な洪積台地が形成され、その間の肥沃な沖積平野では市街地や耕作地が広がり開発が進んでいるが、汽水性生物の重要な生息場である涸沼・涸沼川の自然環境や、沿川には水戸、大洗県立自然公園があり、豊かな自然環境が残されている。

那珂川は地形条件により大きく 6 つに分けることができる。まず、活火山である那須岳から那須野ヶ原扇状地上流端までの「源流区間」、その下流の箒川が合流するまでの「那須野ヶ原扇状地区間」、八溝山地に沿って南下する「山間区間」と八溝山地を横断し両岸が崖地となっている「狭窄区間」、その下流、瓜連丘陵や友部丘陵等の台地や丘陵地の間を河岸段丘を形成して流れる「台地・丘陵地区間」及び最下流の自然堤防が発達する「自然堤防区間」である。

那珂川の河床勾配は、下流の感潮区間では 1/7,000～1/4,000 と緩勾配であるが、その上流は 1/700 から 1/300 以上の急勾配となっている。

那珂川を上流部、中流部、下流部に分け、各区間ごとの河川及びその周辺の自然環境について示す。

- **上流部：源流区間、那須野ヶ原扇状地区間**
- **中流部：山間区間、狭窄区間、台地・丘陵地区間、**
- **下流部：自然堤防区間**

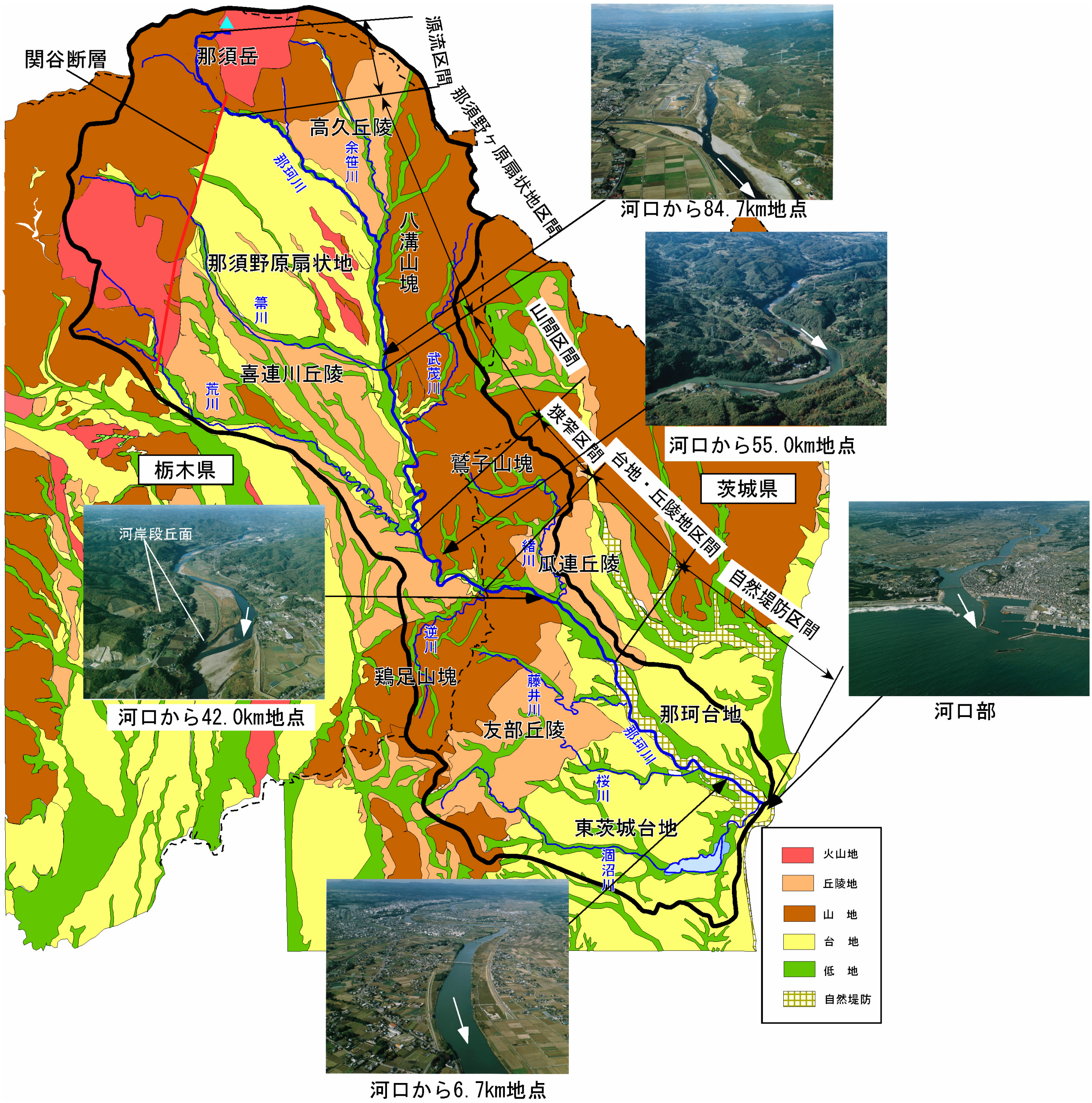


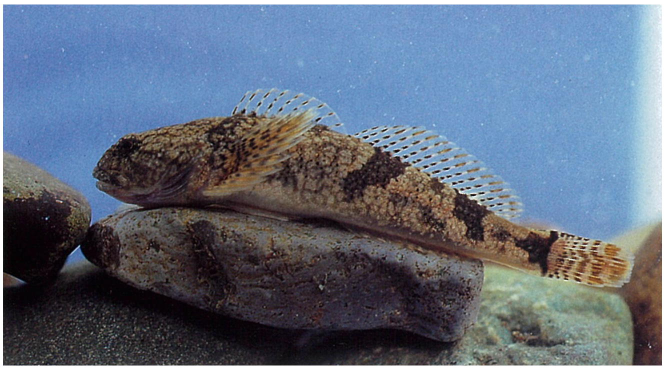
図 2-1　那珂川流域地形分類図

（出典：国土庁　土地分類図（08 茨城県・09 栃木県）を基に作成）

2-2　河川及び周辺の自然環境

(1)　上流部（源流区間、那須野ヶ原扇状地区間）

那珂川の上流部の那須火山帯は、日光国立公園に指定されており、落葉広葉樹林であるブナ・ミズナラが広がり、渓谷にはイワナ・カジカ等が生息する。



カジカ（カジカ科）
山間の渓流に生息し、比較的大きな石の下にある、身を隠すことが出来る空間が確保できる環境を好む。那珂川上流域に生息するのは河川陸封型の大型卵の種である
（写真：リバーフロント整備センター　フィールド総合図鑑　川の生物）

▲新緑のブナ林

那珂川が流れる複合扇状地である那須野ヶ原の中央から下流にかけては、数多くの湧水が見られ、そこから流れ出る清流の小川や支川には、天然記念物のミヤコタナゴやイトヨ等が生息し、生物の良好な生息環境となっている。

ミヤコタナゴ（コイ科）
丘陵地や扇状地周辺の湧水を起源とする水田地帯を流下する細流に生息する。
かつては多く生息していたが、現在では絶滅の危機に瀕している。
国指定天然記念物で、流域には生息地保護区がある。
（写真：大田原市観光協会 HP）

イトヨ（トゲウオ科）
丘流れのゆるやかな泥土質の場所及び水性植物の根茎部に、ちくわ型の巣をつくる。産卵が終わると巣の片方に蓋をして雄は外敵を監視し、背の鋭い 3 本の鋭いトゲを立て、巣の周りを警戒する。
那珂川流域に生息するイトヨは陸封型で、大田原市の生息地は、市の天然記念物に指定されている。
（写真：山と渓谷社　日本の淡水魚）

(2)　中流部（山間区間、狭窄区間、台地・丘陵地区間）

那珂川町から城里町に至る中流部は、数段の河岸段丘が発達した谷底平野を流れ、山間の深い谷を流下し、那珂川の清流とともに、那珂川および御前山県立自然公園に指定され、新緑･紅葉と豊かな自然景観を呈し、比較的手つかずの自然が残る礫河原と崖地の特徴的な風景を形成している。

崖地には斜面林であるシラカシ・クヌギが分布し、ヤマセミが生息するとともに、礫河原にはカワラニガナ等の植物やカワラバッタ、イカルチドリなどが見られる。

カワラニガナ（キク科）
河原の礫地に生える多年草で、大きさは 15～30ｃｍまで成長。2ｃｍ程度の淡黄色の花が８～９月に開花する。。

イカルチドリ（チドリ科）
川の中流より上の砂礫の川原や中州に生息し、冬期には水田などにも現れる。主に砂利の多い河原で繁殖し、特に中流域の礫の多いところを好む。

カワラバッタ（バッタ科）
後羽の内側が鮮やかな青色をしている美しい種。大きな河川の砂礫地に生息し、体色は周囲の砂礫の色と見分けがつきにくい保護色となっている。近年河原の草地化により全国的に急激に減少してきている。

この区間は良好な水質を維持しているため､きれいな流水にすむスナヤツメ等の魚類や水生昆虫が生息し､大小の礫からなる河床と蛇行した流れが生み出した連続する瀬・淵は、全国でも有数のアユ・サケの産卵・生息場所となっている。

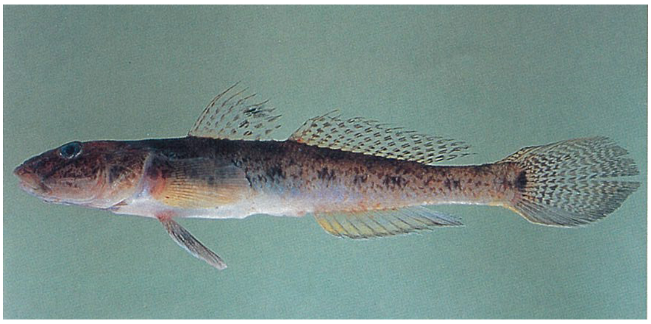
▲中流部の瀬・淵（茂木町）

スナヤツメ（ヤツメウナギ科）
一生を淡水で過ごし、主の中流域から上流域にかけて生息するほか、丘陵地の湧水を水源にする細粒で見られる。
（写真：リバーフロント整備センター
フィールド総合図鑑　川の生物）

(3)　下流部（自然堤防区間）

那珂市から河口に至る下流部は、平野部を流れながら川幅を広げ、高水敷にはオギ・ヨシ群落が分布し、水域には、ウグイ・オイカワ等の淡水魚の他、ボラ・スズキ・マハゼ等の汽水性の魚類が多く生息するとともに、冬場は越冬のため飛来するカモ類が見られる。

シノリガモ（カモ科）
冬鳥として岩礁のある波の荒い海岸周辺で見られる。冬期には貝類や甲殻類を食べる。
（写真：茨城県版　レッドデータブック）



マハゼ（ハゼ科）
河口やその付近の内湾沿岸の砂泥底に棲む。夏から秋にかけては浅瀬にいて、秋が深まると深みに移動する。古くから食用に漁獲される。
（写真：リバーフロント整備センター
フィールド総合図鑑　川の生物）

河口付近で那珂川に合流する支川涸沼川は、汽水環境が形成され、水産資源となるヤマトシジミ等が生息するとともに、涸沼周辺のヨシ群落には、ヒヌマイトトンボが生息し、ヒヌマイトトンボの命名の地として知られている。

▲涸沼川周辺の湿地環境（大洗町）

ヒヌマイトトンボ（イトトンボ科）
1971 年に涸沼沿岸で発見された。
幼虫期には海水が流入する河川や湖沼の沿岸部のヨシ群落に出来る浅い水溜りに生息し、成虫になるとヨシやイグサ類などの群落内の狭い空間を低く飛ぶ。
生息数は減少傾向にある。
（写真：茨城町ＨＰ）

(4)　那珂川水系における特定種

河川水辺の国勢調査において確認された生物種から、那珂川水系直轄管理区間における特定種を環境省レッドデータブック・リスト記載種、天然記念物指定種等の学術上または希少性の視点から抽出した。表 2-1 に特定種の選定基準、表 2-2 に調査対象毎の調査年度、表 2-3 に調査対象毎の実際に確認された特定種を示す。

表 2-1　那珂川水系における特定種の選定基準一覧表

選定根拠	選定根拠となる法令・文献	記号	カテゴリー区分
1	文化財保護法	特天	国指定特別天然記念物
		天然	国指定天然記念物
2	文化財保護条例	茨天	茨城県指定天然記念物
		栃天	栃木県指定天然記念物
		市天	市町村指定天然記念物
3	絶滅の恐れがある野生動物の種の保存に関する法律	保存	国内希少野生動植物
4	環境省レッドデータブック・リスト	EX	絶滅種
		EW	野生絶滅種
		CR	絶滅危惧ⅠA 類種
		EN	絶滅危惧ⅠB 類種
		CR+EN	絶滅危惧Ⅰ類
		VU	絶滅危惧Ⅱ類種
		NT	準絶滅危惧種
		DD	情報不足種
		LP	絶滅の危機にある地域個体群
5	茨城県レッドデータブック	茨 EX	絶滅種：茨城県内で既に絶滅したと考えられる種または亜種
		茨 E	絶滅危惧種：茨城県内で絶滅の危機に瀕している種または亜種
		茨 V	危急種：茨城県内で絶滅の危険が増大している種または亜種
		茨 R	希少種：茨城県内で存続基盤が脆弱な種または亜種
6	栃木県レッドデータリスト	栃 EX	絶滅種：県内ではすでに絶滅したと考えられる種
		栃 A	絶滅危惧Ⅰ類：絶滅の危機に瀕している生物
		栃 B	絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している生物
		栃 C	準絶滅危惧種：存続基盤が脆弱な生物
		栃 DD	情報不足：評価するだけの情報が不足している生物
		栃 LP	絶滅の恐れのある地域個体群：地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群
		栃 NA	要注目：注目すべき生物
7	第 1 回自然環境保全調査（緑の国勢調査）	自然	「すぐれた自然」調査対象
8	第 2 回自然環境保全調査（緑の国勢調査）	重要	日本の重要な指定種
		指標	日本の指標的な指定種
		希少	日本の希少な指定種
		茨重要	茨城県特定の重要種
		栃重要	栃木県特定の重要種
9	その他	その他	地方において特筆すべき文献掲載種

表 2-2　那珂川水系における河川水辺の国勢調査の調査対象毎の調査年度

調査年度 調査対象	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
植物				●							●		●		
魚介類	●			●				●				●			
底生動物				●				●				●			
陸上昆虫類				●							●				
鳥類				●			●	●							●
両生類・爬虫類・哺乳類		●	●			●								●	

那珂川水系における河川水辺の国勢調査は那珂川本川と涸沼川の直轄管理区間に調査地点が設定されているが、河川水辺の国勢調査で生物が実際に確認された地点について表 2-3 では下記のように示した。

- 上流：那珂川本川 85.5km～60.5km
- 中流：那珂川本川 60.5km～27.5km
- 下流：那珂川本川 27.5km～河口
- 涸沼川：涸沼川 那珂川本川合流点～8.0ｋｍ

表 2-3（1）　那珂川水系で実際に確認された特定種（植物）

番号	種名	選定根拠（表 2-1 参照）									確認地点（H5～H14）			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	上流	中流	下流	涸沼川
1	ｳｽｹﾞﾁｮｳｼﾞﾀﾃﾞ				NT						●	●	●	
2	ｶﾜﾁﾞｼｬ				NT						●	●	●	
3	ｶﾜﾗﾆｶﾞﾅ				VU						●	●		
4	ｶﾝｴﾝｶﾞﾔﾂﾘ				VU					その他			●	
5	ｺｲﾇｶﾞﾗｼ				NT							●	●	
6	ｻｸﾗﾊﾞﾊﾝﾉｷ				NT					その他			●	
7	ﾀｺﾉｱｼ				VU					その他	●	●	●	
8	ﾉｳﾙｼ				VU								●	●
9	ﾐｸﾘ				NT						●		●	
10	ﾐｽﾞﾏﾂﾊﾞ				VU					その他	●			
11	ﾐｿﾞｺｳｼﾞｭ				NT					その他		●	●	
12	ｵｵｸｸﾞ				VU					その他				●
13	ｺｳﾓﾘｶｽﾞﾗ									その他		●		
14	ﾊﾏﾅｽ									その他			●	
15	ﾋﾒﾐｿﾊｷﾞ									その他		●		
16	ｱｲｱｼ									その他				●
17	ﾌｻﾓ									その他				●
18	ｱﾘｱｹｽﾐﾚ									その他	●			
19	ｱｷﾉﾊﾊｺｸﾞｻ				EN								●	
20	ﾇｶﾎﾞﾀﾃﾞ				VU									●

表 2-3（2） 那珂川水系で実際に確認された特定種（魚類）

番号	種名	選定根拠（表 2-1 参照）									確認地点（H2～H13 調査）			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	上流	中流	下流	涸沼川
1	ｳﾂｾﾐｶｼﾞｶ				VU	茨R						●	●	
2	ｷﾞﾊﾞﾁ				VU	茨V					●	●	●	
3	ｽﾅﾔﾂﾒ				VU						●	●		
4	ﾀﾅｺﾞ				NT						●	●		
5	ﾎﾞｳｽﾞﾊｾﾞ								重要			●		
6	ﾎﾄｹﾄﾞｼﾞｮｳ				EN	茨R					●	●		
7	ﾒﾀﾞｶ				VU	茨R						●	●	

表 2-3（3） 那珂川水系で実際に確認された特定種（底生動物）

番号	種名	選定根拠（表 2-1 参照）									確認地点（H5～H13 調査）			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	上流	中流	下流	涸沼川
1	ｼﾛﾀﾆｶﾞﾜｶｹﾞﾛｳ								茨重要		●	●	●	
2	ﾀｲｺｳﾁ								茨重要 栃重要		●	●	●	
3	ﾀｶﾞﾒ				VU	茨R					●		●	
4	ﾁﾗｶｹﾞﾛｳ								茨重要		●	●	●	
5	ﾇｶｴﾋﾞ					茨R					●	●	●	
6	ﾏﾙﾀﾆｼ				NT								●	
7	ﾐｽﾞｶﾏｷﾘ								茨重要 栃重要		●	●	●	

表 2-3（4） 那珂川水系で実際に確認された特定種（陸上昆虫類）

番号	種名	選定根拠（表 2-1 参照）									確認地点（H5～H12 調査）			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	上流	中流	下流	涸沼川
1	ｱｵﾏﾂﾑｼ								茨重要				●	
2	ｱｶｽｼﾞｷﾝｶﾒﾑｼ								栃重要		●			
3	ｱｹﾞﾊﾓﾄﾞｷ								栃重要			●		
4	ｵｵｽｽﾞﾒﾊﾞﾁ								茨重要				●	
5	ｵｵﾑﾗｻｷ				NT			自然	重要、 希少	その他	●	●		
6	ｶﾞﾑｼ									その他		●	●	
7	ｶﾝﾀﾝ								栃重要		●			
8	ｷﾄﾝﾎﾞ									その他	●			
9	ｷﾘｷﾞﾘｽ								栃重要		●			
10	ｷﾞﾝｲﾁﾓﾝｼﾞｾｾﾘ				NT						●	●	●	
11	ｸﾛﾋｶｹﾞ								希少			●		
12	ｺﾏﾙﾊﾅﾊﾞﾁ								茨重要			●	●	
13	ｼﾞｬｺｳｱｹﾞﾊ								栃重要			●		
14	ｼｮｳﾘｮｳﾊﾞｯﾀﾓﾄﾞｷ									その他		●		
15	ｼﾛﾍﾘﾂﾁｶﾒﾑｼ				NT							●		
16	ｾｱｶｵｻﾑｼ								栃重要	その他		●		
17	ｾｸﾞﾛｱｼﾅｶﾞﾊﾞﾁ								茨重要 栃重要				●	
18	ﾀｲｺｳﾁ								茨重要 栃重要				●	
19	ﾀｶﾞﾒ				VU				重要	その他	●	●	●	
20	ﾂﾉﾄﾝﾎﾞ								栃重要		●			
21	ﾂﾏｸﾞﾛｷﾁｮｳ				VU							●		
22	ﾄｹﾞｱﾘ								茨重要 栃重要			●		
23	ﾄﾗﾏﾙﾊﾁﾊﾞﾁ								茨重要				●	
24	ﾆｯﾎﾟﾝﾊﾅﾀﾞｶﾊﾞﾁ				DD								●	
25	ﾋﾇﾏｲﾄﾄﾝﾎﾞ				EN					その他				●
26	ﾋﾒｽｽﾞﾒﾊﾞﾁ								茨重要				●	
27	ﾋﾒﾏｲﾏｲｶﾌﾞﾘ								茨重要			●	●	
28	ﾎｿｵﾋﾞｱｼﾌﾞﾄｸﾁﾊﾞ									その他		●	●	●
29	ﾏﾀﾞﾗﾔﾝﾏ							自然	茨重要 栃重要				●	
30	ﾐｽﾞｶﾏｷﾘ								茨重要 栃重要				●	
31	ﾐﾝﾐﾝｾﾞﾐ								栃重要		●	●		
32	ﾔﾏﾄﾀﾏﾑｼ								栃重要	その他			●	
33	ﾔﾏﾄﾋﾒﾒﾀﾞｶｶｯｺｳﾑｼ									その他			●	
34	ﾜｽﾚﾅｸﾞﾓ				NT					その他			●	

表 2-3（5） 那珂川水系で実際に確認された特定種（鳥類）

番号	種名	選定根拠（表 2-1 参照）									確認地点 H5～H16 調査）			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	上流	中流	下流	涸沼川
1	ｶﾝﾑﾘｶｲﾂﾌﾞﾘ					茨R								●
2	ﾖｼｺﾞｲ					茨R	栃C							●
3	ｻｻｺﾞｲ					茨V					●			
4	ﾁｭｳｻｷﾞ				NT		栃C				●	●		
5	ﾏｶﾞﾝ	天然												●
6	ｵｼﾄﾞﾘ					茨R	栃C					●		
7	ﾏｶﾞﾓ						栃C				●	●	●	
8	ｼﾉﾘｶﾞﾓ				LP	茨R							●	
9	ﾐｻｺﾞ				NT	茨V	栃C					●	●	●
10	ｵｵﾀｶ			保存	VU	茨V	栃C				●	●	●	●
11	ﾂﾐ				VU	茨R					●	●		
12	ﾊｲﾀｶ				NT							●		
13	ｻｼﾊﾞ						栃C					●	●	
14	ﾊｲｲﾛﾁｭｳﾋ					茨R	栃C							●
15	ﾁｭｳﾋ				VU	茨V	栃DD							●
16	ﾊﾔﾌﾞｻ			保存	VU	茨V	栃A					●	●	●
17	ｺﾁｮｳｹﾞﾝﾎﾞｳ					茨R	栃C							●
18	ｳｽﾞﾗ				DD							●		
19	ﾋｸｲﾅ					茨V	栃A							●
20	ｵｵﾊﾞﾝ						栃DD						●	●
21	ｲｶﾙﾁﾄﾞﾘ					茨R					●	●	●	●
22	ｼﾛﾁﾄﾞﾘ					茨R							●	
23	ｵｵｼﾞｼｷﾞ				NT						●			●
24	ｺｱｼﾞｻｼ				VU	茨R	栃DD				●	●	●	●
25	ｶｯｺｳ					茨R					●		●	
26	ｱｵﾊﾞｽﾞｸ				DD	茨R					●	●		
27	ﾌｸﾛｳ						栃C					●		
28	ﾋﾒｱﾏﾂﾊﾞﾒ					茨V						●		
29	ﾔﾏｾﾐ					茨R					●	●	●	
30	ｺｼｱｶﾂﾊﾞﾒ					茨R						●	●	●
31	ﾉﾋﾞﾀｷ						栃C				●	●	●	●
32	ｲｿﾋﾖﾄﾞﾘ					茨R							●	
33	ｵｵｾｯｶ			保存		茨V	栃C							●
34	ｺﾖｼｷﾘ					茨R	栃C						●	●

表 2-3（8） 那珂川水系で実際に確認された特定種（両生類・爬虫類・哺乳類）

番号	種名	選定根拠（表 2-1 参照）									確認地点（2003 調査）			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	上流	中流	下流	涸沼川
1	ｶｼﾞｶｶﾞｴﾙ					茨R					●	●		
2	ｶﾔﾈｽﾞﾐ					茨R					●	●	●	●

2-3　特徴的な河川景観や文化財等

(1)　特徴的な河川景観

那珂川流域には豊かな自然が残っており、急峻な山地から太平洋に注ぎ込む那珂川の流域では、同じ流域でありながら様々な特徴的な河川景観を見ることができる。

那珂川の上流部は、源流の深い緑の渓谷を流れる川の姿、新緑や紅葉に映える時期の深山ダムのダム湖、扇状地を浸食してできた谷の中を流れる那珂川などの美しい河川景観が特徴的である。

▲深山ダムのダム湖

▲那珂川の上流域の様子

中流部では「関東の嵐山」と称せられる御前山と麓を流れる那珂川が合わさった景色、崖地の深い谷の中を流れ、流れのはやい清流と白い礫河原、両岸の崖と緑が重なった景観などが見られる。

▲御前山の麓を流れる那珂川

▲那珂川の中流域の様子

那珂川の下流部には、水戸徳川家第 9 代藩主斉昭公が，天保 4 年（1833）に領内を巡視し 8 つの景勝地を選定した「水戸八景」のうち 5 つの景勝地があり、このうち那珂川本川と涸沼川の合流点右岸の高台から望む「巌船夕照」や、涸沼の湖畔から見られる「広浦秋月」などは、かつてを忍ばせる景勝地である。また、河口から鹿島灘を望む、太平洋の広がりを感じることができる景観も優れている。

▲「巌船夕照」と呼ばれる眺め

▲朝日を受けた河口部

(2) 文 化

① 名勝・史跡及び天然記念物

那珂川流域内国指定および県指定の名勝・史跡、天然記念物を表 2-4 に示す

表 2-4(1) 那珂川流域の名勝・史跡、天然記念物（国指定）

県	市町村	指定区分	名称
茨城県	水戸市	天然記念物	白旗山八幡宮のオハツキイチョウ
		名勝	常磐公園
		特別史跡	旧弘道館
		史跡	常磐公園
		史跡	吉田古墳
		史跡	愛宕山古墳
		史跡	大串貝塚
	ひたちなか市	史跡	馬渡埴輪製作遺跡
		史跡	虎塚古墳
	笠間市	天然記念物	片庭ヒメハルゼミ発生地
	茨城町	天然記念物	大戸のサクラ
栃木県	栃木県全域	天然記念物	ミヤコタナゴ
		特別天然記念物	カモシカ
	那須塩原市	特別天然記念物	逆杉
	大田原市	史跡	侍塚古墳
	那珂川町	史跡	唐御所横穴
		史跡	那須官衙遺跡
		史跡	那須小川古墳群・駒形大塚古墳・吉田温泉神社古墳群・那須八幡塚古墳群
		史跡	那須神田城跡

（出典：茨城県教育委員会 HP、栃木県教育委員会 HP）

表 2-4 (2) 那珂川流域の名勝・史跡、天然記念物（茨城県指定）

県	市町村	指定区分	名称
茨城県	水戸市	史跡	笠原水道
		史跡	台渡里廃寺跡
		史跡	水戸城跡（塁及び濠）
	ひたちなか市	天然記念物	金砂山の大ヒイラギ
		天然記念物	平磯白亜紀層
		史跡	十五郎穴
		史跡	那珂湊反射炉跡附那珂湊反射資料 25 点
	那珂市	天然記念物	不動院のカヤ
		天然記念物	菅谷のカヤ
		天然記念物	菅谷のモチノキ
	常陸大宮市	天然記念物	三浦スギ
		天然記念物	長倉のエノキ
	笠間市	天然記念物	八重のフジ
	茨城町	名勝	広 浦
		名勝	親 沢
	城里町	史跡	伝内大臣平重盛墳墓
		史跡	那珂西城跡
	大洗町	天然記念物	お葉付イチョウ
		史跡	日 下 塚
		史跡	車 塚
	岩間町	史跡	難台山城跡

（出典：茨城県教育委員会 HP）

表 2-4（3） 那珂川流域の名勝・史跡、天然記念物（栃木県指定）

県	市町村	指定区分	名称
栃木県	那須塩原市	天然記念物	乃木希典那須野旧宅
	大田原市	史跡	糸魚生息地
		史跡	堀之内のツクバネガシ
		史跡	片田のヒイラギ
		史跡	大野室のイチョウ
		史跡	佐久山のケヤキ
		史跡	湯泉神社社叢
		史跡	磯上のヤマザクラ
	さくら市	天然記念物	西原古墳
	矢板市	史跡	泉のエノキ
		史跡	観音寺のイチョウ
		史跡	矢板市山田地区のチョウゲンボウ繁殖地
		天然記念物	御前原城跡
		天然記念物	堀越遺跡
	那須烏山市	史跡	菩提久保のボダイジュ
	那須町	史跡	湯泉神社のおおすぎ
		史跡	那須町のこうやまき
		史跡	八幡のミネザクラ
		史跡	伊王野城跡の樹林
		天然記念物	殺生石
	茂木町	史跡	九石のけやき
		史跡	安楽寺のけやき
		史跡	覚成院のかや
		史跡	茂木小山のヤマザクラ
		史跡	河井八幡宮の社叢
		史跡	小貫のイロハモミジ
		史跡	荒橿神社のケヤキ
		天然記念物	千本城跡
		天然記念物	細川家の墓所
	塩谷町	史跡	船生のひいらぎ
	那珂川町	史跡	馬頭院の枝垂栗
		史跡	北向田のケヤキ
		史跡	戸隠神社のイチョウ
		天然記念物	武茂城跡（乾徳寺境内を含む）

（出典：栃木県教育委員会 HP）

②　文化財

那珂川流域の国指定および県指定の文化財を表 2-5 に示す。

表 2-5（1）　那珂川流域の文化財（国指定）

県	市町村	指定区分	名称
茨城県	水戸市	有形文化財	八幡宮本殿
		有形文化財	旧弘道館（正庁，　至善堂，正門附塀）
		有形文化財	薬王堂本堂
		有形文化財	中崎家住宅
		有形文化財	佛性寺本堂（附旧露盤１個）
		有形文化財	太刀（銘則包作附糸巻太刀拵）
		有形文化財	朱漆足付盥
		有形文化財	木造聖徳太子立像
		無形文化財	一中節三味線
	那珂市	有形文化財	紙本著色聖徳太子絵画
	笠間市	有形文化財	楞厳寺山門
		有形文化財	笠間稲荷神社本殿（附棟札１枚）
		有形文化財	木造薬師如来坐像
		有形文化財	木造薬師如来立像
		有形文化財	木造千手観音立像
		有形文化財	木造弥勒菩薩立像
		無形文化財	練上手
	茨城町	有形文化財	木造阿弥陀如来坐像
	城里町	有形文化財	木造薬師如来及両脇侍像（附銅造胎内仏）
		有形文化財	木造浮彫如意輪観音像
	岩間町	有形文化財	塙家住宅
栃木県	那須塩原市	重要文化財	大覚禅師墨跡
		重要文化財	深鉢形土器残欠共
		重要文化財	旧青木家那須別邸
		認定重要美術品	短刀　無銘（伝　正宗）
		登録有形文化財	高木会館
		選択無形民俗文化財	百村の百堂念仏舞
	大田原市	国宝	那須国造碑
		重要文化財	絹本著色　仏国国師像
		重要文化財	絹本著色　仏応禅師像
		認定重要美術品	刀　銘　備前国住長船次郎九郎祐定作
		認定重要美術品	紙本墨書　渡辺家三文裏銭文由緒記　附　銀銭
		登録有形文化財	足利銀行黒羽支店（旧黒羽銀行）
		選択無形民俗文化財	大捻縄引
	矢板市	重要文化財	木造　千手観音及両脇侍像
		重要文化財	木幡神社本殿
		重要文化財	木幡神社楼門
		重要文化財	荒井家住宅
	那須烏山市	選択無形文化財	程村紙
		重要無形民俗文化財	烏山の山あげ行事
		選択無形民俗文化財	塙の天祭
	那須町	重要文化財	金銅阿弥陀如来立像　文永四年在銘
		重要文化財	三森家住宅
	茂木町	重要文化財	旧羽石家住宅
	那珂川町	登録有形文化財	飯塚家住宅新宅主屋
		登録有形文化財	飯塚家住宅新宅文庫蔵
		登録有形文化財	飯塚家住宅新宅中庭木戸
		登録有形文化財	飯塚家住宅新宅石蔵
		登録有形文化財	飯塚家住宅新宅表門及び塀
		登録有形文化財	飯塚家住宅新宅裏門
		登録有形文化財	飯塚家住宅本宅離れ
		登録有形文化財	飯塚家住宅本宅表門
		登録有形文化財	飯塚家住宅本宅脇門
	市貝町	重要文化財	入野家住宅

（出典：茨城県教育委員会 HP、栃木県教育委員会 HP）

表 2-5（2） 那珂川流域の文化財（茨城県指定）

県	市町村	指定区分	名称
茨城県	水戸市	有形文化財	絹本著色　両界曼荼羅
		有形文化財	絹本著色　弘法大師像
		有形文化財	絹本著色　真言八祖像
		有形文化財	絹本著色　十二天立像
		有形文化財	絹本著色　六字経曼荼羅
		有形文化財	絹本著色　十三仏像
		有形文化財	絹本著色　釈迦十六善神図
		有形文化財	紙本著色制た迦童子像
		有形文化財	墨画芦雁図立原杏所筆
		有形文化財	水海道小学校玄関
		有形文化財	薬王院仁王門
		有形文化財	旧茂木家住宅
		有形文化財	四脚門
		有形文化財	旧水戸城薬医門
		有形文化財	綿引家住宅主屋・倉
		有形文化財	黒韋肩浅葱筋兜
		有形文化財	蒔絵櫃
		有形文化財	つのたらい
		有形文化財	石造燈籠
		有形文化財	銅印
		有形文化財	海後遺跡出土人面付土器
		有形文化財	三昧塚古墳出土遺物
		有形文化財	小野天神前遺跡出土土器
		有形文化財	大般若波羅蜜多経
		有形文化財	唐本一切経
		有形文化財	六地蔵寺所蔵典籍・文書
		有形文化財	紙本墨書神皇正統記六地蔵寺本
		有形文化財	鍍金仏
		有形文化財	木造　阿弥陀如来像
		有形文化財	木造　薬師如来坐像
		有形文化財	木造　釈迦如来坐像
		有形文化財	金銅　大黒天像
		無形民俗文化財	大串のささらばやし
		無形民俗文化財	大野のみろくばやし
		無形民俗文化財	水戸大神楽
	ひたちなか市	有形文化財	太刀（伝大村加卜）白鞘
		有形文化財	乳飲み児を抱く埴輪
		有形文化財	後野遺跡出土石器及土器
		有形文化財	厳天皇消息
	那珂市	有形文化財	鈴木家住宅
		有形文化財	紙本墨書大般若経（附唐櫃３合）
	常陸大宮市	有形文化財	鷲子山上神社本殿・随神門
		有形文化財	佐竹義昭奉加帳
		有形民俗文化財	西塩子の回り舞台
		有形民俗文化財	ささら獅子頭
	笠間市	有形文化財	笠間城櫓
		有形文化財	唐本一切経
		有形文化財	唐本一切経
		有形文化財	金剛般若波羅密経
		有形文化財	木造　佐白観音坐像
		有形文化財	四神旗附祝文（ 写）
	茨城町	有形文化財	絹本著色阿弥陀如来像
	城里町	有形文化財	礼盤
		有形文化財	木造　弘法大師像
		有形文化財	両界曼荼羅版木
		無形文化財	粟野春慶塗
	大洗町	有形文化財	親鸞聖人画像
		有形文化財	大洗磯前神社本殿拝殿
		有形文化財	鈔断片
		有形文化財	如筆消息大根田御坊宛
	岩間町	有形文化財	旧宍戸城表門（附宍戸氏家紋）

（出典：茨城県教育委員会 HP）

表 2-5（3）　那珂川流域の文化財（栃木県指定-1）

県	市町村	指定区分	名称
栃木県	那須塩原市	有形文化財	絹本著色　羅刹天
		有形文化財	温泉神社石幢
		無形民俗文化財	塩原平家獅子舞
		無形民俗文化財	関谷の城鍬舞
		無形民俗文化財	上大貫の城鍬舞
	大田原市	有形文化財	絹本淡彩　黒羽周辺景観図
		有形文化財	絹本著色　釈迦涅槃図
		有形文化財	絹本淡彩　広凌観瀾図
		有形文化財	木版紙本著色　五百羅漢像
		有形文化財	紙本墨画　楊柳観音像
		有形文化財	紙本著色　釈迦涅槃図
		有形文化財	板絵墨画　虎図
		有形文化財	板絵著色　四霊の図
		有形文化財	両界曼荼羅図
		有形文化財	紙本墨画　竜に馬師皇図
		有形文化財	木造　聖観音立像
		有形文化財	木造　阿弥陀如来立像
		有形文化財	木造　釈迦如来坐像
		有形文化財	木造　釈迦如来坐像
		有形文化財	銅造　阿弥陀如来・両脇侍像
		有形文化財	銅製鰐口　銘　文和二二
		有形文化財	銅製鰐口　銘　天正五年
		有形文化財	太刀　銘　不明
		有形文化財	太刀　銘　一
		有形文化財	刀　銘　野州住源正義
		有形文化財	わきざし　銘　源真守造之
		有形文化財	刀　銘　守勝
		有形文化財	刀　銘　埜・住細川正規作（刻印）
		有形文化財	創垂可継
		有形文化財	木版一切経
		有形文化財	止戈枢要
		有形文化財	乗化亭奇方
		有形文化財	宝暦年中政事改正考草案
		有形文化財	紺紙金泥大般若波羅密多経
		有形文化財	那須神社本殿　附寛永大修理銅銘板
		有形文化財	那須神社楼門
		有形文化財	大雄寺経蔵（輪蔵を含む）
		有形文化財	大雄寺総門・座禅堂・廻廊・本堂・御霊屋・庫裡・鐘楼
		有形文化財	旧塩原御用邸新御座所
		有形文化財	鷲子山上神社本殿
		有形文化財	宮原八幡宮本殿
		有形文化財	大山記念館洋館（旧・大山巖別邸洋館）
		有形民俗文化財	人面獣心の壁書
		無形民俗文化財	城鍬舞
		無形民俗文化財	正浄寺の雅楽
	さくら市	有形文化財	絹本著色　鮎図
		有形文化財	紙本著色　捕鯨図
		有形文化財	紙本淡彩　秋山訪友図
		有形文化財	板絵著色　神輿渡御図
		有形文化財	紙本淡彩　吉原堤図
		有形文化財	紙本淡彩　秋景山水図
		有形文化財	紙本墨画　鷹と怪獣図
		有形文化財	紙本墨画　夏山水図
		有形文化財	紙本淡彩　御用堀普請図・落成図
		有形文化財	紙本淡彩　座頭京上り図
		有形文化財	紙本淡彩　田植図・収穫図
		有形文化財	絹本著色　野鴨を襲う鷹図
		有形文化財	紙本淡彩　春景図
		有形文化財	紙本墨画　雲龍図
		有形文化財	紙本墨画　山水図
		有形文化財	銅造　阿弥陀如来坐像
		有形文化財	鉄造　阿弥陀如来立像
		有形文化財	太刀　栗原昭秀謹作之
		有形文化財	太刀　銘　作陽士細川正義

（出典：栃木県教育委員会 HP）

表 2-5（4）　那珂川流域の文化財（栃木県指定-2）

県	市町村	指定区分	名称
栃木県	矢板市	有形文化財	絹本著色　鮎図
栃木県	矢板市	有形文化財	絹本著色　高野四社明神図
栃木県	矢板市	有形文化財	絹本著色　釈迦三尊十六善神図
栃木県	矢板市	有形文化財	板絵著色　花鳥図
栃木県	矢板市	有形文化財	絹本著色　観世音菩薩図
栃木県	矢板市	有形文化財	絹本著色　阿弥陀如来坐像
栃木県	矢板市	有形文化財	木造　金剛夜叉明王坐像
栃木県	矢板市	有形文化財	木造　千手観音坐像
栃木県	矢板市	有形文化財	木造　二十八部衆像
栃木県	矢板市	有形文化財	銅造　大日如来坐像
栃木県	矢板市	有形文化財	木造　行縁僧都坐像
栃木県	矢板市	有形文化財	銅造　千手観音菩薩坐像（縣仏）
栃木県	矢板市	有形文化財	木造　風神・雷神像
栃木県	矢板市	有形文化財	木造　阿弥陀如来坐像(紅頗梨色阿弥陀像)
栃木県	矢板市	有形文化財	曜変天目茶碗（禾目天目）
栃木県	矢板市	有形文化財	槍　銘　守勝
栃木県	矢板市	有形文化財	寛元二年銘の板碑
栃木県	那須烏山市	有形文化財	板絵著色　楊貴妃図
栃木県	那須烏山市	有形文化財	板絵著色　韓信の股くぐりの図
栃木県	那須烏山市	有形文化財	紙本著色　松に鷹図六曲屏風
栃木県	那須烏山市	有形文化財	木造　千手観音菩薩立像
栃木県	那須烏山市	有形文化財	金銅　観音立像
栃木県	那須烏山市	有形文化財	木造　薬師如来坐像
栃木県	那須烏山市	有形文化財	木造　薬師如来坐像
栃木県	那須烏山市	有形文化財	銅造　阿弥陀三尊立像（善光寺式）
栃木県	那須烏山市	有形文化財	天蓋
栃木県	那須烏山市	有形文化財	旗図鐔
栃木県	那須烏山市	有形文化財	刀　銘　下野国田中研次昭盛作
栃木県	那須烏山市	有形文化財	太刀　栗原昭秀作
栃木県	那須烏山市	有形文化財	刀　銘　作陽幕下士・細川正義同正守造之
栃木県	那須烏山市	有形文化財	わきざし　銘　陸奥守藤原将応
栃木県	那須烏山市 茂木町	有形文化財	松倉山観音堂仏像
栃木県	那須町	有形文化財	金銅　勢至菩薩立像
栃木県	那須町	有形文化財	青銅製　鰐口
栃木県	那須町	無形民俗文化財	半俵の寒念仏
栃木県	那須町	無形民俗文化財	富山の佐々良舞
栃木県	茂木町	有形文化財	絹本著色　唐美人図
栃木県	茂木町	有形文化財	紙本墨画　猿田彦・碓女命之図
栃木県	茂木町	有形文化財	絹本著色　鮎魚遡漲水之図
栃木県	茂木町	有形文化財	銅造　観音勢至菩薩立像・脇侍
栃木県	茂木町	有形文化財	木造　丈六阿弥陀如来坐像
栃木県	茂木町	有形文化財	木造　十一面観音立像
栃木県	茂木町	有形文化財	木造　薬師如来坐像
栃木県	茂木町	有形文化財	紙本墨書　小深検地帳
栃木県	茂木町	有形文化財	能持院総門
栃木県	茂木町	有形文化財	小貫観音堂　附　石燈篭
栃木県	塩谷町	有形文化財	刀　銘　源将応
栃木県	塩谷町	有形文化財	わきざし　銘　宗勝
栃木県	塩谷町	無形民俗文化財	風見の神楽
栃木県	那珂川町	有形文化財	木造　延命地蔵菩薩坐像
栃木県	那珂川町	有形文化財	刀　銘　宇陽藩細川義規男正規造之
栃木県	那珂川町	有形文化財	拾得の図鐔
栃木県	那珂川町	有形文化財	五鈷杵
栃木県	那珂川町	有形文化財	紺紙金字法華経
栃木県	市貝町	有形文化財	木造　千手観音立像
栃木県	市貝町	有形文化財	木造　千手観音立像
栃木県	市貝町	選定保存技術	大畑家の武者絵のぼり

（出典：栃木県教育委員会 HP）

(3) 歴 史

那珂川は近世水戸と水戸藩領および下野（栃木）方面、東北諸藩と江戸を結ぶために、河口近くで合流する涸沼川と共に輸送動脈の役割を果たしてきた。江戸時代那珂川舟運は奥州諸藩の廻米や幕府領の城米、所産物などを那珂川から涸沼川、北浦、霞ヶ浦、利根川と結んで運び、江戸方面との交流に利用されてきた。

那珂川舟運の遡航終点は黒羽河岸で、那珂川の舟運を利用した物資輸送には、河岸で舟に積み替えられ、那珂川を下り涸沼川を遡って涸沼湖畔の海老沢河岸や網掛河岸に陸揚げされ、陸路を駄送（岡付け）し、そこから小川に出て霞ケ浦の舟運を利用した。また、涸沼の海老沢から陸路下吉影に至り、そこから巴川を小舟に積み替えて下って塔ケ崎、串挽（鉾田）に出て北浦を経て潮来、さらに利根川を遡り下総関宿から江戸川を南下して松戸・市川・行徳を経て中川を横断し、隅田川に入り、本所・深川・浅草・日本橋筋の河岸に輸送された。このように那珂川・涸沼川経由の江戸回漕路を「内川廻し」（内廻りともいう）と呼んだ。また、会津地方から物資が久慈川から高和田河岸などで陸揚げされて那珂川河岸に駄送された。

那珂川で本格的な舟運が始まった万治年代（1658-1661）の 6 河岸は、その後物資輸送の増大とともに河岸の数は増え、江戸中期の安永 6 年(1777)には 14 河岸、明治に入って 13 年(1880)には 19 河岸となった。しかし東北本線、真岡線、烏山線の開通に伴い次第に船荷が減少し、舟運の衰退とともに河岸も姿を消していった。

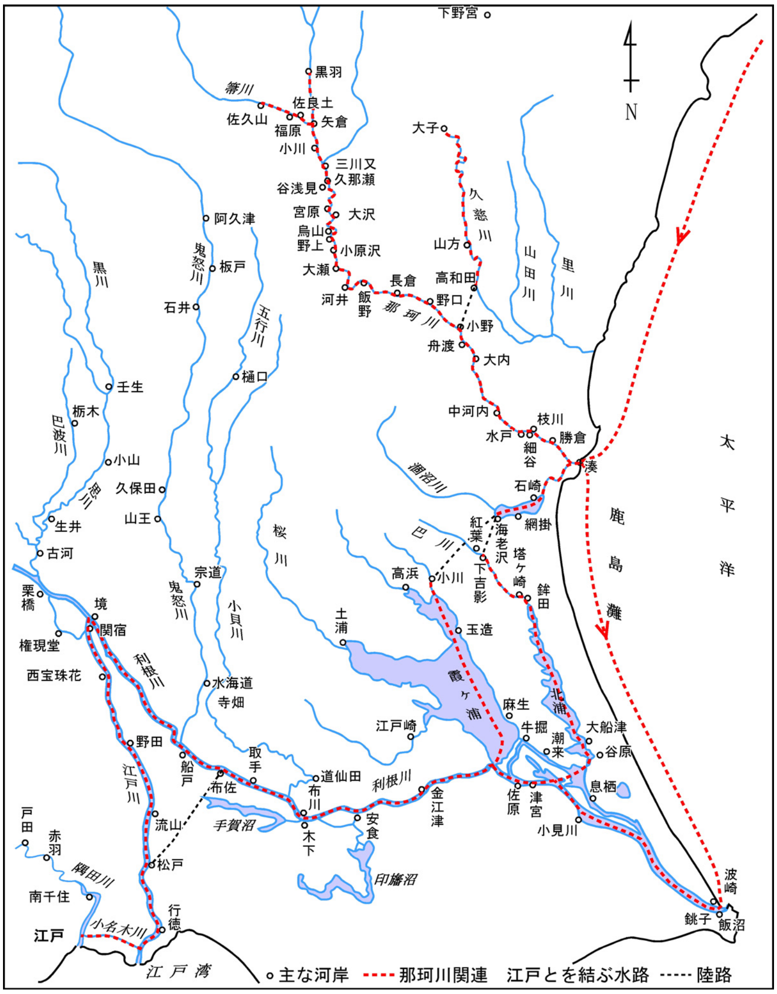


図 2-2 那珂川河岸と利根川水系の水運路

（出典：地方史研究協議会 日本産業史大系を基に作成）

(4)　イベント・観光

①　イベント

那珂川流域の市町村では各種のイベントが行われており、古くから流域の住民の生活に根付いているものも少なくない。

那須烏山市（旧烏山町）の「山あげ祭」は、八雲神社例大祭の奉納行事で、450年以上の歴史をもつ。現在毎年7月に、特産の烏山和紙を、竹や網代に編んだ上に幾重にも貼りつけた「山」があげられ、その前で狂言が演じられ、場面ごとに木頭（指揮者）の拍子木を合図に様々に変化する仕掛けと、「将門」「戻橋」などの踊りがくりひろげられる。この祭礼は､昭和54年に国の重要無形民俗文化財に指定された。

表 2-6に那珂川流域市町村のイベントを示す。

▲山あげ祭の様子

表 2-6　那珂川流域市町村のイベント

県	市町村	年中行事
茨城県	水戸市	梅まつり みとの日 桜まつり つつじまつり あじさいまつり 水戸黄門まつり 萩まつり 菊花展 アートタワーみと 磯節全国大会
	ひたちなか市	阿字ヶ浦海岸花火大会 ひたちなか祭り花火大会 那珂湊海上花火大会 みなとフェスタ（八朔祭り） みなと産業祭
	那珂市	なかひまわりフェスティバル 大助まつり（菅谷まつり） 那珂太鼓 額田祭り・通りばやし 門部ひょっとこ踊り 秋の大祭り・静神社 十六夜尊大法要・常福寺
	常陸太田市	ごぜんやままつり
	笠間市	笠間神社菊祭り
	友部町	ふるさと友部まつり 町民文化祭 夏祭り（八雲神社の祇園祭 平神社の祇園祭）
	茨城町	茨城町音頭 あんば祭り
	城里町	源太踊り 徳蔵大師祭
	大洗町	花火大会 八朔祭 菊祭り
	岩間町	六所神社大祭 泉ばやし 灯籠念仏 悪態祭り
栃木県	那須塩原市	湯けむりマラソン全国大会 川崎大師厄除不動尊例祭 塩原温泉感謝祭 福渡たなばたまつり 塩原温泉夏祭り 塩原朝市物語 ぎゃあてい花火まつり 塩原温泉古式湯まつり 塩原温泉まつり 八幡宮例祭夜祭り 三恩人感謝祭 高原大根・もみじまつり 高尾忌 街角イルミネーション 奉納女将もちつき祭
	大田原市	太子祭 那須神社春期大祭 雅楽奉納(正浄寺) 那須神社例大祭 屋台まつり 与一まつり
	さくら市	花市 どんど焼き 今宮神社節分祭 光明寺感満不動尊縁日 芋串観音縁日 さくら市夏祭り さくら市サマーフェスティバル喜連川花火大会 八坂神社祭り 龍光寺とうみぎ観音縁日 今宮神社例大祭 星宮神社代々岩戸神楽 菊花展 今宮神社大公孫樹祭り（ライトアップ事業） 暮市 喜連川イルミネーション
	矢板市	木幡神社例大祭（百物揃え） ともなりまつり 矢板たかはらマラソン大会 高原山トライアスロン大会 つつじまつり ふるさとまつり納涼流し踊り ともなり文芸まつり 太々神楽（境林） 岩戸神楽 八坂祭 どんど焼き はしか地蔵縁日
	那須烏山市	山あげ祭
	那須町	桜まつり 那須ヨサコイ祭り 北条の獅子舞 那須高原こいのぼり祭 開山祭 御神火祭 教伝地蔵尊縁日 大沢の獅子舞 那須高原朝市 八雲神社例大祭 那須高原べこまつり なすっこまつり 伊王野盆踊り大会 聖天祭 花火大会 一ツ樅の獅子舞 那須九尾まつり 那須温泉神社例大祭 那須高原菊花展 伊王野霞ヶ岡神社祭 黒田原神社例大祭 那須岳（茶臼岳）閉山祭 半俵寒念仏 花市 節分祭 時庭の神楽 那珂川北部渓流釣り解禁
	茂木町	河井のささら
	塩谷町	さくらフェスタ in 大平崎 花の祭典 ふるさと納涼祭 しおや湧水の里マラソン大会 風見神楽 寺工事の獅子舞 道下の獅子舞 上平の大杉ばやし
	那珂川町	三和神社のどんど焼き 新町の花市 馬頭公園の桜まつり 静神社例大祭のたけのこ祭 小砂焼春の陶器市 霧ヶ岳山村文化体験村のなのはな祭り 竹芸展 那珂川・箒川の鮎解禁 ぶどう園 天皇祭 温泉神社山車 やな 納涼祭 三和天祭 諏訪神社のささら舞 道の駅感謝祭 温泉神社秋例祭 菊花大会 小砂焼登窯祭 商工祭 そば祭 鷲子山上神社夜祭 ゆりがねの湯感謝祭

（出典：各市町村 HP）

② 観光資源

那珂川流域は上流では温泉や牧場、遊園地などレジャー施設、中流では自然を楽しむキャンプ場などの施設、下流では水戸市内を中心に歴史や文化を学ぶことができる施設など、数多くの観光資源が存在する。表 2-7 に那珂川流域の観光資源を示す。

表 2-7 那珂川流域市町村の観光資源

県	市町村	観光施設
茨城県	水戸市	偕楽園 好文亭（偕楽園内） 義烈館 弘道館 保和苑 水戸芸術館 茨城県立歴史館 彰考館徳川博物館 茨城県近代美術館 水戸市立博物館 水戸市植物公園 水戸市内原郷土史義勇軍資料館
	ひたちなか市	虎塚古墳 十五浪穴 湊御殿の松 い賓閣跡 山上門 反射炉跡 水門帰帆 中生代白亜期層 観濤所 酒面磯崎神社の自然林 比観亭跡 ふるさと懐古館 武田氏館 国営ひたち海浜公園 阿字ヶ浦海水浴場 平磯海水浴場 姥の懐マリンプール 馬渡はにわ公園
	那珂市	弘願寺・くすぐり地蔵 静神社 蒼龍寺 鷲神社 三嶋神社 鞍掛石 鈴木家住宅（光圀休憩所） 清水寺の湧水・大杉戸村城跡
	常陸太田市	花立自然公園 鷲子山上神社 吉田八幡神社 照願寺/親鸞聖人見返りの桜 工芸ふれあいセンター やすらぎの里公園 弥七の墓 百観音自然公園 江畔寺御前山青少年旅行村（キャンプ場） 三王山自然公園 御前山ハイキングコース
	笠間市	笠間工芸の丘 春風萬里荘 田中嘉三記念館 笠間稲荷美術館 笠間稲荷神社 西念寺 常陸国出雲大社真浄寺の物見櫓 笠間城跡 つつじ公園 石の百年館 石切り山脈 笠間芸術の森公園 匠工房笠間（茨城県窯業指導所）
	茨城町	涸沼自然公園 広浦公園 親沢公園 上ノ山古墳 大戸のサクラ 宝塚古墳 福性寺と飯沼城跡 勘十郎堀 円福寺 小幡城跡 小幡北山埴輪制作遺跡 神谷古墳群 水戸浪士の毛塚 木村屋住宅
	城里町	金剛院歌碑 石塚城跡 那珂西城跡 青山神社 小坂神社 小松寺 平重盛の墓 ふれあいの里 ホロルの湯 藤井川ダム グリーン桂うぐいすの里 山びこの郷　仏国寺・奥の院 小勝のカヤ 伊藤益荒・伊藤斎宮（水戸天狗党）自刃の碑
	大洗町	大洗マリンタワー アクアワールド・大洗 大洗わくわく科学館 幕末と明治の博物館 大洗海洋博物館 大洗美術館 大洗磯前神社 願入寺 磯節発祥の地の碑 磯節踊り子の碑 大洗荒磯太鼓 巌船の夕照 子の日ヶ原の碑 山村暮鳥の碑
	岩間町	スカイロッジ 隠沢観音 塙家住宅 五霊の椿安居の千日堂 普賢院本堂 岩間囃子 滝入不動堂 宍戸藩陣屋表門 子忍びの森 羽梨山神社
栃木県	那須塩原市	塩原もの語り館 天皇の間記念公園 関谷郷土資料館 奥塩原オートキャンプ場 大沼公園 もみじ谷大吊橋 回顧の吊橋 七ツ岩吊橋 紅の吊橋 山ゆりの吊橋 回顧の滝 竜化の滝 布滝 沼ッ原湿原 乙女の滝 旧青木家那須別邸　鳥野目河川公園オートキャンプ場 篭岩神社 水生植物園 那珂川河畔公園 光徳寺杉並木 烏ヶ森公園 那須野が原公園 那須野が原博物館 深山ダム 板室温泉 三斗小屋温泉 三斗小屋宿跡　板室温泉神社 妙雲寺ぼたん園 塩原渓谷歩道 塩原自然研究路・沼園地 小太郎ヶ淵 奥塩原新湯爆裂火口跡 八方ヶ原 千本松牧場 TEPCO ランド塩原 上三依水生植物園 塩原八幡宮 逆杉 源三窟 木の葉化石園
	大田原市	大田原神社 光真寺 福原八幡宮 不動の滝 与一の墓 磯上の山桜 黒羽観光やな 黒羽城址公園 五峰の湯 ザゼン草群生地 寒井観光余一やな 大雄寺 高館城跡 那須神社 芭蕉公園 芭蕉の館 羽田沼 若杉山荘大野放牧場 笠石神社（那須国造碑） 侍塚古墳御亭山緑地公園 なかがわ水遊園 なす風土記の丘資料館
	さくら市	荒川水辺公園 御用堀 寒竹囲 もとゆ温泉 喜連川スカイタワー 喜連川城温泉 早乙女温泉 お旗塚古墳 今宮神社 御前城跡 滝沢家住宅 青銅不動明王坐像（光明寺） 寛方・タゴール平和公園 川原石塔婆郡 西導寺 地蔵菩薩坐像 勝山パークブリッジ 勝山城址 もとゆ温泉 喜連川常温泉
	矢板市	川崎城跡 城の湯温泉 宮川渓谷 寺山赤滝・小滝 山縣有朋記念館 荒井家住宅 寺山ダム 矢板武記念館 八方ヶ原 長峰公園 御前原城跡 県民の森 寺山観音寺 木幡神社 生駒神社 沢観音寺 塩竃神社 寺山鉱泉 小滝鉱泉 赤滝鉱泉 コリーナ矢板 矢板温泉
	那須烏山市	龍門の滝 花立峠 やまびこの湯烏山 山あげ会館龍門ふるさと民芸館 国見の棚田 烏山大橋 烏山城跡 大平寺 稲積神社 町営守山キャンプ場 八溝県民休養公園（四季の森） 安楽寺八十八ヶ所霊場公園 大金太子堂 那須家・大田原家の墓 芳朝寺 ばんこ穴 こぶしが丘温泉 寿乃湯 大金温泉
	那須町	那須七湯 殺生石 八幡のツツジ群落
	茂木町	大瀬キャンプ場 旧羽石家住宅 大瀬観光やな 能特院細川家墓所 馬門の滝 城山公園茂木城跡 茂木手工芸館 ツインリンクもてぎ 十石河川公園 木造丈六阿弥陀如来坐像（安楽寺） 茂木焼窯工 大村彫刻の森美術館 茂木焼窯元 小貫古木群 仏頂山・高峰山遊歩道 真岡鐵道のＳＬ
	塩谷町	尚仁沢湧水 尚仁沢はーとらんど 水と親しむ児童公園 高原山 観音橋 佐貫観音 籠岩 大滝 自然休養村センター 川霧の湯 町営やまゆりの湯 権現の湯
	那珂川町	鷲子山上神社 栃木県立なす風土記の丘資料館小川館 土蔵ギャラリー金子懐古館 馬頭広重美術館 いわむらかずお絵本の丘美術館 もうひとつの美術館 カタクリ山公園 小川ふるさと館 キャンプランドなまずっこ まほろばの湯 ゆりがねの湯 那珂川温泉
	市貝町	ゆったりランド市貝温泉健康保養センター 伊許山キャンプ場 真岡線 SL ゴルフ場 観音山梅の里

（出典：各市町村 HP）

2-4　自然公園の指定状況

那珂川流域の市町村における自然保護関連の指定項目と指定状況は以下のとおりである。数多くの自然、動植物が保護・保全の対象となっている

表 2-8　那珂川流域の自然公園指定状況

指定	名称	関係市町村	面積（ha）	指定年月日
国	日光国立公園	那須塩原市、矢板市、塩谷町、藤原町、那須町	全　体：140,021 栃木県：103,479	S9.12.4（日光地区） S25.9.22（区域拡張：藤原、塩原、那須地区） S60.9.5（那須、塩原地域一部削除） H9.9.18（日光地域一部拡張、一部削除）
茨城県	御前山県立自然公園	常陸大宮市	7,380	S29.7.19
	大洗県立自然公園	水戸市、ひたちなか市、茨城町、大洗町、鉾田市	2,543	S26.7.13
	笠間県立自然公園	笠間市、友部町、城里町	3,969	S30.11.7
	吾国愛宕県立自然公園	笠間市、友部町、岩間町	3,835	S49.11.21
	水戸県立自然公園	水戸市	300	S26.7.13
栃木県	益子県立自然公園	益子町、茂木町	2,136	S30.3.1
	那珂川県立自然公園	那須烏山市、茂木町、市貝町	3,001	S42.3.10
	八溝県立自然公園	那須町、大田原市、那珂川町	6,918	S46.7.20

（出典：環境省生物多様性センター生物多様性情報システム,茨城県生活環境部環境政策課 HP,
栃木県林務部自然環境課 HP）

表 2-9　那珂川流域の生息地等保護区指定状況

名　称	所在地	設定年月日	面積（ha）	指定地の概要	保護に関する方針（概要）
羽田ミヤコタナゴ 生息地保護区	栃木県 大田原市	H6.12.26	60.6 (12.8)	・　栃木県北部の那須野ヶ原扇状地東部に位置する丘陵地。 ・　羽田沼と同沼を水源とする農業用水路及びそれらを取り巻く水田等。	・　ミヤコタナゴの生息には、用水路の水質・形質維持及び餌条件、産卵母貝であるマツカサガイの生息の確保が必要。 ・　当該区域における各種行為は、用水路の水質・形質等の生息環境への影響について特に配慮が必要。 ・　マツカサガイの捕獲を規制。

（出典：環境省生物多様性センター　生物多様性情報システム）

表 2-10　那珂川流域の国指定及び県指定自然環境保全地域指定状況

指　定	地域名	所在地	指定年月日	備　考
国	大佐飛山	那須塩原市	S56.3.16	ブナ・オオシラビソ天然林
茨城県	鷲子山	常陸大宮市	S50.12.23	シダ植物､豊富な草木類
	清音寺	城里町	S52.2.3	クロムヨウラン、クロガネモチの自生
	小松寺	城里町	S52.2.3	マルバダケブキ、ミヤマウズラ、オオムラサキ、ムヨウラン
	釜上	ひたちなか市	S54.12.1	ラセイタソウ､イワタバコ群落､タブノキ､ヒイラギ、第三系凝灰岩質砂岩
栃木県	鷲子山	那珂川町	S48.8.31	トチバニンジン、イワウチワ群落、センダイハグマ等
	箒根	那須塩原市	S48.8.31	モミ
	親園	大田原市	S48.8.31	ミヤコタナゴ等
	七千山	那須塩原市	S48.8.31	ハイマツ、ハクサンシャクナゲ等 ミズナラ
	鮎田	茂木町	S51.1.31	トウキョウサンショウウオ
	東高原	矢板市	S51.1.31	ブナ、ミズナラ
	松倉山	矢板市、那須烏山市	S52.7.19	クマガイソウ、イワマツ等
	焼森山	茂木町	S52.7.19	イワタバコ、クマガイソウ等
	小塙	那須烏山市	S52.7.19	荒川の河蝕地形
	南高原	塩谷町	S53.9.19	ヒノキ
	尚仁沢	矢板市、塩谷町	H4.12.18	ブナ、ミズナラ、モミ等の天然林､年間をとおして一定の湧水現象

（出典：環境省生物多様性センター　生物多様性情報システム）

表 2-11　那珂川流域の鳥獣保護区特別保護地区指定状況

名　称	所在地	面積（ha）	期　間
御前山特別保護地区	城里町	82	H12.11.1～H22.10.31
内原特別保護地区	水戸市	15	H13.11.1～H23.10.31
佐伯山特別保護地区	笠間市	31	H13.11.1～H23.10.31
涸沼特別保護地区	茨城町、大洗町、鉾田市	935	H16.11.1～H26.10.31

（出典：茨城県鳥獣保護区等位置図）

表 2-12　那珂川流域の鳥獣保護区指定状況

指定	名称	所在地	面積（ha）	期間
茨城県	御前山	常陸大宮市、城里町	1,990	H12.11.1～H22.10.31
	那珂	那珂市	1,280	H15.11.1～H25.10.31
	水戸	水戸市	1,500	H9.11.1～H19.10.31
	大塚池	水戸市、城里町	270	H16.11.1～H26.10.31
	笠間湖	笠間市	210	H7.11.1～H17.10.31
	内原	水戸市、笠間市、友部町	566	H13.11.1～H23.10.31
	佐伯山	笠間市	546	H13.11.1～H23.10.31
	友部	友部町	660	H14.11.1～H24.10.31
	千波	水戸市	1,300	H15.11.1～H25.10.31
	涸沼	茨城町、大洗町、鉾田市	2,072	H16.11.1～H26.10.31
	愛宕山	岩間町	807	H7.11.1～H17.10.31
栃木県	塩原	那須塩原市	4,035	H14.11.1～H24.10.31
	千本松	那須塩原市	836	H16.11.1～H26.10.31
	茂木	茂木町	730	H9.11.1～H19.10.31
	烏山	那須烏山市	1,173	H9.11.1～H19.10.31
	雲巌寺	大田原市	258	H9.11.1～H19.10.31
	高原山	矢板市、那須塩原市	852	H10.11.1～H20.10.31
	黒羽	大田原市	345	H12.11.1～H22.10.31
	八溝	大田原市、那須町	1,088	H14.11.1～H24.10.31
	矢ノ目ダム	那須町	459	H14.11.1～H24.10.31
	芦野・伊王野	那須町	325	H7.11.1～H17.10.31
	薬利小学校	那珂川町	8	H7.11.1～H17.10.31
	武茂小学校	那珂川町	45	H15.11.1～H25.10.31
	馬頭	那須塩原市	300	H11.11.1～H21.10.31
	鳥が森	那須烏山市、さくら市	186	H13.11.1～H23.10.31
	馬頭青少年旅行村	那珂川町	210	H15.11.1～H25.10.31
	八溝県民休養公園	那須烏山市、さくら市	915	H13.11.1～H23.10.31
	大佐飛山	那須塩原市	545	H15.11.1～H25.10.31
	赤田	那須塩原市	111	H9.11.1～H19.10.31
	鷲子山	那珂川町	25	H10.11.1～H20.10.31
	箒川	矢板市、大田原市	78	H14.11.1～H24.10.31
	松倉山	那須烏山市、茂木町	15	H11.11.1～H21.10.31
	琵琶池	大田原市	165	H11.11.1～H21.10.31
	龍城公園	大田原市	11	H13.11.1～H23.10.31
	川崎城跡公園	矢板市	11	H14.11.1～H24.10.31
	那須スポーツパーク	大田原市	47	H15.11.1～H25.10.31
	芦野小学校・遊行柳	那須町	32	H15.11.1～H25.10.31
	那須街道	那須町	138	H16.11.1～H26.10.31
	木幡	矢板市	2	H16.11.1～H26.10.31
	那須神社	大田原市	33	H7.11.1～H17.10.31
	戸田調整池	那須塩原市	28	H7.11.1～H17.10.31
	喜連川	さくら市	31	H7.11.1～H17.10.31
	那珂川国民休養地	那須烏山市	30	H7.11.1～H17.10.31
	寺山観音寺	矢板市	3	H8.11.1～H18.10.31
	千振湖	那須町	257	H9.11.1～H19.10.31
	塩原ダム	那須塩原市	430	H10.11.1～H20.10.31
	羽田	大田原市	110	H10.11.1～H20.10.31
	大平崎公園	塩谷町	72	H11.11.1～H21.10.31
	乃木公園	那須塩原市	28	H11.11.1～H21.10.31
	六斗地	那須塩原市、那須町	79	H12.11.1～H22.10.31
	江川小学校	那須烏山市	135	H13.11.1～H23.10.31
	那須みやま	那須塩原市、那須町	11,970	H14.11.1～H24.10.31

（出典：茨城県鳥獣保護区等位置図、栃木県林務部自然環境課 HP）

表 2-13　那珂川流域の特定植物群落一覧表

名 称	所在地
大洗海岸の常緑広葉樹林	大洗町
御前山の暖帯林	城里町
小松の常緑樹林	城里町
常北町の暖帯林	城里町
笠間市の常緑樹林	笠間市
岩間町の自然植生	岩間町
鷲子山の植生	常陸大宮市
仏頂山の植生	笠間市
難台・吾国山の植生	笠間市
那珂湊市釡上の植生	ひたちなか市
伊王野のケヤキ林	那須町
佐久山のヤマクボスゲ群落	大田原市
雨巻山のブナ林	益子町
高館山のシイ・アラカシ林	益子町
那須茶臼岳のヒメイワカガミ	那須町
三本槍岳頂上のハイマツ、チシマザサ群集	那須町
矢沢林道のチドリノキ、オクノカンスゲ群集	那須塩原市
大佐飛山のオオシラビソ・コメツガ・チシマザサ群集	那須塩原市
大佐飛山のコメツガ・ハイマツ群集	那須塩原市
県民の森のクロヒナスゲ群落	矢板市
塩原大沼のミズバショウ	那須塩原市
釈迦ヶ岳のコメツガ・イラモミ林	那須塩原市
鷲子山の希少植物	馬頭町
箒根のモミ天然林	那須塩原市
東高原のブナ・ミズナラ群落	矢板市
松倉山の暖帯照葉樹林	烏山町、茂木町
焼森山のイワタバコ・クマガイソウ群落	茂木町
南高原のヒノキ天然林	塩谷町

（出典：環境省　特定植物群落調査　第５回調査）

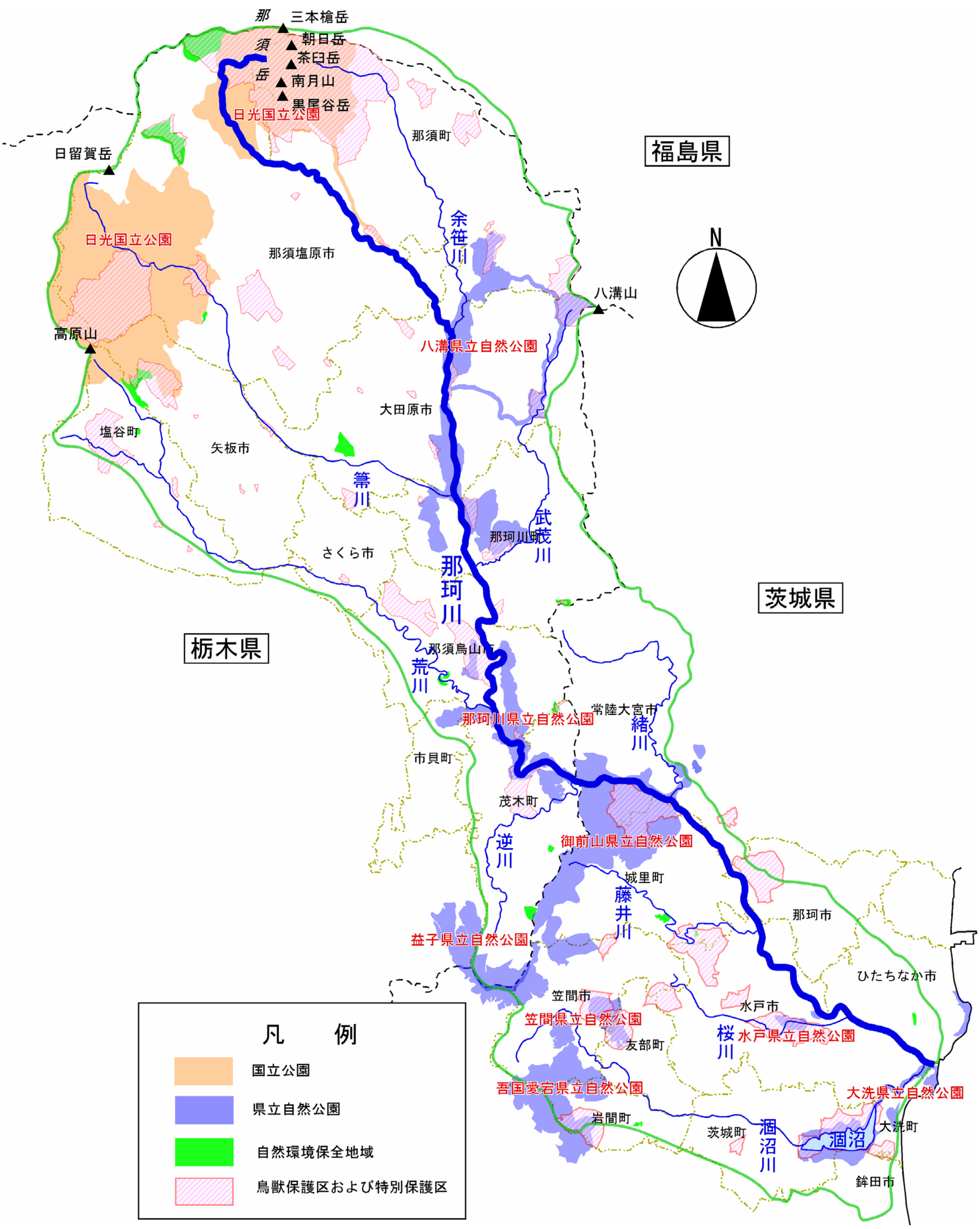


図 2-3 那珂川流域の自然公園等位置図

3.　流域の社会状況

3-1　土地利用

那珂川流域は全般に山地が多く、上流域では源流周辺では天然広葉樹林や天然針葉樹林がほとんどを占めるが、扇状地の高原地帯では開発された地域が広く見られ、畑等の農地を中心に人為的な利用が多い。中流域は平地部が狭くなり、那珂川を取り囲む天然混交林の山林が多くなっている。下流域では沿川低地の水田、周辺台地上の畑が多く、さらに市街地等の発達で人為的利用が多くなっている。

流域の利用状況について見てみると、宅地等の市街地が約 2%、水田や畑地等の農地が約 23%、山林等が約 75%である。

表 3-1　那珂川流域の土地利用面積

（単位：km^2）

流域面積	市街地	農地	山林等
3,270.0	68 (2%)	744 (23%)	2458 75（%）

（出典：河川現況調査（調査基準年：平成 7 年度末））

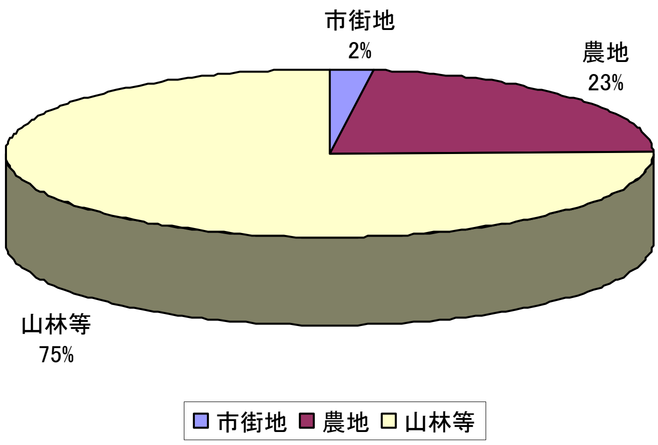


図 3-1　那珂川流域の土地利用の割合

3-2　人口

那珂川流域関連市町村の総人口は増加傾向にあり、この傾向は工場が進出し観光リゾート産業が発展する上流域やもともと商業や工業が盛んな下流域の市町村に見られるが、一方で中流の市町村では減少傾向にある

那珂川流域関連市町村の人口の推移を表 3-2、図 3-2 に示す。

表 3-2　那珂川流域関連市町村の人口変化（昭和 35 年～平成 12 年）

	昭和 35 年	昭和 40 年	昭和 45 年	昭和 50 年	昭和 55 年	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年
上流域	209,863	204,496	207,580	218,015	231,213	241,928	251,348	260,317	267,485
中流域	148,156	133,886	123,159	118,646	117,330	117,217	115,995	114,931	111,294
下流域	445,423	462,574	493,838	541,673	583,182	615,703	634,414	647,319	656,101
合　計	803,442	800,956	824,577	878,334	931,725	974,848	1,001,757	1,022,567	1,034,880

（出典：国勢調査）

注：那珂川流域関連市町村の人口を計上するに当たり、最新の国勢調査結果が出ている平成 12 年当時の流域関連市町村のデータを対象とした。
上流域、中流域、下流域に含まれる市町村はそれぞれ下記のとおりである。また（ ）内は最近行われた合併した市町村のうち、人口を計上している旧市町村名である

上流域：那須塩原市（黒磯市、塩原町、西那須野町）、大田原市（大田原市、黒羽町、湯津上村）、那須町、塩谷町、藤原町
中流域：さくら市（喜連川町）、那須烏山市（烏山町、南那須町）、那珂川町（小川町、馬頭町）、常陸大宮市（美和村、緒川村、御前山村）、市貝町、茂木町、城里町（七会村）
下流域：水戸市（水戸市、内原町）、ひたちなか市、常陸大宮市（大宮町）、那珂市（那珂町）、笠間市、鉾田市（旭村）、城里町（常北町、桂村）、岩間町、友部町、茨城町、大洗町

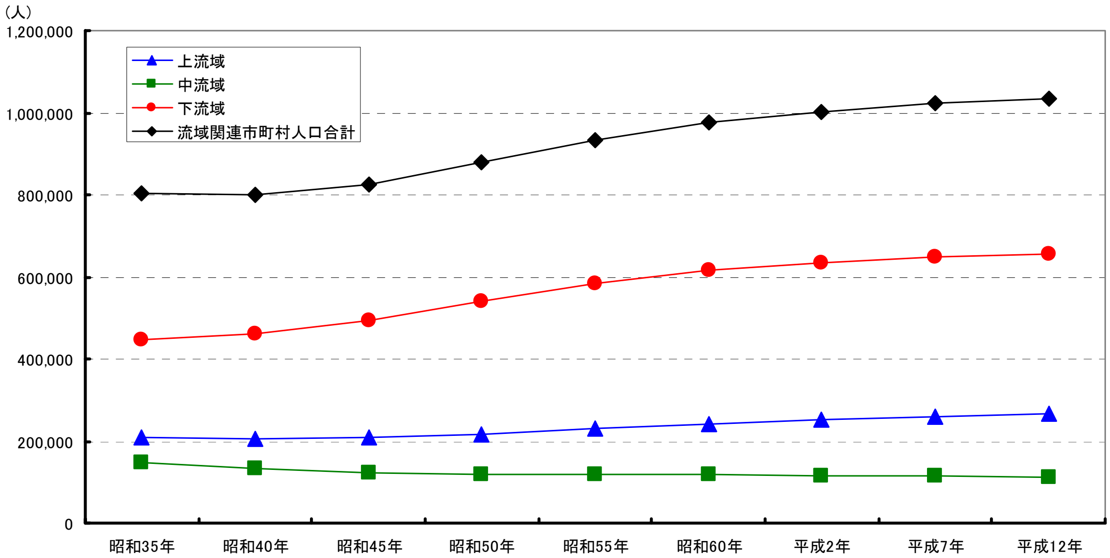


図 3-2　那珂川流域関連市町村人口の推移

3-3　産業経済

那珂川水系の産業について、上流域ではもともと農業や酪農、観光業が主な産業であったが、近年では自動車関連や光学関連、ゴム製品などの工場が進出するなど、栃木県の工業拠点として大きな役割を果たしている。中流域では農業、林業、プラスティック加工等の小規模な工業が主な産業である。下流域は茨城県の商業・工業の重要拠点である水戸市やひたちなか市を擁し、この地域の経済の基盤を成している。また、歴史・文化的な資源を利用した観光業や那珂湊や大洗などの漁港があり、漁業なども盛んである。

那珂川流域における産業別就業者の推移を図 3-3 に、農業生産額及び製造品出荷額の推移を図 3-4 に示す。那珂川流域では就業人口全体が増加傾向にあり、第三次産業人口も増加している一方で第二次産業人口についてはほぼ横ばいの傾向を見せ、第一次産業人口については減少している。

那珂川流域内の第一次産業人口の減少にも関わらず農業生産額は横ばいの状況にあり、製造品出荷額は増加傾向にある。

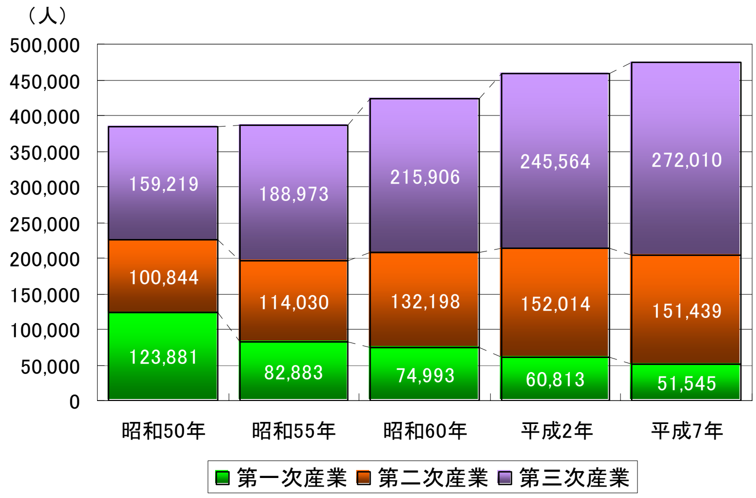


図 3-3　那珂川流域の産業別就業者数の推移

（出典：河川現況調査（調査基準年：平成 7 年度末））

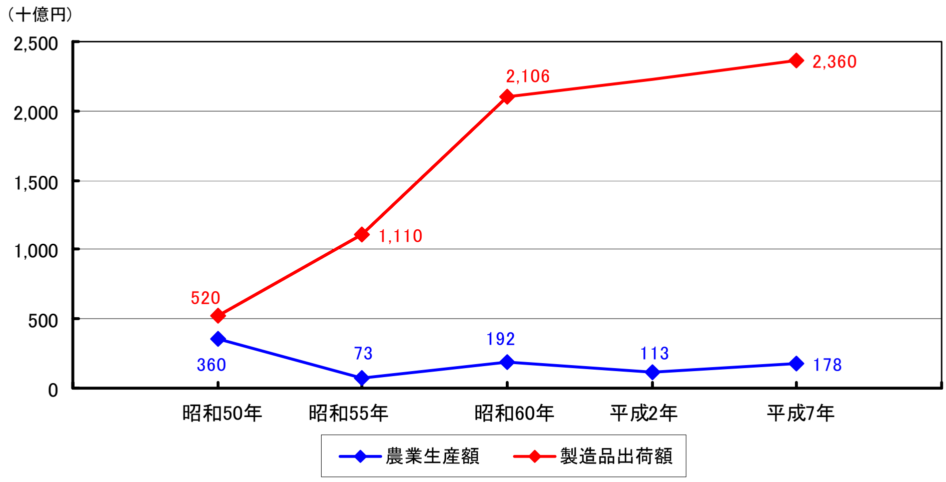


図 3-4　那珂川流域の農業生産額及び製造品出荷額の推移

（出典：河川現況調査（調査基準年：平成 7 年度末））

3-4　交通

那珂川流域に幹線道路は、那珂川沿いを南北に通る、国道 123,293,294 号線があり、首都圏や東北地方と結ぶ道路として、下流域では常磐自動車道、国道 6,50,51 号線、上流域では東北自動車道、国道 4 号線が挙げられ、現在内陸部を縦貫する北関東自動車道の整備も進んでおり地域間のネットワークが構成されている。

鉄道は、首都圏や東北地方を結ぶ重要な路線として、上流域では東北新幹線とＪＲ東北本線があり、下流域ではＪＲ常磐線・ＪＲ水郡線が走っている。また、中流域にはＪＲ烏山線や真岡鉄道、下流域にはＪＲ水戸線や茨城交通線、鹿島臨海鉄道線があり、地域住民の足として大きな役割を果たしている。

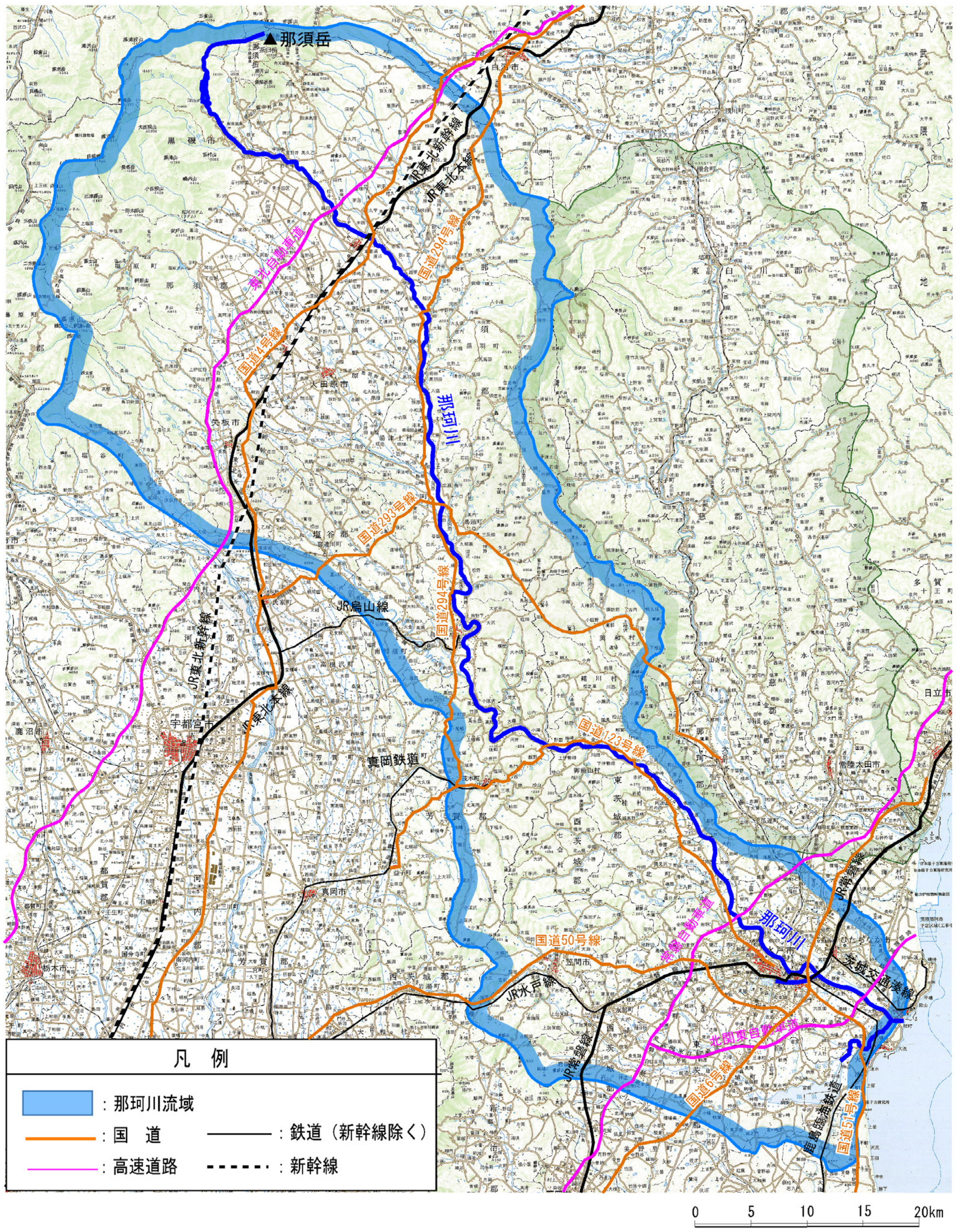


図 3-5　那珂川流域主要交通網図

4. 水害と治水事業の沿革

4-1 既往洪水の概要

那珂川は古くから、流域の人々を潤し豊かな生活の支えとなってきたが、同時に那珂川がもたらした洪水被害も計り知れない。

那珂川の洪水記録で最も古いのは、佐竹氏時代末期の慶長 7（1602）年のものである。

(1) 藩政時代の洪水

徳川藩政時代の大洪水としては、享保 8（1723）年、天明 6（1786）年が知られ、特に天明 6 年の洪水が最大といわれる。城下の家屋の流出など被害は甚大で、天明 3(1783)年の浅間山噴火による凶作に追い打ちをかけるものとなった。

表 4-1 藩政時代の水害

			被害状況
	慶長 7 年	(1602 年)	浄光寺門を浸す。
	寛文 10 年 10 月	(1670 年)	領内損耗 8 万余石。
◎	享保 8 年 8 月	(1723 年)	荒神橋・新寺橋欄干の上を高瀬舟が往来する。水戸下町は一面浸水。千波湖増水で 1 尺 5 寸（約 45cm）の水深。浄光寺口の水深は慶長 7 年より 3 尺(約 90cm)低かった。俗に卯年の洪水といわれた。
	享保 11 年	(1726 年)	（洪水）
	享保 13 年 7 月	(1728 年)	年に 8 度の洪水がつづいた。7 月 8，9 日の洪水は、卯月の洪水より、1 尺 6，7 寸（約 50cm）ほど低かった。
	享保 13 年 9 月	(1728 年)	9 月 2 日にまた出水。享保 8 年にひとしい大水。
	享保 15 年 9 月	(1730 年)	8 月 29 日から 9 月 1 日にかけて洪水。享保 8 年よりやや多い。三之丸御殿が破損。那珂川で上流から流れて来る人家が見られた。
	享保 18 年 6 月	(1733 年)	（洪水あり、記録なし）
	享保 19 年 6 月	(1734 年)	那珂川大水、杉山土手くずれる。
	寛保 2 年 6 月	(1742 年)	轟橋石垣くずれる。
	宝暦 7 年 4 月	(1757 年)	（洪水）
	宝暦 7 年 5 月	(1757 年)	享保 8 年以来の大水。
	宝暦 7 年 6 月	(1757 年)	千波湖溢れる。
	宝暦 7 年 8 月	(1757 年)	千波湖溢れる。
	宝暦 12 年 4 月	(1762 年)	千波湖・那珂川洪水。
	宝暦 13 年 4 月	(1763 年)	(府下洪水)
	安永 7 年	(1778 年)	（洪水）
	安永 8 年 8 月	(1779 年)	那珂川氾濫、荒神橋・赤沼附近は軒端に浸水。下町ではほとんど浸水。枝川も全村没水。
	安永 9 年 6,7 月	(1780 年)	（洪水）
	天明 3 年 6 月	(1783 年)	那珂川氾濫、安永 8 年より 2 尺（約 60cm）ほど高し。
◎	天明 6 年 7 月	(1786 年)	16 日昼頃那珂川・千波湖が氾濫。崖崩れ、土手崩れ、家屋倒壊発生、杉山河岸半ば水没。那珂川の水位は、享保 8 年の水より、5 尺高く、根本町でも 6 尺高、枝川で 3 尺高と言われる。水戸藩米倉浸水し、1 万俵以上が被害。下町の水位は、1 丈 1，2 尺（約 3.6cm）になった。
	天明 8 年	(1788 年)	（洪水）
	文化 8 年	(1811 年)	（洪水）
	文化 9 年	(1812 年)	（洪水）
	文政 6 年 8 月	(1823 年)	那珂川洪水。
	文政 7 年 8 月	(1824 年)	天明 6 年以来の大水、一の町まで溢れる。
	文政 8 年	(1825 年)	（洪水）
	文政 12 年	(1829 年)	（洪水）
	天保 6 年	(1835 年)	（洪水）
	天保 9 年	(1838 年)	（洪水）
	弘化 3 年	(1846 年)	（洪水）
	安政 5 年	(1858 年)	（洪水）

注：◎は大洪水と伝えられている洪水。

（出典：建設省関東地方建設局 常陸五十年史）

(2)　明治・大正・昭和初期の洪水

明治・大正時代の大洪水としては、明治 23（1890）年、明治 29（1896）年、明治 35（1902）年、明治 43（1910）年が知られ、特に明治 43 年の洪水が最大といわれる。降雨総量は水戸測候所が明治 30 年に開設されて以来という 225.8mm に達し、連日の豪雨で青柳地点の水位は 7.02m を記録、関東地方一帯で破堤、浸水が頻発した。また、昭和 13 年の洪水は水戸市周辺で大規模な洪水被災があった。

表 4-2　明治～昭和初期の水害

年　月（西暦）	被害状況
明治 3 年　7 月（1870 年）	不明。
明治 11 年　8 月（1878 年）	不明。
明治 18 年　10 月（1885 年）	那珂川平常水位より 6 尺（1.8m）増す。勝田市田畑冠水。
明治 20 年　6 月（1887 年）	勝倉で平常水位より 1 丈（3m）あがる。
明治 22 年　9 月（1889 年）	那珂川平常水位より 1 丈 5 尺（4.5m）あがる。三反田字上瀬の堤防決壊。
明治 23 年　7～8 月（1890 年）	那珂川で水位 2 丈余（約 6m）あがる。川筋は一面溢水。
明治 25 年　9 月（1892 年）	青柳の水位 7m を越える。
明治 29 年　9 月（1896 年）	青柳の水位 7.42m。海門橋（那珂湊）、那珂川橋（太田街道）、枝川の浜路橋流失。下市一帯、水戸駅まで浸水。
明治 31 年　9 月（1898 年）	那珂川、千波湖氾濫。
明治 32 年　7 月（1899 年）	不明。
明治 35 年　9 月（1902 年）	那珂川水位 6.24m。水戸で全壊 89 戸、半壊 67 戸。農作物の被害甚大。
明治 40 年　7 月（1907 年）	那珂川、枝川で水位、1 丈 4 尺（4.2m）となる。
明治 41 年　7 月（1908 年）	大雨。
明治 41 年　8 月（1908 年）	那珂川で増水。3 尺（90cm）ほどあがる。
明治 43 年　8 月（1910 年）	青柳で水位 7.02m。水戸で床上浸水 416 戸、床下 272 戸。枝川で床上 66 戸、流出家屋 3 戸。
明治 44 年　7 月（1911 年）	那珂川、千波湖氾濫。
大正 2 年　8 月（1913 年）	枝川で水位 1 丈 8 尺（5.4m）。畑作物被害甚大。
大正 3 年　8 月（1914 年）	那珂川の水位 2 丈 1 尺余（6.3m）。枝川の床上浸水 70 戸、浸水家屋 100 余戸。大洪水。
大正 6 年　9～10 月（1917 年）	枝川で水位 1 丈 3 尺余（約 4m）。川田村で家屋倒壊 49 戸。
大正 9 年　5 月（1920 年）	那珂川水位 1 丈 5 尺（4.5m）。（大洪水）
大正 9 年　10 月（1920 年）	那珂川水位 1 丈 8 尺（5.4m）。早戸川氾濫。（大洪水）
大正 9 年　12 月（1920 年）	那珂川の水位 3 尺余（1m）増水。
大正 10 年　9 月（1921 年）	（洪水）
大正 11 年　2 月（1922 年）	（大洪水）
大正 11 年　4 月（1922 年）	早戸川堤防決壊。枝川で水位 1 丈 5 尺（4.5m）。
昭和 3 年　8 月（1928 年）	（洪水）
昭和 4 年　9 月（1929 年）	那珂川増水 1 丈（3m）。農作物被害甚大。
昭和 5 年　8 月（1930 年）	（洪水）
昭和 7 年　11 月（1932 年）	（洪水）
昭和 9 年　9 月（1934 年）	（洪水）
昭和 10 年　9 月（1935 年）	（洪水）
昭和 13 年　6 月（1938 年）	6～7 月にかけて、水戸市北部那珂郡柳河、川田、勝田各村の大部分が冠水。水府橋を除く 5 橋（千歳橋、那珂川大橋、万代橋、関戸橋、海門橋）が流出・沈下崩落。被災人数 17,000 人超。9 月にも洪水被害起こる。

（出典：建設省関東地方建設局　常陸五十年史）

(3)　昭和（戦後）以降の洪水

昭和（戦後）以降の大洪水としては、昭和 22 年（1947）、昭和 33 年（1958）、昭和 36 年（1961）、昭和 41 年（1966）、昭和 61 年（1986）、平成 10 年（1998）のものがあり、近年でも頻繁に生じている。

表 4-3　昭和（戦後）以降の主な洪水

洪水発生年月日	流域平均２日間雨量（野口上流域）	流量（野口地点）	被害状況
昭和２２年９月１６日（カスリーン台風）	232mm	（7,620m³/s）※戻し流量	床下浸水 1,000 戸 床上浸水 1,919 戸
昭和３３年７月２１日（台風１０号）	213mm	3,570m³/s	不明
昭和３６年６月２７日（台風６号）	207mm	4,340m³/s ※戻し流量	床下浸水 49 戸（栃木県）（茨城県内は不明） 床上浸水 10 戸（栃木県）（茨城県内は不明）
昭和３９年８月２３日（台風１４号）	139mm	2,650m³/s	浸水家屋被害なし
昭和４１年９月２５日（台風４号）	174mm	3,730m³/s	不明
昭和４７年９月１５日（台風２０号）	178mm	2,710m³/s	床下浸水 9 戸（うち栃木県 0 戸） 床上浸水 2 戸（うち栃木県 0 戸）
昭和６１年８月３日（台風１０号）	248mm	6,490m³/s ※戻し流量	床下浸水 2,815 戸（うち栃木県 809 戸） 床上浸水 4,864 戸（うち栃木県 1,305 戸）
平成３年８月２０日（台風１２号）	182mm	2,950m³/s	床下浸水 542 戸（うち栃木県 325 戸） 床上浸水 96 戸（うち栃木県 31 戸）
平成１０年８月２８日（台風４号）（停滞前線）	330mm	5,930m³/s ※戻し流量	床下浸水 1,487 戸（うち栃木県 1,087 戸） 床上浸水 704 戸（うち栃木県 293 戸）
平成１１年７月１３日（前線豪雨）	186mm	3,960m³/s	床下浸水 68 戸（うち栃木県 0 戸） 床上浸水 99 戸（うち栃木県 0 戸）
平成１４年７月９日（台風６号）	277mm	3,750m³/s	床下浸水 26 戸（うち栃木県 4 戸） 床上浸水 16 戸（うち栃木県 3 戸）

※　（　）書きは推定値、戻し流量は氾濫戻し流量。

※　被害状況については、S36.6、S39.8、S47.9、S57.9、S61.8、H10.8、H11.7、H14.7 について「水害統計」、S22.9 は「水戸市水害史」から記載。

(4)　昭和以降の著名洪水の概況

昭和以降における著名洪水の概況は以下のとおりである。

①　昭和 13 年洪水

6 月末小笠原西方から北上した台風は関東地方一帯に未曾有の豪雨をもたらした。那珂川流域では下流域の雨量が特に多く、水戸測候所では 59 時間で 491.6mm を記録した。

那珂川の水位が 7.55m という前代未聞の出水となり、水戸市近郊の村々の冠水のほか、5 つの橋梁の流出・沈下・崩落などにより鉄道を含む交通機関は途絶し、被災人数 17,000 人を数えた。この年 9 月にも台風による洪水が発生し、那珂川の水位は 8.46m と過去最高を記録した。雨量は多くなかったものの急激な増水により少なからぬ被害をもたらした。

▲昭和 13 年洪水の水戸市街地の様子
（出典：茨城新聞社　写真記録茨城の 20 世紀）

②　昭和 16 年洪水

7 月 10 日から降り始めた雨は月末まで継続的に降り続き、総降雨量は 588.0mm に達した。那珂川は 13 日に最高水位 7.28m を記録していったん減水に転じたが、21～22 日に再び上昇を始め、23 日に渡里村水道浄水場で 10.4m、青柳で 8.23m を記録した。家屋の全壊 20 戸、流出 32 戸、床上浸水 2,478 戸の被害をもたらした。

③　昭和 22 年洪水

13 日に沖ノ鳥島付近から北上したカスリーン台風は、房総半島をかすめて三陸沖に抜けたが、台風の接近に伴って寒気団が侵入し各地に降雨をもたらした。12 日から 15 日までの総雨量は水戸で 381.4mm であったが翌 16 日にかけて暴風雨にかわり 3 時間の降雨量 197.5mm という水戸測候所の過去最大を記録した。那珂川は大出水となり、最高水位は水府橋で 7.80m に達した。負傷者 97 名、全壊 67 戸、床上浸水 1,919 戸、床下浸水 1,000 戸の大災害となった。

▲昭和 22 年 9 月洪水の様子（水郡線鉄橋付近）
（出典：常陸河川国道事務所資料）

④　昭和33年洪水

9月27日に神奈川県に上陸した台風22号は、東京付近を経て下館、大子付近を相次いで通過し、最大風速は水戸で26m/s、筑波山で34m/s、雨量は茨城県南部で300mmを記録した。那珂川の最高水位は、野口で4.14m、水府橋で6.35mに達した。

⑤　昭和36年洪水

6月27日に四国沖で消滅した台風6号により南方の湿った気流が日本上空に進入し、梅雨前線が活発化したため、四国、中国から関東に及ぶ広い範囲に豪雨をもたらした。いったん北上した梅雨前線が南下したことにより、那珂川流域は大雨となり、水戸で362mmを記録した。那珂川の最高水位は、野口で4.68m、水府橋で7.06m、最大流量は野口で4,339m^3/sec（計画高水流量5,200m^3/sec）であった。

⑥　昭和41年洪水

6月27日台風4号の接近により関東地方全域に多量の降雨があり、水戸では229mmを記録した。那珂川の最高水位は、水府橋で7.10mに達した。

さらに9月には、台風26号が勢力を弱めることなく日本に上陸したため、短時間に降雨が集中した。那珂川の最高水位は、野口で4.90m、水府橋で7.18mを記録した。

⑦　昭和 61 年洪水

フィリピンの東海上に発生した台風 10 号は、伊豆大島付近の海上で温帯低気圧となったが、8 月 5 日 3 時には銚子の西を通り、9 時には水戸の東海上を通って三陸沖に進み、栃木県東部から茨城県西部・北部を中心に関東地方全域に強い雨を降らせた。

この台風により那珂川流域では大田原で 313mm、水戸で 186mm の総雨量を記録した。特に 1 時間に 30mm～40mm という集中豪雨なみの降雨を記録したことにより、大出水となった。

那珂川の水府橋地点の水位は、8 月 5 日 16 時 30 分には最高水位 9.15m を記録した。計画高水位（8.152m）を約 1m も越える未曽有の洪水となった。

▲昭和 61 年洪水　那珂川の氾濫（水戸市）
（出典：関東建設弘済会　昭和 61 年 8 月洪水 水害）

那珂川沿川の浸水被害は茨城県、栃木県合わせて床上浸水 4,864 戸、床下浸水 2,815 戸であった。

▲洪水によって流された家屋（那須烏山市）

▲水没した水戸市街地の様子
（出典：関東建設弘済会　昭和 61 年 8 月洪水）

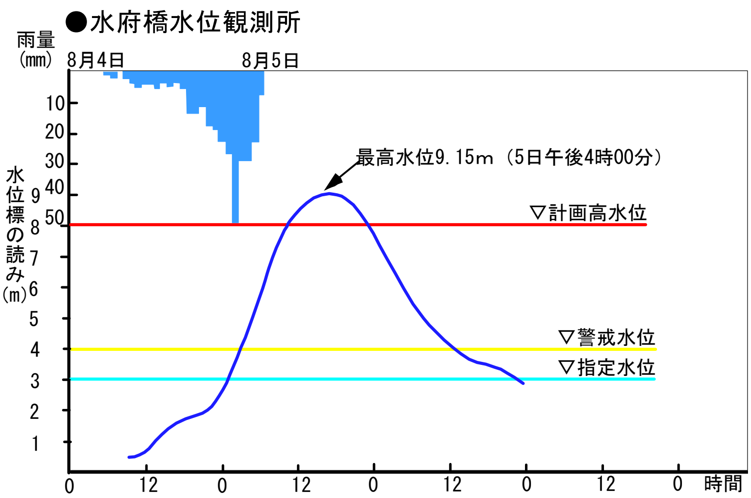


図 4-1　昭和 61 年 8 月洪水の降雨状況と水府橋地点の水位

⑧　平成10年洪水

平成10年8月25日南大東島の南東海上で発生した台風4号は、26日には中心気圧960ヘクトパスカルの中型で強い台風となり、30日には八丈島の南南東約350kmに達した後、9月1日には八丈島の南東に去った。この影響により、本州上の停帯前線の動きが活発化したうえ、南側に斜面が開いている栃木県北部の地形条件、台風の動きが遅かったことなども手伝い、記録的な大雨をもたらした。台風4号に刺激された停滞前線により降り始めた雨は、8月26日から31日まで栃木県北部を中心に降り続き、流域平均総雨量は446mm、上流部大沢観測所では総雨量1,091mmと年間雨量の約4分の3に達する記録的な大雨となった。大沢観測所の1時間当たり雨量は103mmを記録した。この大雨により那珂川は急激に増水し、水府橋（水戸市）では8月28日14時には最高水位8.43m（標高7.42m）を記録した。8月29日には一旦警戒水位を下回ったものの、上流域の強い雨による増水により30日には再び上昇して8.20mとなり、計画高水位を2度も上回る出水となった。この記録的な大雨により、那珂川沿川の各地では、堤防のない地区や低い土地での浸水が相次ぎ、水戸市を中心に昭和61年に次ぐ大水害となった。那珂川沿川の浸水被害は茨城県、栃木県合わせて床上浸水704戸、床下浸水1,487戸で

あった。

▲平成10年洪水　那珂川の氾濫（水戸市）
（出典：常陸工事事務所　平成10年8月那珂川洪水写真集）

▲洪水によって流された寿橋（水戸市）
（出典：常陸工事事務所　平成10年8月那珂川洪水写真集）

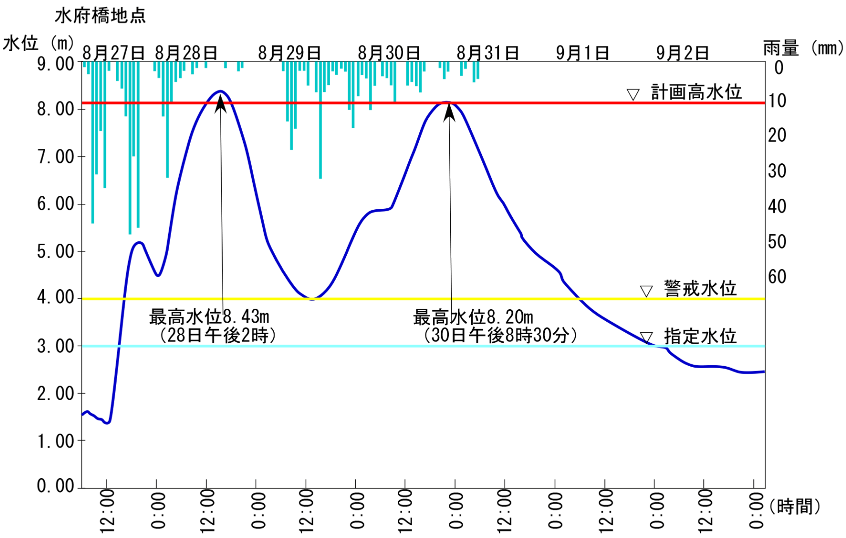


図4-2　平成10年8月洪水の概況

4-2　治水事業の沿革

(1)　江戸時代の治水事業

水害を未然に防ぐ治水土木事業は、水戸藩では寛永年間（1624-1644）から堤防工事を郡奉行・代官の任務とした。河川工事は川除普請と呼ばれたが、大規模な施工は行われていない。那珂川の工事でさえ、護岸工事が格別に施された形跡はみられない（「水戸市史」）。それに比べ利水工事は江戸時代より盛んに行われている。千波湖の水を利用した備前堀や江堰や溜池が多くつくられている。那珂川の木場堰、久慈川の辰之口堰、岩崎堰は三大江堰といわれる。その他水道や新田開発のための江堰や水路、運河等の工事が行われている。

(2)　治水事業の変遷

那珂川は古くから洪水を頻発し流域に被害をもたらしてきたが、昭和初期までは治水事業としてはほとんど見るべきものがなく、ひとたび洪水に見舞われると濁流となって流域に氾濫する状態であった。

①　那珂川本川

昭年 13 年洪水を契機として、昭和 16 年度に那珂川の改修計画が国の直轄事業として樹立され、那珂川の治水事業がスタートした。昭和 17 年にはこの計画にもとづいて河口域の高水流下断面の増大のための拡張工事を開始し昭和 18 年度まで行ったが、第 2 次世界大戦の影響で本格的な工事には至らず、昭和 20 年度をもって工事を打ち切った。

昭和 21 年～25 年には大宮町小場地先の掘削築堤工事､昭和 23 年～25 年度には水戸市三の丸築堤土事および細谷掘削築堤工事を、また昭和 26～29 年度にはひたちなか市枝川町地先の水衝部の護岸工事を､昭和 28 年～38 年度には那珂町地先築堤工事および水戸市飯富地先の掘削築堤工事を概成した。

昭町 36 年度に開始した常北町上泉地先の築堤工事は、その後いったん中断し、昭和 59 年度に再開した。

昭和 42 年からは下流部の工事に主眼を置き、千歳橋を中心として左岸水戸市国田地区から中河内地区までおよび右岸水戸市渡里地区から根本地区までの掘削築堤工事を暫定断面で開始した。

昭和 42 年度からは、直轄区間の延長に伴う最上流地区の改修として、右岸栃木県那須郡小川町地区の小川上築堤工事、左岸那須郡馬頭町地区の三川又築堤工事を暫定断面で開始した。

新那珂橋下流については、昭和 47 年度に小川下築堤工事を開始し、昭和 51 年度までに権津川合流点付近まで暫定断面で概成した。

②　支川

右支川桜川については、昭和 25 年度に新桜川の開削、本川との合流点の引き下げ、本川からの逆流の緩和のための新桜川掘削築堤工事を開始し、昭和 30 年度には、捷水

路開削・築堤工事等を概成、その後これに付随する護岸・樋管・橋梁等の関連工事を昭和 51 年度まで継続し概成した。

右支川藤井川については、昭和 40 年度に藤井掘削築堤工事を開始し、捷水路開削、護岸、橋梁等を継続施工中である。

右支川田野川については、昭和 47 年度に左岸田野川掘削築堤工事を開始し、昭和 58 年度までに本川との合流点から上流の 2 条 7 号区間を暫定断面で概成した。

那珂川本川及び支川（直轄管理区間）の改修工事の変遷は以下の緒図に示すとおりである。

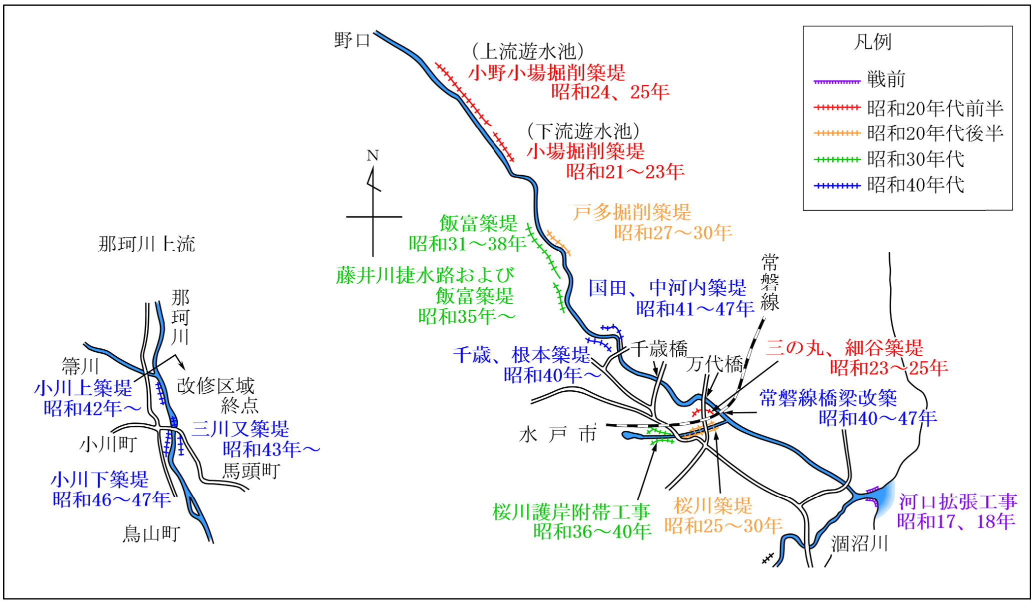


図 4-3　改修工事の変遷

（出典：建設省関東地方建設局　常陸五十年史をもとに作成）

(3)　改修計画の変遷

①　昭和 16 年改修計画

昭和 16 年（1941）の改修計画の計画高水流量は、昭和 13 年（1940）6 月、7 月洪水を基に基準地点野口において 4,300m^3/s（基本高水のピーク流量 5,200m^3/s、上流ダムにて 900m^3/s 調節）と定め、大場遊水地にて 200m^3/s 調節し、河口で 4,500m^3/s とした。

②　昭和 28 年改修改定計画

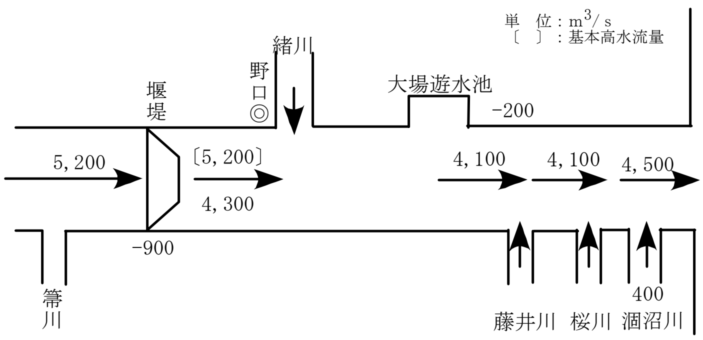
昭和 22 年（1947）9 月洪水を基に改修計画が見直され、基準地点野口の計画高水流量を 5,200m^3/s（基本高水のピーク流量 6,200m^3/s，上流ダムにて 1,000m^3/s 調節）とし、大場遊水地にて 200m^3/s 調節し、その下流河口までを 5,000m^3/s と定めた。

③　昭和 41 年工事実施基本計画

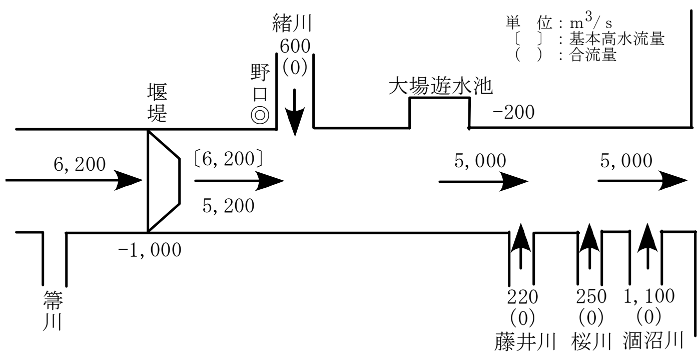
昭和 39 年制定の河川法により、昭和 41 年には「工事実施基本計画」を策定したが計画の基本は昭和 28 年改修改訂計画と同様とした。昭和 41 年（1966）3 月には、直轄区間が栃木県那須郡黒羽町（現大田原市）及び湯津上村（現大田原市）までの 39.0km 延長され、合計 99.5km となった。

④　平成５年工事実施基本計画改定（現計画）

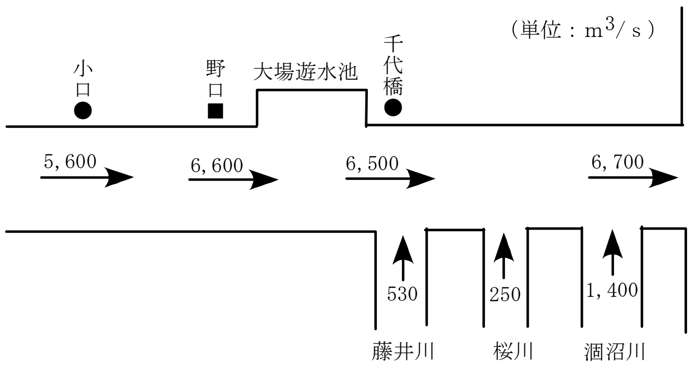
人口増加に伴う市街地の那珂川沿川への拡大など、流域の土地利用が変化する中で、昭和61年８月に水戸市周辺をはじめとして被害が発生した事から、工事実施基本計画の見直しを行い、平成５年４月に現計画を決定した。現計画では、治水安全度を1/100として、基本高水のピーク流量を基準地点野口において8,500m³/sとし、このうちダム及び遊水地により1,900m³/sを調節して河道への配分流量を6,600m³/sとした。



昭和16年改修計画流量配分図



昭和28年改修計画および昭和41年工事実施基本計画流量配分図



平成5年工事実施基本計画改定流量配分図（現計画）

図 4-4　那珂川直轄管理区間流量配分の変遷

(4)　近年の治水事業

近年、昭和 61 年 8 月の大出水、平成 10 年 8 月の豪雨による水害など、戦後最大規模の浸水被害を受け、特に茨城県の商業・工業の重要拠点である水戸市やひたちなか市は大きな被害を受けた。

こうした状況から、那珂川では、「水害に強い川づくり」を重点施策とし、無堤部の早期解消をはじめとした治水施設の整備に力を注いでいる。近年行われた治水事業や現在進められている治水事業を以下に示す。

①　近年行われた主な治水事業

昭和 61 年 8 月洪水及び平成 10 年 8 月洪水により甚大な被害を受けた那珂川に対し、災害からの復旧や今後の治水対策のため、近年実施した治水事業について図 4-5 に示す。

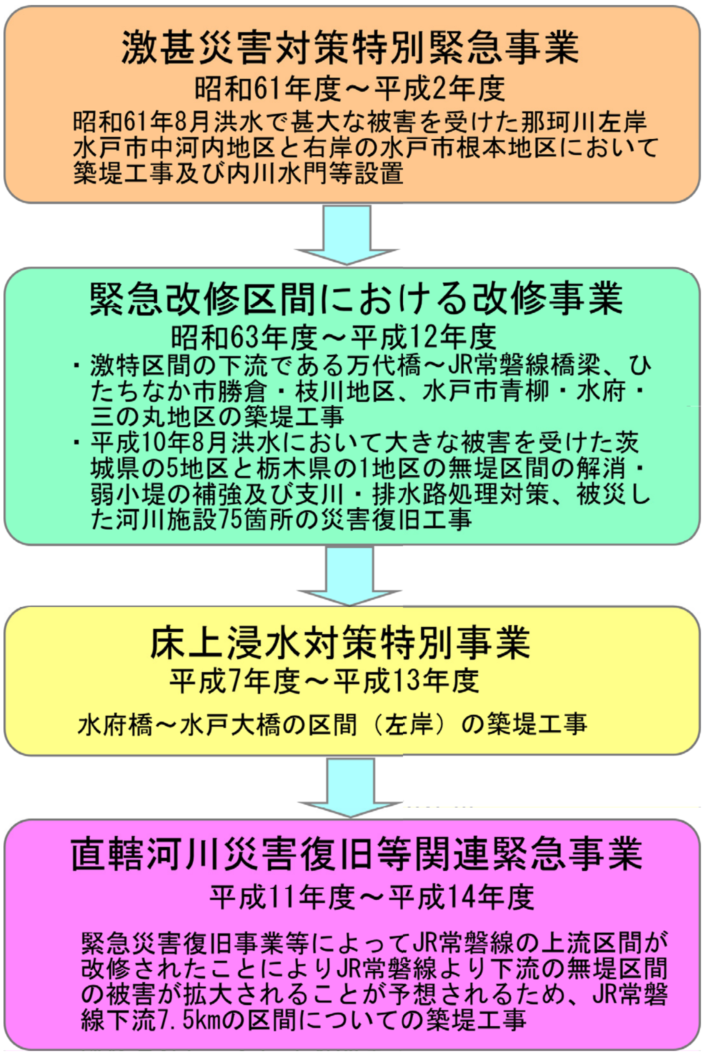


図 4-5　近年行われた治水事業の流れ

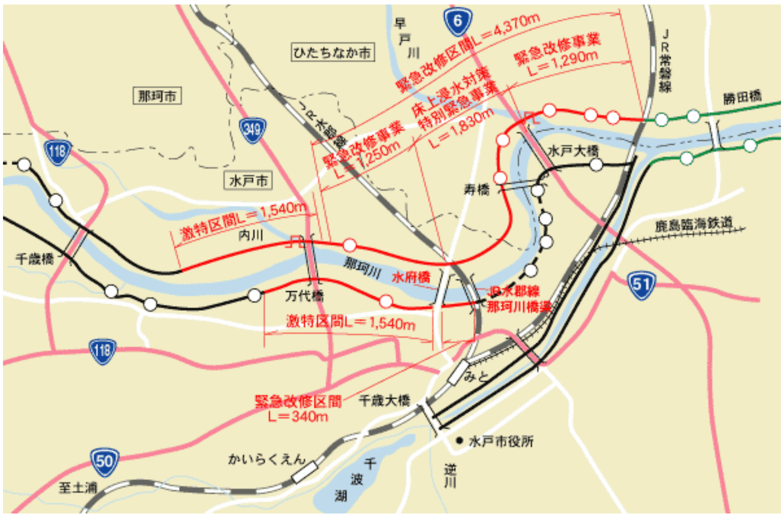


図 4-6　近年行われた那珂川下流部の治水事業の状況

（出典：常陸河川国道事務所資料）

②　現在進められている治水事業

現在、那珂川水系の直轄管理区間で進めている治水事業は以下のとおりである。

- 遊水地の整備

那珂川の中流部では、洪水時の最大流量を抑え、洪水氾濫を防ぐことを目的に、平成 11 年度から遊水地の整備を進めている。

現在、御前山遊水地（常陸大宮市下伊勢畑地区）及び大場遊水地（常陸大宮市小場・小野地区）において、用地補償を進めている。

▲　御前山遊水地（常陸大宮市下伊勢畑地区）

（出典：常陸河川国道事務所資料）

- 堤防整備

那珂川水系の直轄管理区間では、現在中流部と下流部の 2 地区において洪水からの災害を最小限にするため堤防整備を進めている。

中流部の那須烏山市城東地区では、平成 8 年度の国道 294 号線バイパス開通を契機に、大型スーパーの進出等による大規模な開発が進められているが、この地区は地盤が低く過去に洪水被害が多く発生していることから、堤防整備の早期実現を望まれており、これまでに下流側 550m において築堤を実施し、現在上流側の用地買収を進めている。

下流部では現在ひたちなか市勝倉・金上地区において堤防整備を進めている。既にこの地区の上流区間では堤防整備がなされており、平成 17 年度は用地買収及び築堤工事を進めている。

▲那須烏山市城東地区

▲ひたちなか市勝倉・金上地区

（出典：常陸河川国道事務所資料）

・　特定構造物改修事業

那珂川に架かるJR水郡線那珂川橋梁(水戸市)は、明治30年に架設された橋梁で、架橋後約100年が経過し、同じく那珂川に架かる水府橋(水戸市)は、昭和7年に架設された橋梁で架橋後約70年が経過しており老朽化が著しい状況である。また、両橋梁はともに橋脚の間隔が狭い上に両橋梁がかかる区間は河川敷の盛土部が張り出していることから、この区間は那珂川最大の河積阻害箇所となっている。

こうした背景から、「特定構造物改築事業」として両橋梁の架け替えとともに、河道の掘削を行い、この区間の流下能力の向上を図り治水安全度を高めることを目的とした事業を平成11年度に開始し、現在までにJR水郡線那珂川橋梁については下部工の工事を着手しており、事業全体としては平成20年度完成を目標に進められている。

図 4-7　洪水時の水府橋及びJR水郡線那珂川橋梁の状況

（出典：常陸河川国道事務所資料）

5.　水利用の現状

5-1　水利用の現状

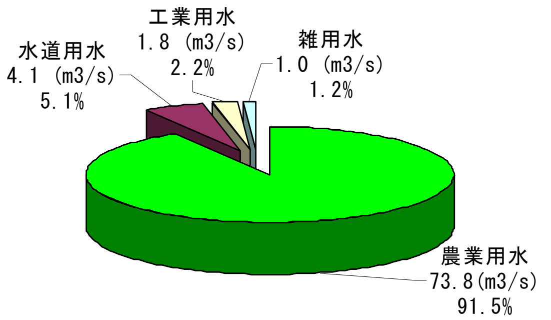
河川水の利用については、水力発電や農業用水、水道用水、工業用水としての利用が広く行われてきた。現在は、約 37,000ha に及ぶ耕地のかんがい用水、沿川市町村の都市用水として利用されている。発電用水としては、13 箇所の発電所で総最大出力約 160 万 kW の電力が供給されている。那珂川上流部の那須野ヶ原では明治時代に那珂川から取水する那須疏水が整備され、農業用水として利用されている。那珂川下流部では流量減少時には塩水遡上が河口から十数キロまで及ぶため、周辺の水戸市・ひたちなか市等の水道・工業・農業用水の取水にしばしば障害を引き起こしている。

那珂川の水利権量(平成17年現在)は約610m³/sec(慣行を含む)となっており、用途別の取水量の内訳は表5-1、図 5-1に示すとおりである。

表5-1　那珂川利水状況

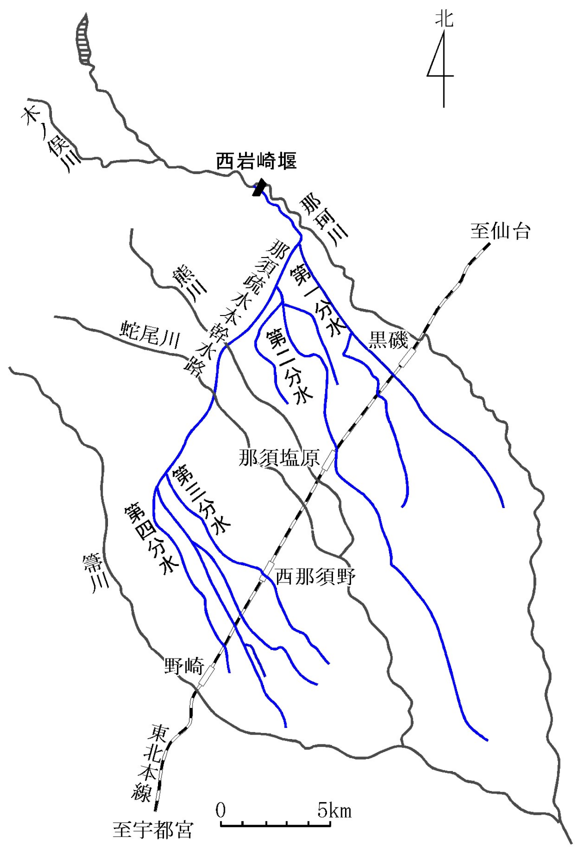
目的別	件　数	水利権量計 (m^3/s)	備　考
農業用水	1,892	73.84197	かんがい面積 約37,000ha
水道用水	23	4.1258	
工業用水	6	1.7669	
発電用水	13	530.146	
雑用水	16	0.9811	養魚、防火用水等
合計	1,950	610.86177	

(平成17年3月31日現在)



※このほかに発電用水 530m³/s の水利権量がある

図 5-1　那珂川の水利権の割合



那須疏水は明治 18 年 9 月に疏水本幹水路の工事が竣工し、明治 19 年夏には分水も竣工して那須疏水の完成を見るに至った。

図 5-2　那須疏水の分水略図（明治・大正期）

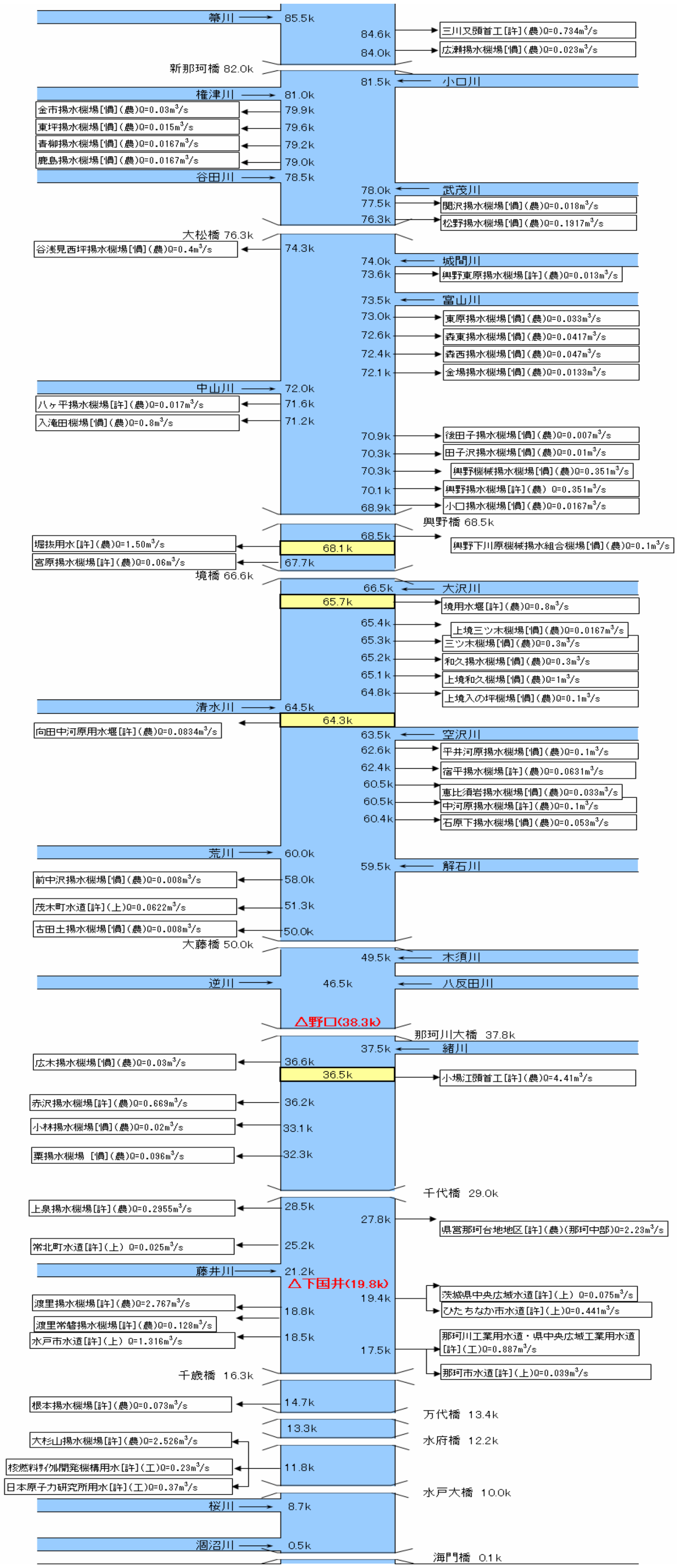


図 5-3 那珂川水利系統図（直轄管理区間）

5-2　渇水被害の概要

那珂川における近年の渇水の状況を　に示す。那珂川下流部における渇水による取水障害は、塩分遡上によるものであるが、そのほとんどが 4 月末から 5 月初めに発生している。また、渇水発生時の具体の渇水対策は、取水制限や潮見運転上流地点からの振り替え取水等で対応されている。

渇水の発生頻度について平成 6～15 年の近 10 ヵ年でみれば、H6,H8,H9,H13 の 4 回も生じている。

表5-2　渇水の概況

年度	期間(月)	状　況
S62	4～5	取水制限最大 農水 30%、都市用水 20%　5/1～5/4、5/6～5/14(13 日間) 千波湖土地改良区 振替取水　5/2～5/14(13 日間) 勝田市(現:ひたちなか市)上水 振替取水　4/22～5/14(23 日間)
H2	8	勝田市(現:ひたちなか市)上水 15%の減圧給水　8/9～8/10(2 日間)
H5	4～5	取水制限最大 農水 30%、都市用水 20%　4/23～5/3(11 日間) 千波湖土地改良区 取水停止　期間不明 那珂川工業用水道・那珂町(現:那珂市)水道 潮見運転　4/23～5/1(9 日間)
H6	4～5	取水制限最大 農水 15%、都市用水 10%　4/28～5/6(8 日間) 千波湖土地改良区 振替取水　5/3～5/5(3 日間) 那珂川工業用水道,那珂町(現:那珂市)水道 潮見運転　4/26～5/2(7 日間) 水戸市水道 潮見運転　4/28～4/30(3 日間) 渡里揚水機場 潮見運転　4/29(1 日間)
H8	4～5	取水制限最大 農水 15%、都市用水 10%　4/28～5/2(5 日間) 千波湖土地改良区 振替取水　4/27～5/3(7 日間) 那珂川工業用水道,那珂町(現:那珂市)水道,水戸市水道 潮見運転　4/27～5/2(6 日間) 渡里揚水機場 潮見運転　4/27～28,5/1～2(4 日間)
	8	千波湖土地改良区 振替取水　8/13～24(12 日間)
H9	4～5	千波湖土地改良区 潮見運転　4/17～25(9 日間) 千波湖土地改良区 振替取水　4/26～5/14(20 日間) 那珂川工業用水道,那珂町(現:那珂市)水道 潮見運転　4/27～29(3 日間)
H13	4～5	取水制限最大 農水 15%、工水 10%　4/27～5/9(13 日間) 千波湖土地改良区 潮見運転　4/16～23(8 日間) 千波湖土地改良区 振替取水　4/24～5/8(15 日間) 那珂川工業用水道,那珂町(現:那珂市)水道 振替取水　4/27～5/9(13 日間)

5-3　水需要の動向

那珂川水系における将来の水需要の動向について、茨城県及び栃木県の水需給の見通しを以下に示す。

(1)　いばらき水のマスタープラン

茨城県では、平成 32（2020）年を目標年次に、茨城県の長期水要給計画として「いばらき水のマスタープラン、平成 14 年、茨城県企画部」を策定し、長期的な水需要の見通しのもとに、安定水源の確保に取り組んでいる。同計画における水需要の見通しは次のとおりである。

①　将来の需要の見通し

a)　水道用水

水道が全域に普及するものと見込んだことや、核家族化の進行、水洗化率の向上、併用自家用井戸の水道への転換などにより、全県的に需要量が伸びると見込まれる。

b)　工業用水

全県的に需要量が増大するものの、その傾向は鈍化すると見込まれる。

表 5-3　都市用水の需要量

（単位：m^3/秒）

区　　分	平成 10 年(1998 年)	平成 32 年(2020 年)
水道用水	12.628	20.310
工業用水	13.276	21.485
計(都市用水)	25.904	41.795

c)　農業用水

水田用水は減少するものの、畑地かんがい用水が増加することにより、ほぼ現状のまま推移すると見込まれる。

表 5-4　農業用水の需要量

（単位：千 m3/年）

区　分	平成 11 年(1999 年)	平成 32 年(2020 年)
農業用水	2,832	2,851

(2)　とちぎ21世紀プラン

栃木県では平成13年3月に、21世紀初頭の郷土"とちぎ"づくりの基本指針となる「とちぎ21世紀プラン」を策定した。

この計画の中で、栃木県の水需要量については用水によって状況に違いがあるものの、全体として横ばい傾向で推移していくものと予測されている。

水道用水は、給水人口の増加や、ライフスタイルの変化に伴う1人当たりの水使用量の増加などにより今後とも緩やかに増加し、給水人口がピークを迎える平成32年度（2020）頃に最大となると予測されている。

また、工業用水は、新規の工場立地や景気回復に伴う出荷量の増加等が見込まれるものの、一方では、一度使用した廃水の循環・再利用など水利用の合理化が進むと見込まれることから、総じて横ばい傾向で推移すると予測されている。

農業用水は、水田面積が減少しているものの、水田整備に伴う面積当たりの必要水量の増加などにより横ばい傾向となっている。しかしながら、長期的には、農地の減少に伴い緩やかに減少していくものと予測されている。

表 5-5　栃木県内の水需要の見通し

（単位：百万 m³/年）

	S60 (1985)	H2 (1990)	H5 (1993)	H10 (1998)	H17 (2005)	H27 (2015)	H32 (2020)
水道用水	200 (74.6)	243 (90.7)	256 (95.5)	268 (100.0)	288 (107.5)	304 (113.4)	305 (113.8)
工業用水	185 (114.2)	188 (116.0)	180 (111.1)	162 (100.0)	163 (100.6)	164 (101.2)	166 (102.5)
農業用水	2,228 (98.5)	2,213 (97.9)	2,269 (100.4)	2,261 (100.0)	2,253 (99.6)	2,239 (99.0)	2,234 (98.8)
合　計	2,613 (95.8)	2,644 (101.5)	2,705 (102.3)	2,691 (100.0)	2,704 (102.6)	2,707 (104.5)	2,705 (105.0)

下段( )書きは平成10年度に対する率　、　栃木県企画部（平成13年2月推計）

6.　河川の流況と水質

6-1　河川流況

那珂川の中流部の野口地点および下流部の下国井地点の流況を、表 6-1 表 6-2 に示す。

野口地点における近 55 ヶ年（昭和 24 年～平成 15 年）の平均低水流量は 36.40m³/s、平均渇水流量は 23.39m³/s である。また、下国井地点における近 49 ヶ年（昭和 30 年～平成 15 年）の平均低水流量は 36.54m³/s、平均渇水流量は 23.46m³/s である。

表 6-1　野口地点流況表（流域面積：2,181km²）

（単位：m³/s）

年	（西暦）	豊水	平水	低水	渇水	平均	年総流出量（10⁶m³/y）	備考
昭和 24	1949	72.31	49.96	34.93	25.77	70.43	2,221.12	
昭和 25	1950	165.89	116.04	84.99	49.00	169.77	5,353.84	
昭和 26	1951	53.63	37.24	25.84	11.87	43.80	1,382.01	
昭和 27	1952	73.21	55.49	45.67	24.66	66.48	2,102.17	
昭和 28	1953	90.20	54.68	28.01	20.86	74.19	2,339.53	
昭和 29	1954	98.92	55.98	39.34	20.01	88.68	2,795.50	
昭和 30	1955	90.20	47.73	27.63	11.34	74.89	2,361.82	
昭和 31	1956	85.95	59.58	41.73	29.70	74.97	2,370.69	
昭和 32	1957	93.02	49.90	38.11	31.00	87.2	2,750.00	
昭和 33	1958	85.08	45.53	34.22	20.50	88.79	2,799.97	
昭和 34	1959	91.76	67.76	53.31	40.75	95.92	3,024.98	
昭和 35	1960	58.40	44.80	33.50	26.20	54.80	1,731.60	
昭和 36	1961	80.70	56.60	35.00	19.70	90.80	2,864.50	
昭和 37	1962	54.30	37.00	28.80	13.60	53.40	1,684.00	
昭和 38	1963	59.20	40.30	28.50	16.30	53.80	1,695.80	
昭和 39	1964	77.50	44.90	36.60	21.40	75.50	2,388.18	
昭和 40	1965	65.50	47.60	31.80	21.60	67.80	2,138.60	
昭和 41	1966	84.50	56.70	44.40	32.00	90.17	2,843.60	
昭和 42	1967	57.80	42.60	32.60	20.70	56.10	1,769.00	
昭和 43	1968	106.51	69.65	33.92	24.56	83.34	2,635.28	
昭和 44	1969	86.32	57.98	45.27	17.95	76.91	2,425.49	
昭和 45	1970	51.14	38.40	30.85	22.36	48.18	1,519.54	
昭和 46	1971	70.77	40.37	33.56	23.56	73.57	2,320.10	
昭和 47	1972	63.24	46.87	36.72	27.10	67.14	2,123.02	
昭和 48	1973	45.95	37.52	31.17	24.92	41.70	1,314.92	
昭和 49	1974	97.40	48.66	34.53	23.28	77.76	2,452.11	
昭和 50	1975	54.70	40.74	34.78	22.23	46.94	1,480.31	
昭和 51	1976	83.81	62.33	39.83	30.61	66.73	2,110.24	
昭和 52	1977	99.04	55.85	32.70	13.63	90.16	2,843.43	
昭和 53	1978	60.93	38.35	25.38	14.48	52.70	1,661.82	
昭和 54	1979	84.16	56.01	29.38	17.66	72.85	2,297.50	
昭和 55	1980	82.17	57.19	38.42	24.63	78.02	2,467.15	
昭和 56	1981	107.82	56.77	45.03	33.40	81.97	2,585.03	
昭和 57	1982	107.41	54.19	34.52	27.23	112.93	3,561.42	
昭和 58	1983	88.61	54.90	36.69	29.11	79.56	2,508.05	
昭和 59	1984	46.86	33.71	26.85	21.92	42.67	1,349.49	
昭和 60	1985	78.49	49.71	36.01	22.80	72.36	2,281.84	
昭和 61	1986	75.05	43.60	29.00	20.56	73.78	2,326.69	
昭和 62	1987	66.22	41.43	29.36	10.10	64.95	2,048.39	
昭和 63	1988	104.44	52.99	34.36	22.31	92.45	2,923.60	
平成 1	1989	108.51	66.36	42.41	32.14	95.46	3,010.48	
平成 2	1990	90.34	60.91	37.92	28.68	79.32	2,501.35	
平成 3	1991	109.78	73.08	42.93	27.22	108.62	3,425.58	
平成 4	1992	84.10	57.94	42.31	32.66	72.23	2,284.02	
平成 5	1993	120.88	71.00	31.38	16.03	91.62	2,889.47	
平成 6	1994	64.04	42.80	34.28	13.28	67.71	2,135.40	
平成 7	1995	90.94	56.28	35.32	26.44	80.60	2,541.84	
平成 8	1996	44.78	34.57	25.86	12.88	42.71	1,350.71	
平成 9	1997	79.07	43.97	30.68	20.94	65.14	2,054.20	
平成 10	1998	109.00	62.07	49.77	42.87	119.25	3,760.73	
平成 11	1999	73.88	38.10	27.53	7.38	74.60	2,352.55	
平成 12	2000	112.61	73.44	39.63	24.23	96.10	3,038.77	
平成 13	2001	79.04	44.00	34.19	13.72	79.31	2,501.12	
平成 14	2002	98.03	56.81	40.55	26.07	90.11	2,841.72	
平成 15	2003	87.28	61.56	44.12	30.42	75.41	2,378.06	
55 ヶ年	最大	165.89	116.04	84.99	49.00	169.77	5,353.84	
	最小	44.78	33.71	25.38	7.38	41.70	1,314.92	
(1949-2003)	平均	82.75	52.55	36.40	23.39	76.59	2,416.70	
50 ヶ年	平均	81.92	51.54	35.66	23.08	75.75	2,390.39	
(1954-2003)	(5/50)	54.30	38.10	27.63	13.28	48.18	1,519.54	
10 ヶ年	平均	83.87	51.36	36.19	21.82	79.09	2,495.51	
(1994-2003)	(1/10)	44.78	34.57	25.86	7.38	42.71	1,350.71	

表 6-2　下国井地点流況表（流域面積：2,517km^2）

(単位：m^3/s)

年	(西暦)	豊水	平水	低水	渇水	平均	年総流出量 ($10^6m^3/y$)	備考
昭和 30	1955	92.58	50.83	31.07	15.06	77.53	2,444.88	
昭和 31	1956	88.42	62.48	44.93	33.11	77.58	2,453.35	
昭和 32	1957	95.35	52.96	41.37	34.38	89.63	2,826.55	
昭和 33	1958	87.54	48.67	37.55	24.06	91.13	2,873.88	
昭和 34	1959	94.11	70.52	56.31	43.97	98.20	3,096.87	
昭和 35	1960	59.94	47.26	37.14	30.06	56.82	1,796.85	
昭和 36	1961	83.24	59.55	38.32	23.37	93.89	2,960.94	
昭和 37	1962	57.19	40.28	31.83	17.28	57.40	1,810.05	
昭和 38	1963	62.10	43.52	31.93	19.93	56.77	1,790.30	
昭和 39	1964	79.50	48.05	39.99	24.95	77.89	2,462.99	
昭和 40	1965	68.30	50.70	35.17	25.14	70.57	2,225.53	
昭和 41	1966	86.97	59.65	47.56	35.37	92.55	2,918.59	
昭和 42	1967	60.83	45.79	35.96	24.26	59.33	1,870.88	
昭和 43	1968	108.65	72.38	37.25	28.05	85.82	2,713.86	
昭和 44	1969	90.98	60.38	46.85	17.23	80.83	2,549.06	
昭和 45	1970	53.03	39.29	31.15	21.99	49.84	1,571.90	
昭和 46	1971	74.21	41.42	34.07	23.26	77.23	2,435.40	
昭和 47	1972	66.08	48.43	37.48	27.10	70.29	2,222.63	
昭和 48	1973	47.43	38.34	31.49	24.75	42.85	1,351.21	
昭和 49	1974	102.93	50.36	35.12	22.98	81.74	2,577.79	
昭和 50	1975	56.87	41.82	35.39	21.85	48.50	1,529.58	
昭和 51	1976	84.33	62.04	40.31	30.70	67.08	2,121.10	
昭和 52	1977	100.00	56.46	32.28	11.02	91.14	2,874.24	
昭和 53	1978	61.30	38.40	24.17	14.55	52.94	1,669.40	
昭和 54	1979	82.94	55.67	29.70	15.22	71.51	2,255.11	
昭和 55	1980	82.99	57.21	38.21	24.98	78.71	2,489.06	
昭和 56	1981	109.13	56.91	45.24	33.49	82.85	2,612.61	
昭和 57	1982	108.48	54.72	34.57	27.60	114.66	3,615.84	
昭和 58	1983	89.32	55.42	36.70	27.47	80.29	2,532.08	
昭和 59	1984	46.40	33.72	27.03	20.37	42.65	1,348.60	
昭和 60	1985	79.14	50.05	35.99	23.14	73.11	2,305.56	
昭和 61	1986	75.34	43.30	28.47	19.36	74.66	2,354.59	
昭和 62	1987	66.48	41.34	28.90	7.35	65.35	2,060.92	
昭和 63	1988	105.61	53.04	34.56	22.64	93.68	2,962.28	
平成 1	1989	109.54	65.95	42.03	32.55	96.66	3,048.34	
平成 2	1990	91.22	61.14	36.81	26.70	79.79	2,516.22	
平成 3	1991	110.82	73.15	41.56	25.18	109.47	3,452.18	
平成 4	1992	84.43	58.10	42.53	32.63	73.06	2,303.96	
平成 5	1993	122.01	71.55	30.97	11.65	92.60	2,920.08	
平成 6	1994	63.57	43.19	34.36	10.66	67.83	2,139.12	
平成 7	1995	91.55	56.25	34.43	26.18	81.43	2,567.85	
平成 8	1996	45.01	34.45	26.10	9.68	42.50	1,340.30	
平成 9	1997	79.34	44.33	30.75	18.64	65.76	2,073.81	
平成 10	1998	110.04	62.11	49.90	43.18	121.04	3,817.14	
平成 11	1999	74.03	37.60	27.91	7.59	75.82	2,390.91	
平成 12	2000	114.12	74.13	39.75	24.47	97.33	3,077.84	
平成 13	2001	79.71	44.03	34.24	11.12	79.82	2,517.09	
平成 14	2002	98.94	57.12	40.82	24.89	91.16	2,874.87	
平成 15	2003	88.14	62.13	44.39	28.51	75.97	2,395.75	
49ヶ年	最大	122.01	74.13	56.31	43.97	121.04	3,817.14	
	最小	45.01	33.72	24.17	7.35	42.50	1,340.30	
(1955-2003)	平均	83.06	52.58	36.54	23.46	77.05	2,431.02	
40ヶ年	平均	83.06	52.58	36.54	23.46	77.05	2,431.02	
(1964-2003)	(4/40)	53.03	38.34	27.91	10.66	48.50	1,529.58	
10ヶ年	平均	84.45	51.53	36.27	20.49	79.87	2,519.47	
(1994-2003)	(1/10)	45.01	34.45	26.10	7.59	42.50	1,340.30	

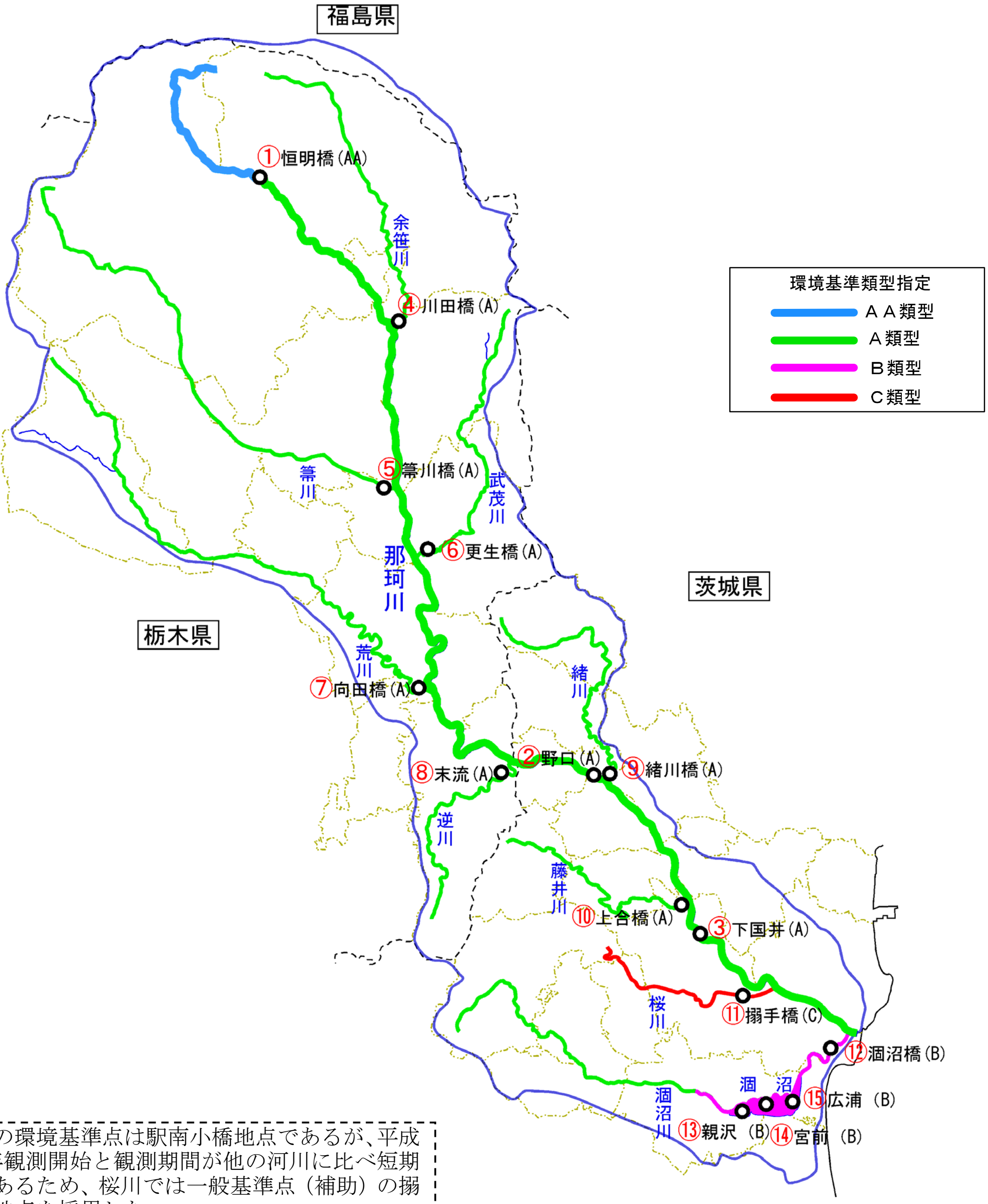
注）ここに示した流量は、野口流量からの換算式による流量である。

6-2　河川水質

(1)　那珂川水系における水質の環境基準

那珂川本川における環境基準の類型指定は図 6-1、表 6-3 に示すとおりであり、河口から湯川合流点までが A 類型、湯川合流点より上流は AA 類型である。直轄管理区間の支川は涸沼川が B 類型、桜川は C 類型、藤井川は A 類型となっている。

那珂川本川は全ての水質調査地点で環境基準値満足しており、良好な水質を維持している。一方、下流部の水戸市等の市街を流れる支川桜川・千波湖等は環境基準を上回っている。



※桜川の環境基準点は駅南小橋地点であるが、平成10 年観測開始と観測期間が他の河川に比べ短期間であるため、桜川では一般基準点（補助）の搦手橋地点を採用した。

図 6-1　那珂川流域の環境基準類型指定状況と水質観測地点

表 6-3　水質環境基準類型指定状況

河川名	範　　囲	類型	達成 期間	環境基準 地点名	告示 年月日
那珂川(1)	湯川合流点より上流	ＡＡ	イ	こうめいばし 恒明橋	S48.3.31 環境庁告示
那珂川(2)	湯川合流点から早戸川合流点まで	Ａ	イ	新那珂橋 野口 下国井	
那珂川(3)	早戸川合流点より下流	Ａ	ロ	勝田橋	
高雄股川	流入する支川を含む	Ａ	イ	たかおまたばし 高雄股橋	H17.1.28 栃木県告示
湯川	流入する支川を含む	Ａ	イ	湯川橋	
余笹川	流入する支川(黒川を除く)を含む	Ａ	イ	川田橋	
黒川	流入する支川を含む	Ａ	イ	しんでんばし 新田橋	
松葉川	流入する支川を含む	Ａ	イ	末流	
箒川	流入する支川(蛇尾川を除く)を含む	Ａ	イ	ほうきがわばし 箒川橋	
蛇尾川	流入する支川を含む	Ａ	イ	宇田川橋	
武茂川	流入する支川を含む	Ａ	イ	こうせいばし 更生橋	
荒川	流入する支川(坂井川を除く)を含む	Ａ	イ	向田橋	
内川	流入する支川を含む	Ａ	イ	旭橋	
江川	流入する支川を含む	Ａ	イ	末流	
逆川	全域	Ａ	イ	末流	
深山ダム 貯水池	深山湖全域	湖沼AA	イ	みやまこ 深山湖湖心	H12.3.30 環境庁告示
藤井川	全域	Ａ	イ	かみあいばし 上合橋	H10.3.30 茨城県告示
塩子川	全域	ＡＡ	ハ	磯崎橋	
緒川	全域	Ａ	イ	緒川橋	
早戸川(1)	田彦水門より上流(大井川を含む)	Ｃ	ロ	浄水場下	
早戸川(2)	田彦水門から那珂川との合流点まで	Ｂ	ロ	むつみばし 睦橋	
中丸川	全域(大川、本郷川を含む)	Ｃ	ハ	柳沢橋	
桜川	全域(沢渡川、逆川を含む)	Ｃ	ロ	えきなんこはし 駅南小橋	
涸沼川(1)	涸沼合流点より上流(飯田川を含む)	Ａ	ロ	たかはし 高橋	
涸沼川(2)	涸沼流出点から那珂川との合流点まで	Ｂ	イ	涸沼橋	
石川川	全域	Ａ	ハ	いのばし 入野橋	
大谷川	全域	Ｂ	イ	おおやばし 大谷橋	
寛政川	全域	Ａ	ハ	寛政橋	
涸沼前川	全域	Ｂ	ロ	長岡橋	
涸沼	全域	湖沼B	ロ	ひろうら 広浦 みやまえ 宮前 おやざわ 親沢	H12.3.30 茨城県告示

※類型　河川(BOD)　　湖沼(COD)

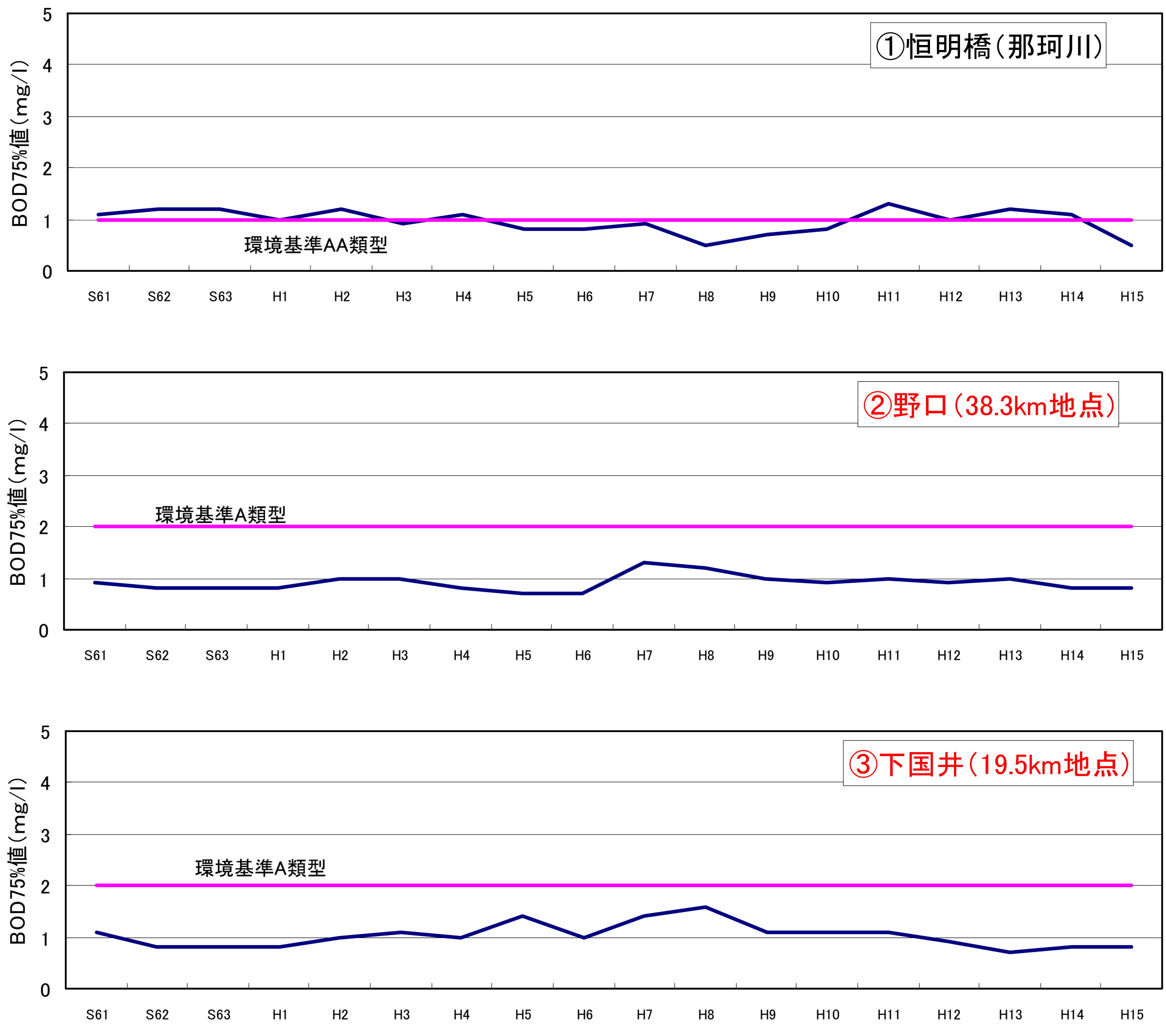
AA:1mg/l以下　湖沼AA:1mg/l以下
A:2mg/l以下　湖沼 A:3mg/l以下
B:3mg/l以下　湖沼 B:5mg/l以下
C:5mg/l以下　湖沼 C:8mg/l以下

※達成期間　イ：直ちに達成
ロ：5年以内で可及的速やかに達成
ハ：5年を超える期間で可及的速やかに達成

(2)　河川水質の推移

那珂川流域内の各水質観測所における観測値の経年変化を図 6-2 に示した。

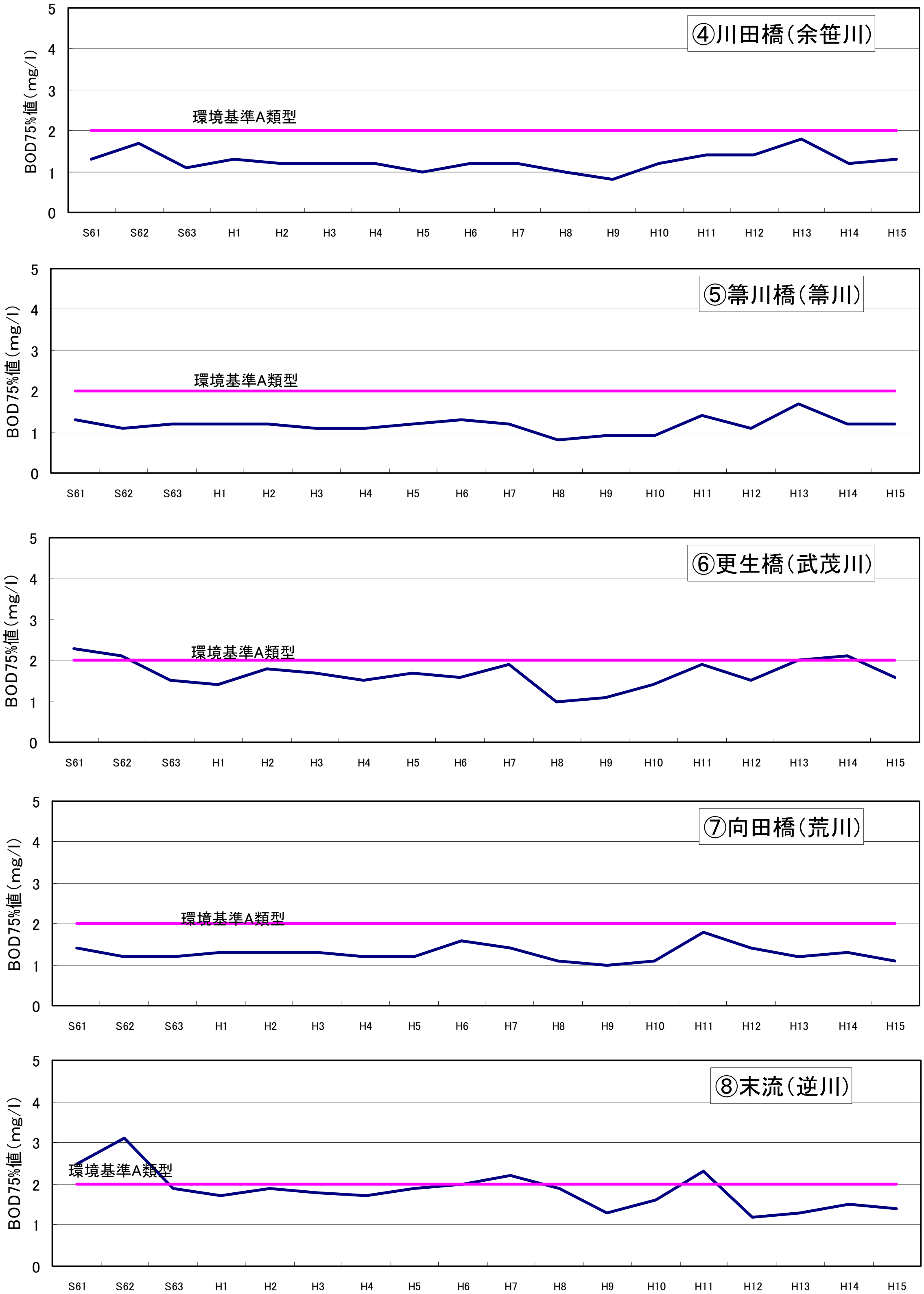
那珂川本川の観測値は全観測期間を通じて、概ね環境基準を満足する値を示しているが、桜川や涸沼、涸沼上流の涸沼川の観測地点では環境基準を超過する値で推移しており、水質改善に取り組む必要がある。



※①～③の地点は図 6-1 の地点

図 6-2 (1)　各水質調査地点における水質経年変化（那珂川本川）

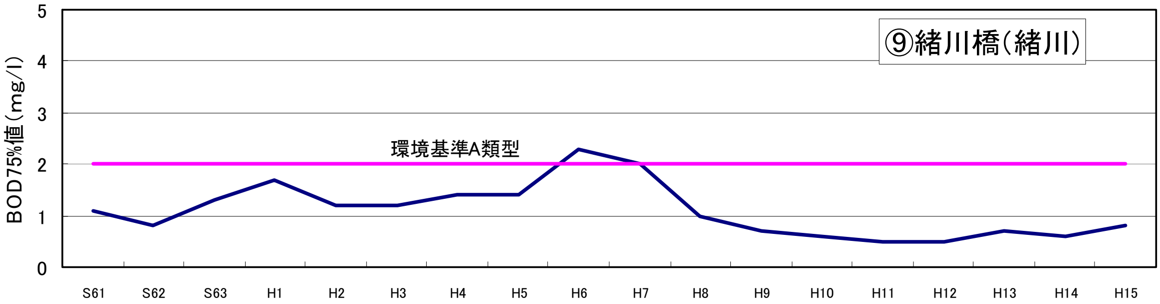
※赤字の地点は直轄管理区間、黒字の地点は指定区間。直轄管理区間は常陸河川国道事務所のデータ、指定区間は公共用水域水質データを用いて作成。

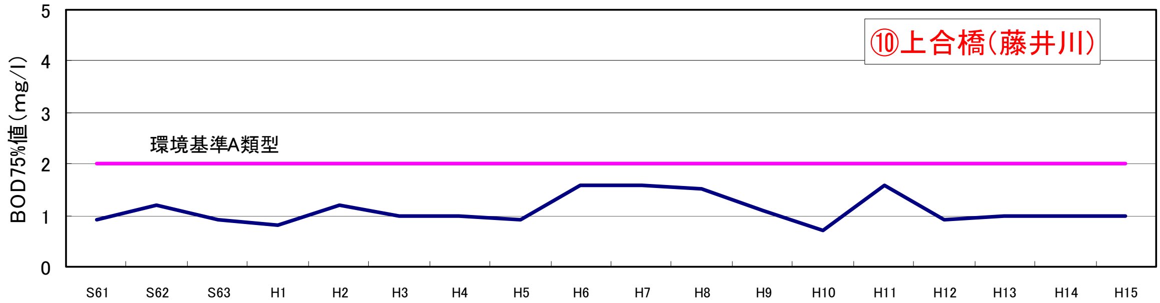


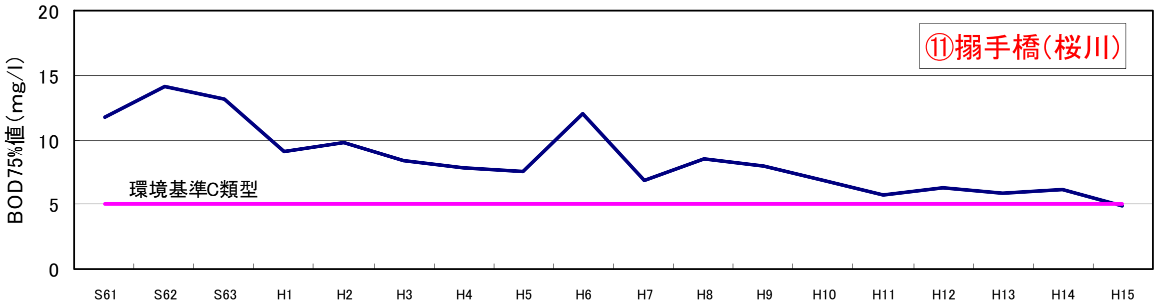
※④～⑧の地点は図 6-1 の地点

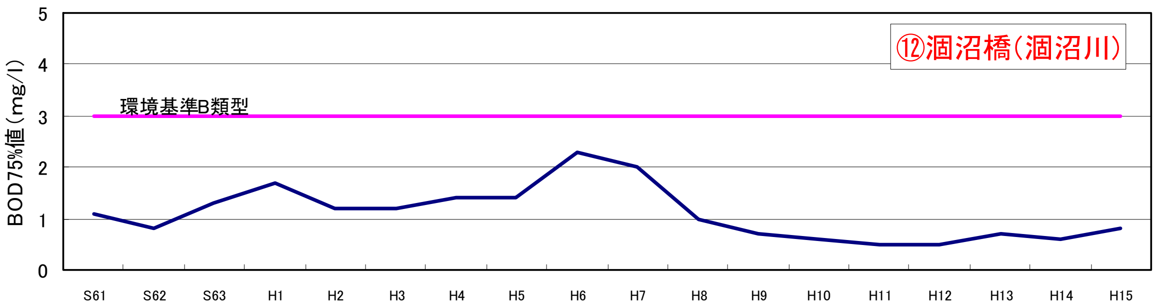
図 6-2（2）　各水質調査地点における水質経年変化（那珂川支川-栃木県内）

※赤字の地点は直轄管理区間、黒字の地点は指定区間。直轄管理区間は常陸河川国道事務所のデータ、指定区間は公共用水域水質データを用いて作成。







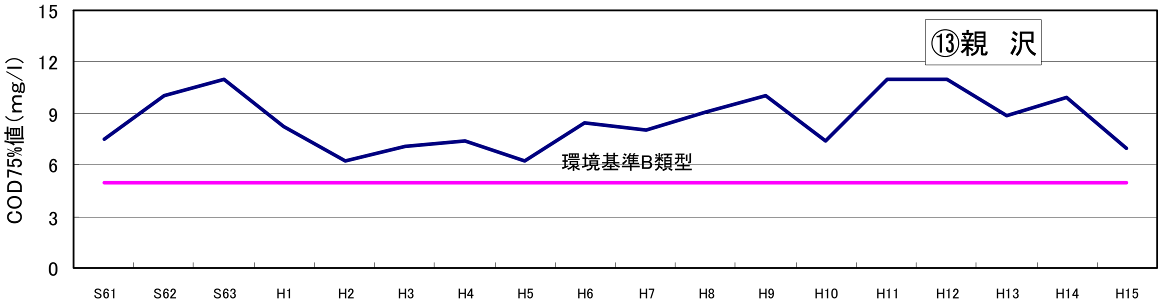


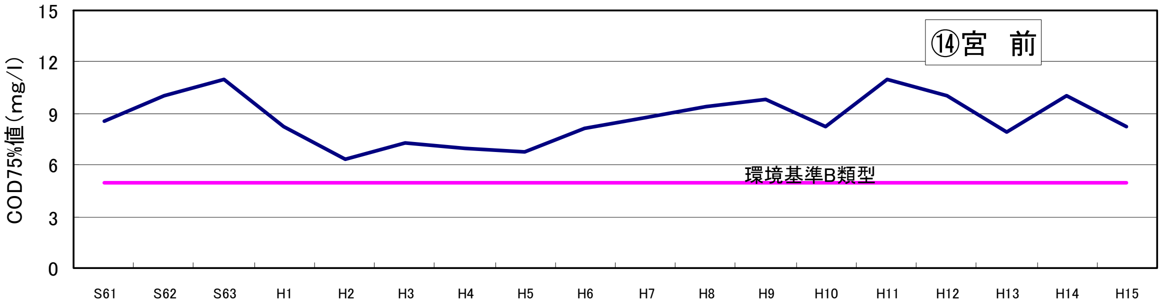
※⑨～⑫の地点は図 6-1 の地点

図 6-2（3） 各水質調査地点における水質経年変化（那珂川支川-茨城県内）

※1. 赤字の地点は直轄管理区間、黒字の地点は指定区間。直轄管理区間は常陸河川国道事務所のデータ、指定区間は公共用水域水質データを用いて作成。

※2 桜川の環境基準点は駅南小橋地点であるが、平成 10 年観測開始と観測期間が他の河川に比べ短期間であるため、桜川では一般基準点（補助）の搦手橋地点を採用した。





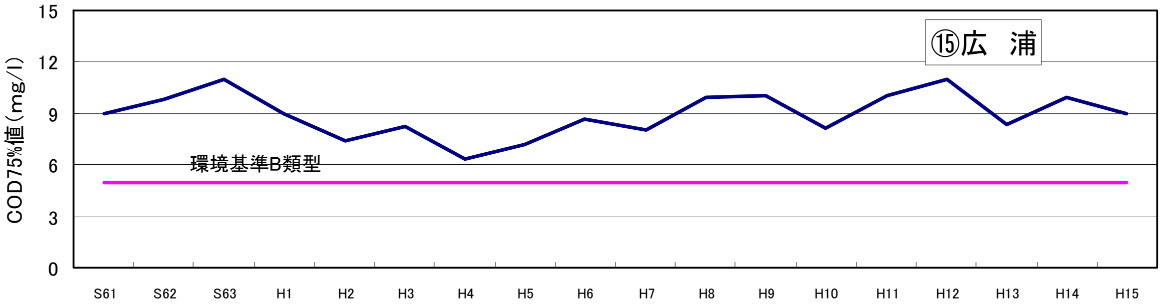


図 6-2（4）　各水質調査地点における水質経年変化（涸　沼）

※赤字の地点は直轄管理区間、黒字の地点は指定区間。直轄管理区間は常陸河川国道事務所のデータ、指定区間は公共用水域水質データを用いて作成。

7.　河川空間の利用状況

関東地方で那珂川はアユが多く生息する川として良く知られており、6月の解禁にあわせて多くの釣り客がアユ釣りを楽しむために訪れている。7月になると那珂川上流から中流の各地では観光やなが設置され、川辺では獲れたてのアユに舌鼓を打つ観光客の姿が多く見られる。

▲アユ釣りを楽しむ釣り人（那須烏山市）

▲那珂川中流に設置された観光やな（茂木町）

また、那珂川の上流から中流の流れのはやい区間ではカヌーの利用が盛んであり、沿川のみならず他県からの利用者も多く、川沿いにはカヌースクールもよく見られる。

茨城県カヌー協会では、毎年「那珂川カヌーフェスティバル」を開催しており、茨城県内外の参加者によりスラローム競技やマラソン競技などが行われている。

▲那珂川カヌーフェスティバルの様子（那珂川大橋下流　平成17年10月）

那珂川の下流の広い河川敷には運動場や公園が多く見られ、那珂川や桜川沿いにはサイクリングロードや散策路が整備されており、水戸市等の沿川住民にスポーツや、散策の場として広く利用がされている。また河口付近には、海釣りを楽しむ人が多く見られる。

▲河川敷のグラウンド（水戸市）

▲河口付近で海釣りの様子（大洗町）

(1)　河川の利用実態

平成 4 年度から行われている河川空間利用実態調査によると、那珂川の河川利用は散策や釣りを楽しむ人が多く、水際や高水敷で楽しむ人が多いという結果が得られている。平成 15 年度調査では那珂川水系の直轄管理区間では、年間の全体的な利用者は約 110 万人で、河川の利用回数は沿川市町村の人口（平成 12 年度国勢調査）から見ると、平均 1.74 回/年程度である。

表 7-1　那珂川水系の利用形態別利用者数の変遷（直轄管理区間）

（単位：千人）

	スポーツ	釣　り	水遊び	散策等	合　計
平成 4 年度	200	593	608	638	2,040
平成 5 年度	77	624	228	501	1,430
平成 9 年度	63	526	332	871	1,792
平成 12 年度	88	380	201	322	991
平成 15 年度	153	327	257	373	1,110

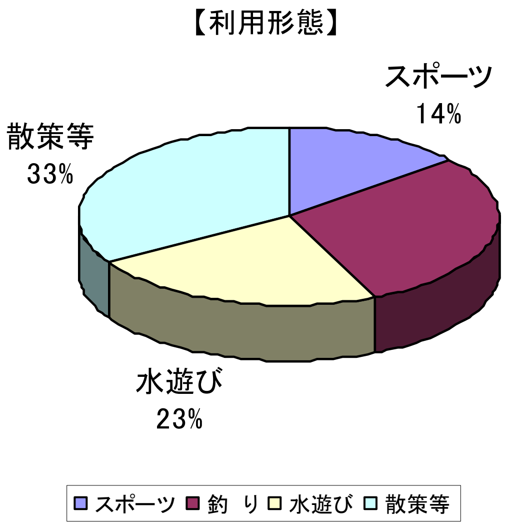
（出典：常陸河川国道事務所資料）

表 7-2　那珂川水系の利用場所別利用者数の変遷（直轄管理区間）

（単位：千人）

	水　面	水　際	高水敷	堤　防	合　計
平成 4 年度	263	938	586	253	2,040
平成 5 年度	249	603	423	156	1,430
平成 9 年度	322	536	782	152	1,792
平成 12 年度	93	486	356	53	989
平成 15 年度	187	397	430	97	1,110

（出典：常陸河川国道事務所資料）



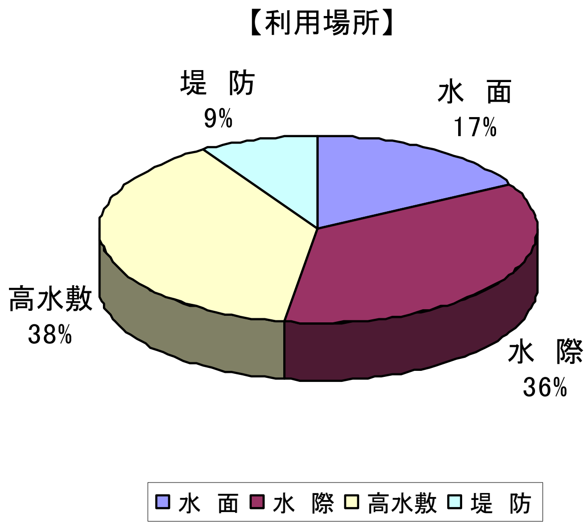


図 7-1　那珂川水系の利用形態・利用場所別利用者数の割合（直轄管理区間　平成 15 年度）

(2)　内水面漁業

那珂川の内水面漁業における主な漁業対象は、アユ、サケ、ウグイ、シジミである。漁獲量の実態は表 7-3 のとおりである。アユやシジミの漁獲量については減少傾向にある。

那珂川ではアユやサケの人工放流が行われており、サケの人工孵化・放流については、明治 10 年にわが国最初に行われ、現在に至っている。下流域の涸沼及び涸沼川では減少するシジミの漁獲量に対応すべく、平成 13 年からシジミ稚貝の養殖、放流を始めている。

▲サケの稚魚放流の様子
（出典：環境いばらき－茨城県 HP）

表 7-3　那珂川の内水面漁獲量

（単位：t）

	ｻｹ	ﾆｼﾞﾏｽ	ヤマメ	イワナ	アユ	コイ	フナ	ウグイ	ｵｲｶﾜ	シジミ
昭和51年	10	11	2	0	500	47	28	714	12	3,615
昭和52年	14	9	2	0	687	62	39	774	20	3,620
昭和53年	20	9	2	0	564	66	41	833	22	3,609
昭和54年	23	11	3	0	595	77	43	805	22	3,559
昭和55年	33	13	7	1	509	116	54	546	24	2,111
昭和56年	18	4	7	2	522	130	44	449	23	2,116
昭和57年	39	4	8	2	590	136	42	442	22	2,166
昭和58年	57	4	9	2	648	142	41	444	26	2,164
昭和59年	95	12	7	2	487	133	38	314	18	1,951
昭和60年	84	19	7	1	352	120	32	183	19	2,012
昭和61年	44	31	7	1	653	105	34	200	17	2,009
昭和62年	55	37	8	1	742	84	24	192	11	1,501
昭和63年	61	34	8	3	623	82	25	182	9	1,649
平成元年	63	36	10	2	745	84	25	183	10	1,662
平成2年	73	48	11	2	814	93	27	194	11	1,614
平成3年	60	59	11	3	722	84	25	181	10	2,156
平成4年	49	61	12	3	1,004	97	27	159	10	2,182
平成5年	39	63	15	3	857	113	27	172	10	2,182
平成6年	27	65	18	4	1,001	128	22	178	10	2,060
平成7年	112	68	20	5	1,493	143	21	199	10	2,067
平成8年	91	71	26	12	1,145	149	18	200	10	1,853
平成9年	75	64	28	13	998	152	18	220	10	2,102
平成10年	97	58	31	16	779	148	16	214	9	2,053
平成11年	107	45	25	13	742	130	14	151	8	1,300
平成12年	74	53	25	12	457	118	11	114	7	1,269
平成13年	142	14	26	17	534	80	7	103	7	1,145
平成14年	192	14	25	16	671	84	9	79	6	1,377

（出典：農林水産省　漁業・養殖業生産統計年鑑）

8.　河道特性

8-1　河道特性

那珂川の河道特性について上流部、中流部、下流部に分けて説明する。

また、那珂川直轄管理区間の現況河道縦断面図を図 8-1 に示す。

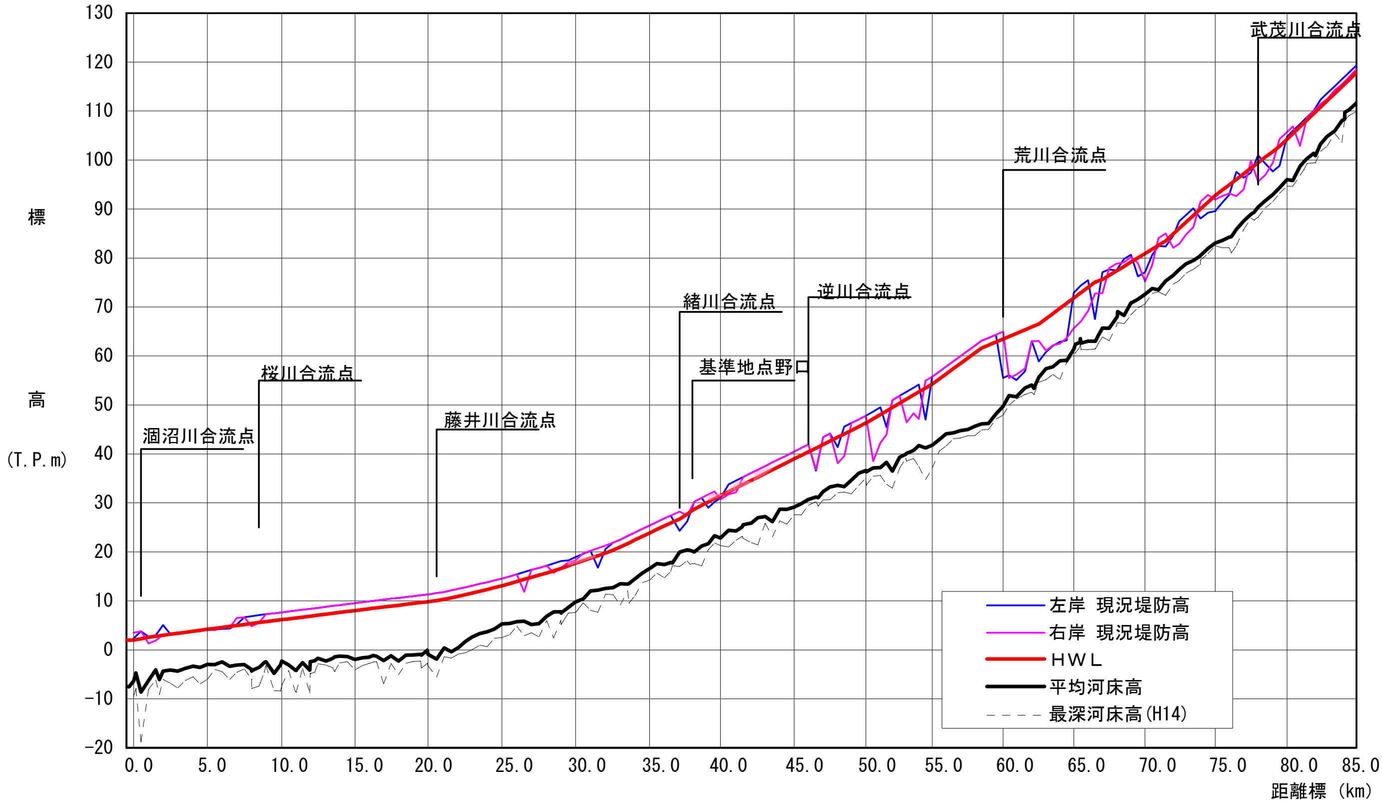


図 8-1　那珂川現況河道縦断面図（直轄管理区間）

(1)　上流部（源流～箒川合流点）

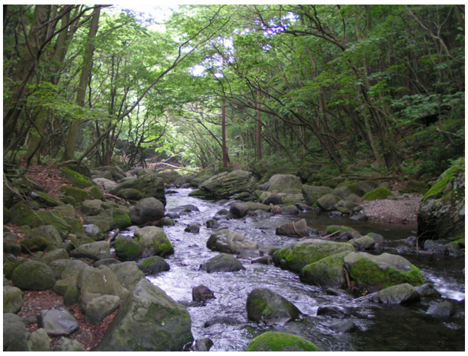
上流区間は、水源からＶ字渓谷の急流を流れる源流区間と那須野ヶ原扇状地の中を浸食し流下する区間の 2 つに分けられる。

①　源流区間

那須岳を水源とし、Ｖ字渓谷の中を流れる急流の渓谷区間で、日光国立公園に指定されている区間であり、渓谷を流下していることから、河川周辺の土地利用はほとんど見られない。

河床勾配は 1/80 以上で、河床材料は代表粒径 30cm の巨石で構成される。

源流部の河道の様子（那須塩原市阿久土）



源流部にある支川沢名川の様子

②　那須野ヶ原扇状地区間

那須野ヶ原の火山性台地を浸食した幅広い掘り込み河道を流れる区間である。両岸には斜面林が見られ、台地の上には農地が点在する。一部河川敷の広い区間には公園やキャンプ場が見られる。

河床勾配は 1/100～1/300 で、河床材料は代表粒径 5～15cm の中・大石で構成される。

昭明橋付近より上流を望む

那須疏水公園周辺の河道

(2)　中流部（箒川合流点付近～城里町上泉地先）

中流部は、八溝山地の横を平行に流れる区間、八溝山地を浸食してできた渓谷の中を流れる区間、瓜連丘陵や友部丘陵等の台地・丘陵地の中を流れる区間の 3 つに分けられる。

①　山間区間【箒川合流点（85.5ｋ）~荒川合流点（60.5ｋ)】

八溝山地に沿って盆地の中を流下する区間であり、川の中は早瀬と淵が連続している。

川沿いの低地は主に水田として利用されており、川から離れた台地上の土地などが住宅地や幹線道路として利用されている。河道は部分的に築堤されている。

川の周辺は八溝県立自然公園として指定されるなど自然豊かな場所である。

川幅は 150～600m、河床勾配は 1/330～440 で、河床材料は代表粒径 29～30mm の砂・礫で構成される。

85.0km の河道の状況（箒川合流点付近）

63.5km 付近の河道の様子

②　狭窄区間【荒川合流点（60.5ｋ）～新那珂川橋（46.5ｋ)】

八溝山地を横断し、崖地の深い谷の中を流れる区間であり、崖地の中を流下する区間であることから土地利用は少ないが、川にアクセスが容易な場所では観光やなが設置され、アユ釣りが盛んである。川の周辺は那珂川県立自然公園に指定されるなど、自然豊かな場所である。

川幅は 120～440mと狭く、河床勾配は 1/770 で、河床材料は代表粒径 25mm の砂・礫で構成される。

55.0km 付近の河道の状況

50.0km 付近の河道の状況

③　台地・丘陵地区間【新那珂川橋（46.5ｋ）～城里町上泉地先（27.5ｋ）】

台地・丘陵地に挟まれた区間を流下し、川幅は広い。両岸には河岸段丘と斜面林、広い河原が特徴的な景観を持ち、川の中は砂州、瀬と淵による変化に富んでいる。沿川は常陸大宮市や城里町であるが、この市街地や幹線道路は台地や丘陵地の上にある。

川幅は 200～650m、河床勾配は 1/770 で、河床材料は代表粒径 25mm の砂・礫で構成される。

37.0km 付近の河道の状況（御前山周辺）

33.0ｋｍ付近の河道の状況

(3)　下流部（城里町上泉地先～河口）

那珂台地、東茨城台地を削ってできた河岸段丘の間を流れ、台地の間は沖積平野となっており、水戸市をはじめとする市街地が発達している。

①　自然堤防区間【城里町上泉地先（27.5ｋ）～河口（0.0ｋ）】

低地の自然堤防が発達している区間であり、水戸市の中心地で大きく蛇行し、河口から桜川合流点までは緩やかに蛇行する。.

川幅は 200～600m、河床勾配は 1/1,000～7,000 で、河床材料は代表粒径 0.40～0.25mm の細礫、砂、シルトで構成される。

8.0km 付近の河道の状況

5.0ｋｍ付近の河道の状況

9. 河川管理の現状

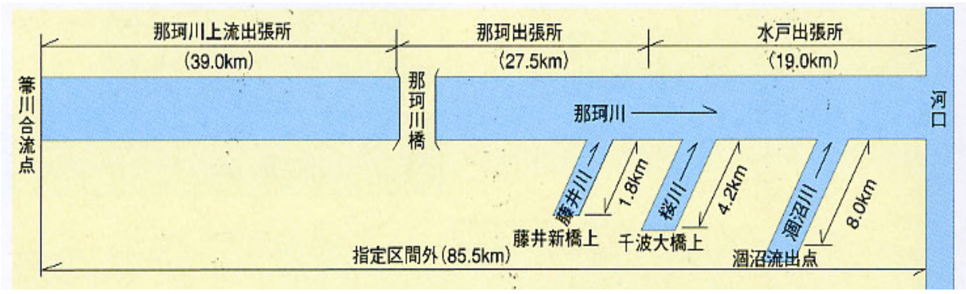
那珂川水系においては、洪水等による災害の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全の観点から日々の河川管理を行っている。

那珂川水系について、直轄管理区間とその延長は表 9-1、図 9-1、指定区間の河川数および管理区間延長は表 9-2 に示すとおりである。

表 9-1 那珂川水系直轄管理区間 管理区間延長

河川名	区間		
	上流端	下流端	管理区間延長 (km)
那珂川	箒川合流点	河 口	85.5
涸沼川	涸沼流出点	那珂川合流点（河口より 0.5ｋm）	8.0
桜川	千波大橋	那珂川合流点（河口より 8.7ｋm）	4.2
藤井川	藤井新橋	那珂川合流点(河口より 20.5ｋm)	1.8

図 9-1 那珂川水系直轄管理区間図



（出典：常陸河川国道事務所資料）

表 9-2 那珂川水系の指定区間河川数および管理区間延長

	河川数	管理区間延長 (km)
茨城県	65	375.7
栃木県	132	1,029.8

9-1 河川区域

那珂川水系の直轄管理区間における河川区域の内訳を表 9-3 に示す。低水路は 45%、堤防敷は 6%、高水敷は 49%となっている。民有地は 17%でありそのほとんどが高水敷である

表 9-3 那珂川水系直轄管理区間の管理区域面積

（単位：千 m³）

	低水路（1 号地）			堤防敷（2 号地）			高水敷（3 号地）			合 計		
	官有地	民有地	不明地	官有地	民有地	不明地	官有地	民有地	不明地	官有地	民有地	不明地
那珂川	11, 404	653	0	1, 035	383	0	9, 498	3, 548	324	21937	4584	324
涸沼川	727	0	0	27	0	0	94	324	0	776	324	0
桜 川	74	0	0	150	0	0	94	0	0	318	0	0
藤井川	31	0	0	60	0	0	62	74	0	153	74	0
合 計	12, 236	653	0	1, 272	383	0	9, 676	3, 946	324	23, 184	4, 982	324

（出典：常陸河川国道事務所資料）

9-2　河川管理施設等

(1)　河川管理施設

那珂川水系の直轄管理区間における河川管理施設は、堤防護岸等の他、水門 4 箇所、樋門樋管 49 箇所があり、これらの河川管理施設の状況を把握し、適正な処置を講じるため、河川の巡視、点検を行っている。

直轄管理区間における堤防整備状況と河川管理施設について以下に示す。

表 9-4　那珂川水系直轄管理区間　堤防整備状況

管理区間延長 (km)	堤 防 延 長 (km)					
	完成堤防	暫定堤防	未施工区間	小計	不必要区間	合計
99.5	48.0	15.5	51.5	115.0	77.9	192.8
比　率	41.7%	13.5%	44.8%	―	―	―

（出典：常陸河川国道事務所資料）

表 9-5　河川管理施設一覧表（直轄管理区間）

種　別	那珂川	涸沼川	桜　川	藤井川	合　計
水門	3	0	0	1	4
樋門・樋管	33	0	12	2	49

（出典：常陸河川国道事務所資料）

(2)　許可工作物

那珂川水系の直轄管理区間における許可工作物は、堰・頭首工 7 箇所、水門 2 箇所、樋門・樋管 53 箇所、揚水機場が 5 箇所、橋梁 56 箇所があり、各構造物について河川管理施設と同程度の維持管理水準を確保するよう各施設管理者と協議し、適正な維持管理を行うよう指導している。

表 9-6　許可構造物一覧表（直轄管理区間）

種　別	那珂川	涸沼川	桜　川	藤井川	合　計
堰・頭首工	6	―	1	―	7
水門	2	―	―	―	2
樋門・樋管	47	―	5	1	53
揚水機場	5	―	―	―	5
橋梁	34	4	14	4	56
その他	2	―	1	―	3

（出典：常陸河川国道事務所資料）

9-3　水防体制

(1)　河川情報の概要

那珂川流域内では、雨量観測所 16 箇所、水位・流量観測所 12 箇所を設置し、光ファイバーや無線等により迅速な情報収集を行うとともに、これらのデータや洪水予測システムを用いて洪水予報や水防警報を発表している。また常に出水の状況等を監視するため、河川管理上重要な箇所には CCTV カメラを設置している。これらの水位・雨量等の災害情報をリアルタイムで情報提供し、迅速かつ的確な水防活動を促すため、関係自治体や放送メディアと光ファイバー接続している。

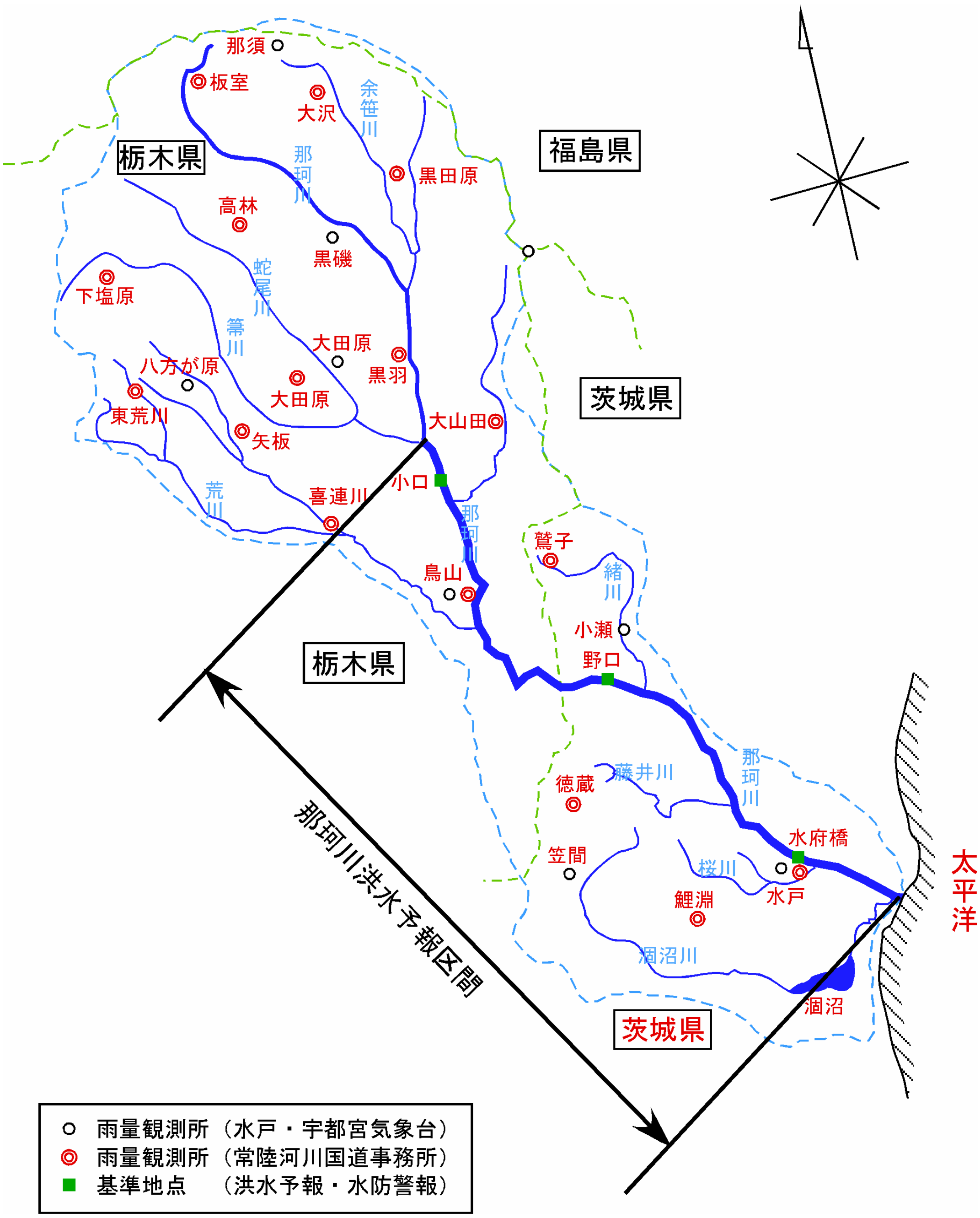


図 9-2　那珂川流域の雨量・水位観測所の位置図

（出典：常陸河川国道事務所資料より作成）

(2) 洪水予報

那珂川は、水防法第 10 条第 2 項及び気象業務法第 14 条の 2 第 2 項の規定に基づき国土交通大臣と気象庁長官が共同して洪水予報を行う「洪水予報指定河川」に指定されている。指定状況を表 9-7 に示す。

表 9-7 那珂川水系に関わる洪水予報指定状況

河川名	実施区間	基準地点	担当官署名
那珂川	左岸：栃木県大田原市矢倉字下河原 3 番の 1 地先 から海まで 右岸：栃木県大田原市佐良土字野島 2835 番地先	小　口 野　口 水府橋	常陸河川国道事務所 水戸地方気象台 宇都宮地方気象台

（出典：常陸河川国道事務所資料）

(3) 水防警報

那珂川には水防警報対策対象水位観測所が小口、野口、水府橋の 3 箇所設置されている。

洪水による災害が起こる恐れがある場合に、水防警報対策対象水位観測所の水位をもとに、水防警報を通知している。

表 9-8 水防対策対象水位観測所

観測所	所在地	指定水位（m）	警戒水位（m）	危険水位（m）	計画高水位（m）
小　口	栃木県那須郡那珂川町小口	4.00	5.00	5.00	9.55
野　口	茨城県常陸大宮市野口	2.50	3.50	4.00	7.37
水府橋	茨城県水戸市水府町	3.00	4.00	7.50	8.15

（出典：常陸河川国道事務所資料）

(4) 水位情報周知河川

那珂川の支川藤井川、桜川及び涸沼川は、水防法第 13 条の規定に基づき、国土交通省が特別警戒水位を定め、水位がこれに達したとき、水防管理者に通知している。

表 9-9 水位情報周知河川

河川	区　間	基準地点	特別警戒水位（m）
藤井川	左岸：水戸市藤井町地先 から幹川合流点 右岸：水戸市飯富町地先	野口	4.00
桜　川	左岸：水戸市桜川 1 丁目地先 から幹川合流点 右岸：水戸市中央 2 丁目地先	水府橋	6.90
涸沼川	左岸：東茨城郡茨城町大字下石崎地先 から幹川合流点 右岸：東茨城郡大洗町神山町地先	水府橋	7.30

（出典：常陸河川国道事務所資料）

9-4　危機管理に対する取り組み

(1)　水防関係団体との連携

那珂川における水害を防止または軽減するために、水防関係団体とともに、水防資材の備蓄や水防訓練・情報伝達訓練及び重要水防箇所の巡視・点検を行っている。

▲平成 10 年 8 月洪水時の水防活動

▲　水防訓練（五徳縫い）

(2)　水質事故防止の実施

那珂川における近年の水質事故の発生状況は下表のとおりである。水質事故の件数は増加傾向にあり、水質事故の中では油等による流出事故が頻繁に発生している。

表 9-10　那珂川水系の水質事故発生件数（直轄管理区間）

年　度	発生件数
平成 7 年度	0
平成 8 年度	1
平成 9 年度	5
平成 10 年度	3
平成 11 年度	6
平成 12 年度	9
平成 13 年度	9
平成 14 年度	8
平成 15 年度	16
平成 16 年度	18

（出典：常陸河川国道事務所資料）

那珂川では水質汚濁対策に関して、国土交通省，関係都県，政令指定都市および水資源機構等の関係機関をもって設置された「関東地方水質汚濁対策連絡協議会」に所属している。同協議会では水質事故対策訓練を主催し．水質の実態把握と汚濁過程の究明，防止対策の樹立、情報の交換を行っている。

さらに沿川自治体と協力し、水質の監視や情報の交換、水質汚濁防止のための啓発活動を行い、水質事故発生防止や水質事故の早期解決に努めている。

(3)　洪水危機管理への取り組み

洪水時の被害を軽減するために氾濫区域や避難経路、避難場所等について日ごろから地域住民に周知するなど、住民の水害に対する意識を啓発することが必要である。

この取り組みの一環として那珂川では、洪水時の浸水想定区域とその際の水深を記した「浸水想定区域図」を作成し、平成 14 年 6 月から公表している。

平成 17 年 5 月には水防法改正により、沿川市町村には浸水想定区域内の住民に対し、地域防災計画に定められている浸水想定区域、洪水予報の伝達方法、避難場所、災害時要援護者が主に利用する施設の名称や住所等を記した洪水ハザードマップを作成し、印刷物等の配布が義務付けられた。

那珂川流域において洪水ハザードマップを公表している市町村は表 9-11 に示すとおりである。

表 9-11　那珂川流域の洪水ハザードマップ公表市町村

（平成 18 年 1 月現在）

県	市町村名	対象河川
茨城県	ひたちなか市	那珂川
	水戸市	那珂川
栃木県	那須塩原市	余笹川、黒川、四ツ川
	那須町	余笹川、黒川、四ツ川

（出典：栃木県土木部　とちぎの河川、茨城県土木部　いばらきのかわ）

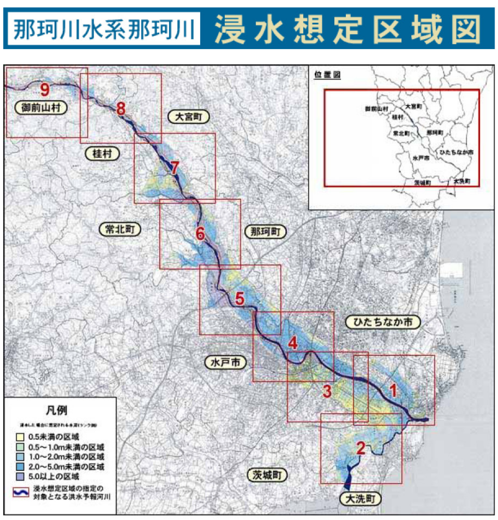


図 9-3 那珂川水系浸水想定区域図

（出典：常陸河川国道事務所ＨＰ）

図 9-4 ひたちなか市洪水ハザードマップ

（出典：ひたちなか市ＨＰ）

(4)　火山活動の監視

那珂川源流部の茶臼岳（那須岳）は、最も古い記録で 1404（応永 11）年に噴火して以来 8 回噴火し、現在も活動している活火山である。最も新しい爆発は 1963（昭和 38）年 7 月に発生した。

那須岳の噴火による災害（降灰、火山泥流、火山ガス等）を最小限に食い止めるため、栃木県では、「那須岳火山防災マップ」を公表し、災害発生が想定される区域や避難場所等についても地域住民に周知している。

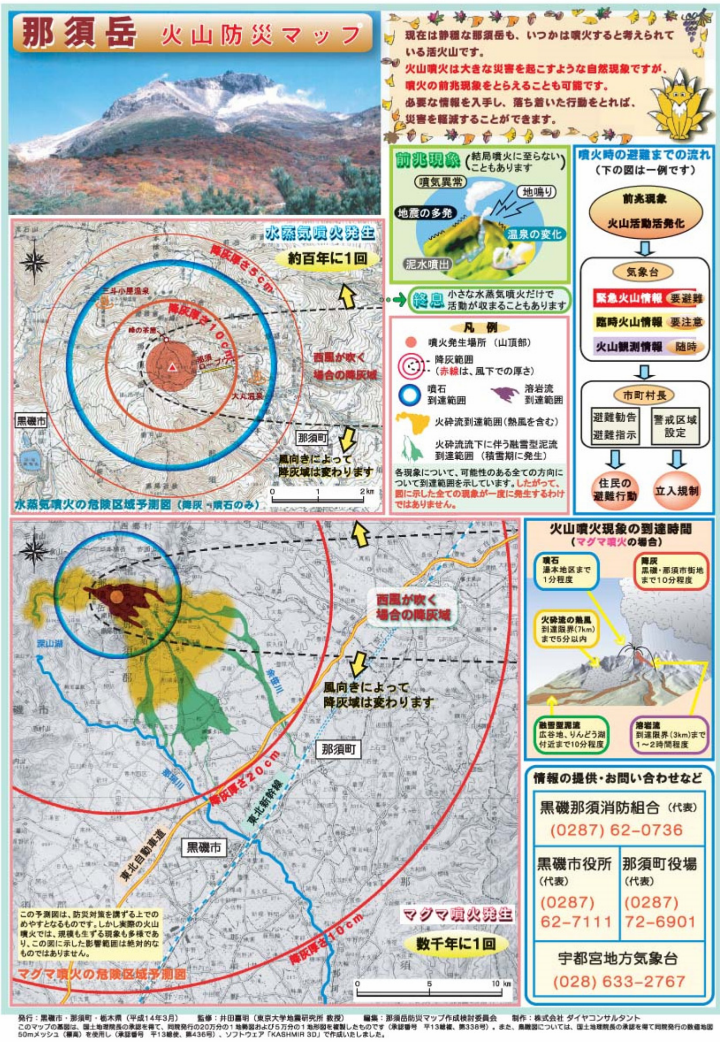


図 9-5　那須岳火災防災マップ

（出典：栃木県、那須塩原市）

(5)　地震への対応

那珂川流域は、内閣中央防災会議における「南関東地域直下の地震により著しい被害を生じる恐れがある地域」に隣接している地域であり、また活火山である那須岳を水源としていることから、大規模な地震への対応が必要な地域である。このような状況から河川管理施設等の耐震性について点検等を行っている。

10.　地域との連携

10-1　地域連携を巡る動き

那珂川では、河川を基軸とした地域づくりや河川をフィールドとした地域活動が行われるとともに、那珂川の歴史・文化・風土・自然環境を伝える活動や施設等とのネットワークにより地域間の交流が盛んになっている。

(1)　那珂川流域連携協議会

那珂川流域連携協議会は、「那珂川流域の市町村が、流域の風土、文化を活かし、地域の資源を共有、補完し合うことによって、地域の活性化を図るとともに、流域の新たな文化を創造し、より豊かで快適な地域づくりを行うこと」を目的とし、平成 12 年 10 月に那珂川流域関連市町村 16 市町村（当時）の加盟により発足した。

那珂川流域連携協議会では現在、以下のような活動を行っている。

①　川の体験活動の推進

総合的学習の導入により、教育現場での体験活動の重要性が高まってきたことから、那珂川のすばらしさと川の持つ教育力を活かした取り組みを推進するため、市町村教育委員会と連携して、子供たちが水辺体験する「那珂川楽校」の企画実施を行っている。

また、体験学習の際の川遊びの楽しさや危険、川の状況をまとめたガイドブック「川のガイドマップ・手引書」の作成し、川の体験活動の推進を図っている。

図 10-1　那珂川イラストマップ

②　水辺の交流拠点（川の駅）の検討

那珂川流域では、キャンプやカヌー、釣り、自然観察などのアウトドアレクリエーションの拠点や水族館、やな、温泉などの観光施設等も多く、他地域からの来訪者も多く、また子供の体験学習や環境学習の場として川を活用するケースも増えてきており、河川利用者のための休憩施設や川に関する情報整備の必要性が挙げられていた。

こうした状況を踏まえ、既存の水辺拠点施設に休憩機能及び川に関する情報発信機能を持たせた「川の駅」の設置実験を現在 8 箇所で行っている。

図 10-2　「川の駅」配置図

③ 流域ネットワークづくりの推進

流域の交流連携促進に向けて、イベント等における相互参加や川に関わる啓発活動等を流域の協力のもとに行っている。また、官民のネットワーク作りや流域の森林や河川・海などを愛護し清掃活動等を行う地域ボランティアの交流や連携、並びに那珂川の水害等に備え、行政の防災担当を中心とした流域市町村の情報収集等のための連絡網の整備の推進を図っている。

④ インターネットを活用した流域情報の提供

那珂川流域連携協議会では、「那珂川流域情報」というホームページを開設し、流域情報や協議会の活動報告、川の駅の紹介などの情報提供を行っている。

図 10-3　那珂川流域連携協議会ホームページ

10-2　地域連携における取り組み

那珂川流域の地域連携・交流の促進、河川環境保全意識の高揚等を図るため、国土交通省では河川に関する情報の収集・提供、人材育成等の活動、河川環境整備といった地域づくり活動に取り組んでいる。

(1)　河川整備

沿川の市町村と協力し、水辺にある地域の交流拠点作りとして「水辺プラザ」の整備を進めている。那珂川水系では大洗町、水戸市、那珂川町にそれぞれ「水辺プラザ」を設置し、親水護岸や堤防上の遊歩道等、親しみやすい水辺づくりを行っている。

▲大洗水辺プラザ（大洗町）

▲小川水辺プラザ（那珂川町）

(2)　河川に関する情報の発信

地域の魅力と活力を引き出した交流活動を推進するため、パンフレットやインターネットのホームページ等による河川に関する情報を幅広く地域に提供し、情報交換の促進を図っている。具体的な例として那珂川や久慈川の地域情報や川に関わる歴史・文化や自然環境を紹介している広報誌「久慈川・那珂川見聞録」の発刊や、子供たちが河川に関わる自然環境や歴史・文化について学ぶために役立つ「那珂川・久慈川リバーサイト」等の事例が挙げられる。

▲久慈川・那珂川見聞録

▲那珂川・久慈川リバーサイト

(3)　久慈川・那珂川クリーン作戦

「久慈川・那珂川クリーン作戦」は、国土交通省と久慈川・那珂川沿川市町村と一体となり、沿川住民・河川利用者及び各種ボランティア団体等が自ら行う清掃作業をとおして、河川の環境美化・愛護意識ならびに水質保全に対する一層の意識の向上をめざし、またひとりひとりの「河川を大切にする心」の啓発を図ることを目的とし、毎年「河川愛護月間」である７月の第２日曜日に実施されている。

近年のクリーン作戦の参加人数とゴミ収集量について図 10-4 に示す。

▲ 久慈川・那珂川クリーン作戦の様子

表 10-1　久慈川・那珂川クリーン作戦の参加人数とゴミ収集量の推移

年　度	参加人数（人）	ゴミ収集量（ｔ）
H4	15,350	50
H5	17,375	63
H6	17,453	47
H7	18,662	42
H8	19,842	39
H9	22,723	38
H10	22,910	53
H11	25,258	58
H12	55,286	365
H13	58,709	320
H14	30,417	73
H15	27,304	60

（出典：常陸河川国道事務所資料）

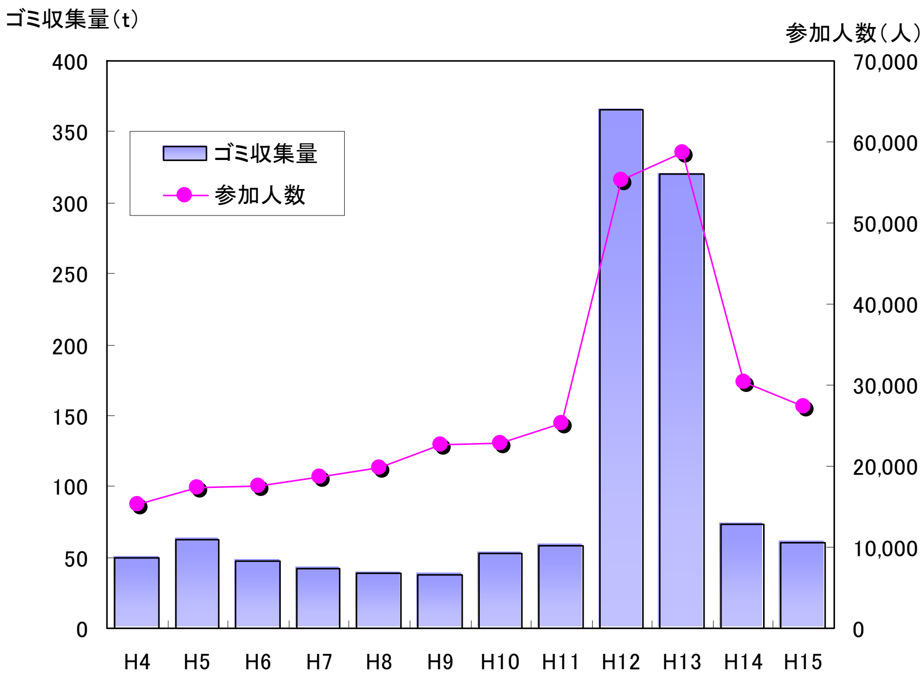


図 10-4　久慈川・那珂川クリーン作戦の参加人数とゴミ収集量の推移